

九州地区大学図書館協議会誌

第 54 号

2011

九州地区大学図書館協議会

目 次

【巻 頭 言】	
「文字・活字文化」の変容と図書館の将来像	富永 猛 1
【寄 稿 論 文】	
大学図書館がPOPで学生に伝えたいこと	
—「まんがで読破」コーナー設置にあたって—	下川 博之 5
佐賀大学における Web サービスのシボレス (Shibboleth) 認証について	
.....	浅岡 宏信 10
プロジェクト IRC	
福岡県立大学における洋書読書コミュニティ創りの取り組み	
.....	水野 邦太郎 13
【加盟館ニュース】	17
【図書館活動報告】	40
【事務局報告】	53
【協議会総会記録】	55
【資 料】	
九州地区大学図書館協議会会則	70
九州地区大学図書館協議会総会運営に関する細則	71
九州地区大学図書館協議会入会に関する細則	72
九州地区大学図書館協議会誌編集に関する内規	76
九州地区大学図書館協議会表彰規程	76
研修会の補助に関する申合せ	81
副幹事館の役割	83
九州地区大学図書館協議会ホームページの運用について	83
加盟館一覧	85
役員館一覧	89
総会当番館一覧	93

「文字・活字文化」の変容と図書館の将来像

富 永 猛

■はじめに：平成23年の1月に九州国際大学図書館の館長に就任して、早いもので、1年近くが経とうとしています。本学の規定により、館長は、付設の教育情報ネットワークセンター（NWCと略）の長をも兼務する形になっており、図らずも伝統的な活字文化の集積庫である図書館と、日々進化しつつある新たな電子情報（非活字）文化・IT情報の基地ともいえるNWCの双方を管理する立場に身を置くことになりました。そして、これまで、一人の研究・教育をする立場で同施設を利用する側の外部の人間として眺めてきた図書館やNWCが、内部から見ると全く別物に映るようになりました。そこでは、社会的存在としての大学が、否応なく社会の進化・変容の波に晒されるのと同様に、（或いはそれ以上の激しさとスピードで）図書館という存在が、新たな教育ニーズや社会・文化の波に晒される中で、「大学図書館とは如何にあるべきか?」、「その存在意義・役割は?」という難問に答えを迫られ、絶えず自己変容を迫られる、極めて動的でセンシティブな姿に映りはじめました。当面、図書館は、新たなNWCとの共存・棲み分けを図りながら、それとの動的なバランスを保ちつつ図書館としての存在意義を模索していくこととなります。以下では、折角の機会でもありますので、本学の図書館のプロフィールを素描した後、大学図書館の現状と問題点、さらにIT社会化、電子情報化のウネリの中での「活字文化」

の将来や、さらに将来の大学図書館像等について若干の思いを記したいと考えます。

■本学の図書館・NWCのプロフィール：

本学の図書館は、八幡東区平野の九州国際大学キャンパスの中心（ヘソ）に位置する5階建てのメディアセンターの2階から5階（1階がNWC）に納まっています。その歴史は本学の歴史とともに歩んできました。本学は、昭和5年創立の九州法学校の時代から専門学校時代を経て、昭和25年に新制の八幡大学としての実質的な第一歩を踏み出します。その新制大学への申請時に、大学設置審議会における図書館の蔵書基準である15,000冊を揃えるに際して、（旧）八幡製鉄から8,000冊に及ぶ図書の借入をはじめとして相当の苦労があったようです。その後も、洋書蒐集面で、カーネギー平和財団やニューヨーク公立図書館から計120万円相当の法律専門洋書が寄贈されるなど、多くの外部支援を得て「大学の象徴」としての図書館は成長していくこととなります。八幡大学時代では、枝光の犬川ヶ丘に昭和42年に完成した新図書館が特筆されます。当時、最も機能的と評され、「九州地区のモデル図書館」でもあった同図書館は、地下1階、地上4階の構造で、最上階にはスライド、16ミリ、テープ・デッキ等が利用可能な視聴覚教室を備えていました。本学は、平成元年に「九州国際大学」へと校名変更するとともに、平野地区に新たに国際

商学部を開設し、平成6年には法経学部の法学部・経済学部への改組に踏み切ることにありますが、図書館の蔵書数も徐々に充実し、昭和54年には、法律書44,366冊、経済・経営関係46,895冊、一般教養52,084冊の計143,345冊に達し、平成7年には、枝光の本館(276,108冊)と平野分館(33,898冊)を合わせると計31万冊を超えるに至ります。その後、平成12(2000)年には、創立50周年を記念して現在の平野キャンパスが完成して、3学部が当地に統合され、これにともない現図書館も新設されて、施設(図書群)の大移動が行われました。

現在の図書館は、メディアセンターの2階以上の延床面積4,346㎡のスペースを占め、蔵書数は、和洋合わせて約44万冊(開架図書が約10万冊)で、3,399種の和洋雑誌類を揃えています。蔵書構成としては、本学が社会科学系の3学部より構成されている関係で、法律・経済・経営・国際関係、等の“社会科学分野”の図書に比重が置かれていますが、近時は、“人文科学分野”や“自然科学分野”の図書の整備にも力を入れ、蔵書のバランス保持に努めています。中には、新日本製鉄(旧八幡製鉄)資料室から寄贈された「製鐵文庫」(13,218冊)や、関係者から寄贈の「高本文庫」、「瀬戸山文庫」等(13,734冊)の特色のある蔵書も含まれています。同施設内の各階には検索コーナーがあり、閲覧用パソコン端末が設置され、オンライン・データベースが検索できるほか、450余の閲覧席が準備されています。2Fにはレファレンス・サービスカウンター、AV(視聴覚)コーナー(CD、LD、DVDプレーヤー33台、等が配されている)、判例コーナー、参考図書コーナー、ブラウジング・コー

ナー、新聞・雑誌コーナー、インターネットカフェが、3Fにはグループ自習室、4Fには書庫、研究個室、自習室等が、5Fには書庫、選書室、マイクロ室、印刷製本室、会議室等の諸施設が配されています。開館時間は、直近までは、(大学院院生への対応やFB〈夜間主〉コースの存在もあって)平日で9時10分開館、22時閉館(土曜日は18時閉館)と比較的長めとなっていました。この秋から、諸般の事情から、暫定的に(来年3月末まで)月・水・金曜日の3日間は21時20分閉館という新たな体制で臨んでいます。平成21年度のデータでは、開館総日数:281日、開館総時間数:2,890時間となっており、この数字は、本館が、研究・教育、勉学の基幹施設として稼働している実態を物語っています。

他方、図書館の利用の方ですが、ユーザーの中心は本学の教職員、院生、学部の学生・研究生等が中心となる一方、一般の「市民」にも広く門戸を開いています。それは、1FのNWCの(インターネット利用の)システムカフェも同様に、パスワード付きのゲストアカウントを発行してその利用の道を開いています。図書館・NWCの市民への開放というこの傾向は、決して新しいものではないものの、市民の生涯教育や大学図書館の社会的還元化・貢献の要請に沿うものです。今後、市民の更なる利用の促進を期待しているし、また利用し易いカルチャーセンター的な身近な存在になるべく努力していくつもりです。

■ “活字媒体(文化)”と「電子メディア媒体(文化)」とのセメギアイ:

本学の図書館とNWCからなるメディアセンター全体を管理している立場から、学生諸

君の同センターの利用状況を見ると、これまで普遍的と考えられてきた図書・書籍の価値や位置づけが微妙に（というよりドラマティックに）変化していることに気づかざるをえません。1FのNWC内のシステムカフェが常時満杯なのに対して、2F以上の図書館の方は（常時ではないにせよ）閑散としている風景がここ数年固定化しています。昨今の「活字離れ」の風潮が、IT（情報技術）の進化を背景に「図書館離れ」にまで波及しているのでは、と懸念しています。

これに対して、図書館利用を促すために、各講義やゼミにおいて学生にレポート課題を頻繁に要求したり、講座関連の「選定図書コーナー」をセットしたり、また、大学も、ネット情報やケータイ情報に依存し、“新聞を読まない”学生の急増対策として各新聞社からの新聞の無償配布を受け入れる等の方策を講じています。図書館でも、学生諸君対象に、毎年「選書ツアー」（書籍店巡り）や、「わたしの好きな本～Favorite Book コンテスト～」という感想文コンペを実施し、またLibrary Lovers' ワーキンググループ主催の「図書館が、森になる!? — 育てよう、読書の木 —」のキャンペーンに参加するなど、手を変え、品を変えて図書・書籍への関心を喚起する努力をしていますが、効果は“今ひとつ”の状況です。この部分だけを切り取って見ると、伝統的な“活字媒体”が新興の“電子メディア媒体”にひれ伏しているという図式です。勿論、図書館においても、インターネットの端末を配してオンライン方式での検索システムの導入や視聴覚機器の配置をはじめ、IT技術の力を借りている状況もあり、その部分では両媒体の融合化も一部は進んではいます。しかし、

そこには伝統的な“活字媒体（文化）”と、電子活字、映像（動画）、音声（音楽）等と一体化した“電子メディア媒体（文化）”とのセメギアイがあり、そして進化を加速させてとどまることのない后者のベクトルが前者を静かに、また激しく侵食しつつあるという現実は否定できないところです。

しかして、その行方は？ 図書館の将来は？ ということになりますが、長いスパンで見れば、残念ながら結果は自明のように思われます。平成17年に制定された『文字・活字文化振興法』や、批判の多い書籍・雑誌等の「再販制度」の存在は、タソガレゆく弱者を下支えするものに他なりませんし、現今の出版業界の低迷に対するITメディア関連産業の隆盛という現実も、このことを暗示しています。そう遠くない将来、まだ緒についたばかりの「書籍の電子化」も一気に加速化する可能性もあります。何作目かの【猿の惑星】というSF映画の一場面が登場したと記憶していますが、核戦争によって廃墟化した地中のニューヨーク市立図書館は、書籍全体が電子ファイル化された“知の記憶庫（アーカイブス）”として描かれており、そのような将来の図書館像も絵空事ではないように感じられます。

しかし、数百、数千年という間、人間の文明の営みを記録し、その文化を創造・涵養・伝承するという役割を担ってきた（多様な）“活字媒体（文化）”の重みはかけがえのないもので、それは何者にも代替されえない人間の本質的な部分（自己表現・知的向上本能）と結合しています。人は誰でも、それぞれのライフ・ステージにおいて書籍・図書を中心とする「文字・活字文化」に接触し、その必要性和知的欲求を満たし、

その恩恵に浴してきた経験をもっています。この文化は、人類が「言葉」・「文字」というコミュニケーション・ツールを獲得して、気の遠くなるくらいの時間を経て、漸く“紙（それ以前は、石板<碑>、土塊<粘土>、牛皮、竹・木、パピルス等に刻印されてきた）”と“活版印刷技術”を發明・獲得して以降のもので、しかも知識の階級的な独占が破れ、その一般・民主化が定着した後に誕生したものですから、「教育制度」の敷衍化時期に多少のズレはあるにせよ）、概ね、近代以降において花開いた一大潮流といえます。それは文字どおり、「近代」という時代を画す地球規模での文化のウネリでした。そして、この文化が社会の上部構造としての派生物で、かつ現社会を社会たらしめている根本要素とすれば、IT技術の登場・発展によって、簡単にこの活字文化の全体が電子媒体に取って代わられるとは思えません。【華氏 451】（フランソワ・トリュフォー監督）という 1966 年の古い映画で譬えて言うと、IT 技術という“消防士”によって書籍・活字文化が“焼却処分”（映画では、書籍が知的差別を生む違法なものとして）されてしまうということはありません、またあってはならないと考えています（それは、アナログな活字文化によって育ってきた団塊世代の人間の郷愁かもしれませんが・・・）

確かに電子媒体は、同時性、スピード、大容量性、グローバル・スタンダード性、利便性、経済性、汎用性、等多くの強み・メリットを持っています。例えば、昨年チュニジアの“ジャスミン革命”に端を発し、今年にはいってエジプト、リビア等に波及した「アラブの春」と称される民衆による新たな政治運動の波は、電子情報化社会の

潜在的なポテンシャルを示すものかもしれませんが、また、電子媒体は、経済・社会のグローバル化の推進に不可欠なインフラとさえ言えます。しかし、反面として、匿名性、責任の不在性、一時性、倫理性、無感情性（非人間性）、包括的操作可能性、等の面でのリスクがあり、問題なしとしません。そして、その+・-は、ほぼソックリ活字媒体の-・+に照合します。両者間には非人間的な“記号”と、人間臭い“表意文字”ほどの乖離が認められます。これから、電子媒体（文化）は、歩調を速めながら更なる進化を遂げることが予測されるとしても、そこに胚胎する問題・危険性を直視するとき、手放してその動きを歓迎することには抵抗を感じます。当面は、活字媒体と電子媒体が、それぞれの存在意義と役割・持ち場を確認しつつ、両者間の調和的な棲み分けが模索される時代が続くのでは、という（楽観的な）見方をしています。したがって、図書館は、「永久に」という訳にはいきませんが、「不滅で」あって欲しいと願っています。最後ですが、私は、（PCは仕事の関係でこそ使いますが）ケータイを拒否し、ブログやツイッターにも関心のない絶滅危惧種に近いアナログ系で、本のインクの匂いや、図書館に漂う何とも言えないカビ臭くスエタのような“知識の汗”の匂いが好きな活字系人間の一人です。そのような私が、PCでこの原稿をしたためている姿に、活字文化の将来が透けて見えるような、そんな思いも捨てきれない昨今です。

とみなが たけし
（九州国際大学図書館長）

大学図書館がPOPで学生に伝えたいこと
—「まんがで読破」コーナー設置にあたって—

下川博之

1. はじめに

最近の「大学の図書館」で広報デザインについての特集が組まれていたのを読み、大学図書館でも所蔵資料のアピールに様々な挑戦をしなければならぬ時代が来ていると感じました。[1]その特集の中でPOPのデザインに対する取り組みが紹介されていましたが、ここではPOPの内容—大学図書館はPOPで学生に「何を」伝えるべきかについて、昨年本学図書館に設置された「まんがで読破」コーナーのPOPを具体例として考えてみたいと思います。

「まんがで読破」とは、4年前からイースト・プレス社により出版されている、名作文学をまんが化した文庫シリーズの事です。文学離れ・読書離れが深刻と言われる昨今、その読みやすさから売れ行きは好評のようで、大学図書館でも購入しているところは増えていると思います。本学では昨年の下旬、教員からの要望で新入生向けに同シリーズを18冊（全て海外の小説）購入して、コーナーを設けることになりました。



図1 「まんがで読破」コーナー

2. POPの形式が決まるまで

職員が同シリーズを読んで気になったのは、文学をまんが化するにあたっての底本（原語版を編集者が直接読んでまとめたのか？翻訳版をもとにしたのならいつ・誰が翻訳したものか？）や参考資料はおろか原語の題名すらどこにも書かれていないことでした。

図書館としては、「過去に出された翻訳小説にも目を向けてほしい」これまでに出版された翻訳小説版までさかのぼって読もうとは思わないと思い、本学で所蔵している翻訳小説の一覧（図2）を掲示しようと考えました。

レ・ミゼラブル(Les misérables 1862年)
/ ユゴー (Victor-Marie Hugo 1802-1885年 フランス)

翻訳一覧(他に原語版もあります) 2010年11月26日現在の本学所蔵分

出版年	翻訳者	出版社	翻訳題名/著者名
1927	野島剛志雄	岩波書店	レ・ミゼラブル/ヴィクトル・ユゴー(世界文学全集12-14)
1937	野島剛志雄	岩波書店	レ・ミゼラブル/ヴィクトル・ユゴー(岩波文庫1-7)
1954	高田八郎	別人社	嘆無情/ユゴー(世界名作選集)
1959	斎藤正直	平凡社	レ・ミゼラブル/ユゴー(世界名作全集13)
1967	佐藤朔	新潮社	レ・ミゼラブル/ユゴー(新潮文庫1-5)
1980	井上克一郎	河出書房新社	レ・ミゼラブル/ユゴー(世界文学大系32-34)
1986	塚原亮一	講談社	ああ無情/ビクトル・ユゴー(少年少女世界文学館17)
1987	野島剛志雄	岩波書店	レ・ミゼラブル/ユゴー(岩波文庫1-4)
1989	井上克一郎	河出書房新社	レ・ミゼラブル/ユゴー(河出世界文学全集9-10)

図2 翻訳小説一覧

しかし「ただ一覧を掲示したところで読まれな
いだろう」と考え、本学図書館のキャラクターによる解説を付け足すことにしました。本学図書館には「KIULi(キウリ)くん」(図3、以下「キウリ」と省略)というマスコットキャラクターがおり、これまでも掲示などで使用してきました。[2]

当初は従来通りキウリが一匹でしゃべっているものを考えたのですが、「まんが同様にセリフのやりとりをする絵の方が読まれやすいのでは」と思い、頭の上にコキウリ(キウリを半分に縮小しただけ)を乗せて会話しながら解説をする形にしました。(図3)現在のところ二匹の関係については「親子」「兄弟」「友人」といった設定は定めていません。



図3 KIULi (キウリ) くん

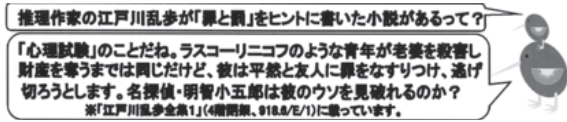


図4 コキウリ (上) とキウリ (下)

ツァラトゥストラかく語りき(原題Also sprach Zarathustra 1885年)
/ ニーチェ (Friedrich Wilhelm Nietzsche 1844-1900年 ドイツ)

翻訳一覧(他にドイツ語版もあります)		2010年11月26日現在の本学所蔵分	
出版年	翻訳者	出版者	翻訳題名/著者名
1929	加藤一夫	春秋社	ツァラトゥストラは斯く語る / ニーチェ(世界大思想全集8)
1960	浅井真男	筑摩書房	ツァラトゥストラはかく語った / ニーチェ(世界文学体系42)
1961	高橋健	河出書房	こうツァラツストラは語った / ニーチェ(世界大思想全集14)
1963	二秋山	新社	こうツァラツストラは語った / ニーチェ(世界思想教養全集8)
1965	英夫		こうツァラツストラは語った / ニーチェ(世界の思想25)
1967	水上英廣	岩波書店	ツァラトゥストラはこう言った / ニーチェ(岩波文庫)
1969	吉沢信三郎	理想社	ツァラトゥストラ / ニーチェ(ニーチェ全集第9巻)
1982	藤田宗人	白水社	ツァラトゥストラはこう語った / ニーチェ(ニーチェ全集第2期第1巻)

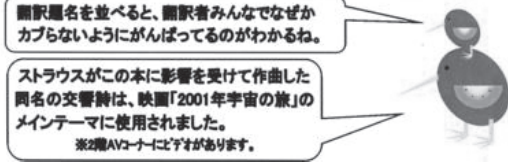


図5 『ツァラトゥストラかく語りき』POP

3. 何を伝えるべきか

最も優先して伝えようと考えたのは「図書館にはまんが以外にもいろいろな資料がある事」「そして、資料は色々なところで関連している事」でした。しかし職員の知識・調査不足からそれに沿った内容の文章が思いつかないものもあり、その場合はその資料をもとに「図書館の使い方」を紹介するようにしました。その方針をもとにどう文章を考えていったか、順を追ってご説明いたします。

3.1 一覧を見て気付いた事

最初に考えたのは、一覧を見てもらうための説明文でした。作成した一覧を見て面白かったのは、翻訳者によって翻訳題名が違うことがあるということです。

例えば『ツァラトゥストラかく語りき』(Also sprach Zarathustra)の場合、本学所蔵の分だけを一覧にした時『ツァラトゥストラは斯く語る』『ツァラトゥストラはかく語った』『こうツァラツストラは語った』『ツァラトゥストラはこう言った』『ツァラトゥストラ』『ツァラトゥストラはこう語った』と、翻訳者ごとに全て微妙に違う題名が並んでいたのです。POPには「翻訳題名を並べると、翻訳者みんななぜかカブらないようにがんばってるのがわかるね。」というコメントをいれました。(図5) [3]

一方『種の起源』(On the origin of species by means of natural selection)では、所蔵検索したところ『種の起原』と『種の起源』とで翻訳題名

が二種類あることに気付きました。当初参考資料やインターネットでははっきりわからず、CiNiiで両方のキーワードを入れて検索したところ、財団法人深田地質研究所理事の瀬戸口烈司氏があまりにもピッタリな内容の論文を4か月前に発表していたことがわかりました。[4]その複雑な事情はPOPの解説文として短くまとめられませんが、そこで書かれた調査過程は学生にも参考になると思ったため、論文の紹介だけを記述しました。

3.2 問題作への注意

同シリーズでは世間的に「問題作」と言われる作品もまんが化していますが、その一つがヒトラーの『わが闘争』(Mein Kampf)です。ご存じのように本国ドイツでは複写・印刷が認められておらず(著作権の保護期間が切れる2015年以降は不明)、まんが化についても国内外から賛否両論出ている事が新聞でも取り上げられていました。[5]本学の所蔵を確認したところ1940、42年に出された翻訳版があることから、それらの本では「アーリア民族のみが文化創造種(一等種)で他の民族(日本含む)は文化追従種(二等種)」という原語版の記述が、政治的事情でカットされた事は学生に知っておいてほしいと思い、解説に入れました。

3.3 文学の解説本紹介

「まんがで読破」シリーズも解説書の一つです

が、これまでも海外の文学を紹介するため、「まんが化」以外の様々な手法がとられていたことを紹介したいと思い、以下の書籍についてはそれぞれ右の解説本を選びました。

- ①『レ・ミゼラブル』(Les Misérables) → 「『レ・ミゼラブル』 百六景:木版挿絵で読む名作の背景」(鹿島茂・著)
- ②『クリスマス・キャロル』(A Christmas Carol) → 『ディケンズ鑑賞大事典』(西條隆雄ほか・編著)
- ③『君主論』(Il principe) → 『君主論:リーダーシップ発揮の極意』(赤塚不二夫・著)
- ④『資本論』(Das kapital) → 『戯曲資本論』(坂本勝・著)、『図解資本論』(越村信三郎・著)
- ⑤『カラマゾフの兄弟』(Братья Карамазовы) → 「謎解き『カラマゾフの兄弟』」(江川卓・著)

①と②は発表当時の挿絵が掲載されており、現代の日本人がイメージしたまんが版と比較してほしいと思い選びました。③はギャグ漫画の大家・赤塚不二夫がビジネスマン向けにまんが化したもので、同じ本でも描く人や読者対象によって変わるものだということがよくわかります。④はそれぞれ1931年、1948年に出版された『資本論』解説本の「変わり種」として、⑤は比較できる挿絵はないものの文学を深読みする面白さが伝わる解説本ということで紹介しました。

3.4 関連する日本の作家の著作紹介

『罪と罰』(Преступление и наказание)の場合は、主人公ラスコーリニコフに似た思想を持つ青年が登場する江戸川乱歩の推理小説『心理試験』を、『神曲』(La Divina Commedia)では北九州の郷土作家・森鷗外が最初に「神曲」という邦題を載せた『即興詩人』(アンデルセン・著)をそれぞれ取り上げました。

3.5 著者にまつわるエピソード紹介

魯迅の『阿Q正伝』については、POPを制作する少し前、服役中の中国人民民主運動家がノーベ

ル平和賞に選ばれ話題になりました。そんな中新聞で「かつて魯迅がノーベル賞候補にあがった」というエピソードが載っており、その話と一緒に根拠とされる本人の書簡が掲載されていた『魯迅選集 第13巻』(魯迅・著、竹内好ほか・訳)を取り上げました。

また、『夢判断』(Die Traumdeutung)については、まんが版が「フロイトの伝記まんが」としか言えない内容になっていたため、その見せ場である「精神分析の先駆者フロイト、ユングの出会いと決別」を詳細に記した『フロイト/ユング往復書簡集』(ウィリアム・マグァイア編、平田武靖・訳)を紹介しました。

3.6 関連する雑誌・新聞記事紹介

関連書籍がみつからなかったものについては、雑誌や新聞の記事を探して取り上げてみました。

『白鯨』(Moby-Dick or the whale) → 「Nature」に載っていた作者メルヴィルにちなんで学名がつけられた36cm以上の歯を持つ古代鯨 Leviathan melville の記事 [6]

『戦争と平和』(Война и мир) → 1965 - 67年に公開されたソ連制作の超大作映画 [7]

3.7 関連する判例紹介

『精神分析入門』(Vorlesungen zur einföhrung in die Psychoanalyse ※まんが版では前述の『夢判断』と一緒にされています。)については、何を解説しようか悩んだあげく、判例検索「LexisNexis」で検索してみたら、たった1件出てきたのが「三芸プロ事件」の判決文でした。簡単に述べると、殺人の主犯(計画・依頼)として逮捕された男が、偶然同部屋になった精神病患者を観察した上で精神鑑定、精神病の本(『精神分析入門』含む)を差し入れさせて勉強し、裁判で精神病のフリをして無罪になった事件です。(後に仮病がばれ、無期懲役になりました。)[8] そういう事件があったことは聞いていたのですが、その時『精神分析入門』が悪用されていたという事は初めて知りました。最初は単に「LexisNexis」

の使用例として紹介するつもりでしたが、このケースは「心理学の悪用」という行為なので、紹介文の先に「時々心理学の棚が読みっぱなしでごちゃごちゃにされてるのを見ると、『この人は心理学をどう使うつもりなのかなあ』とちょっと不安になるね。」という前振りを入れ、紹介した最後に「心理学以前に常識を学ばないとね・・・。」という一言を添えました。

3.8 検索システムの使い方紹介

他大学の図書館所蔵を検索できる Webcat については、どれかを例にして紹介したいと考えていました。

『水滸伝』の場合、本学所蔵を検索していて吉川英二の「新・水滸伝」や栗本薫の「魔界水滸伝」がヒットしたのを見て、他にも「〇〇水滸伝」という本がたくさんあると思い Webcat で検索したところ、700 件以上ヒットしたため、そこから面白そうなもの（「江戸水滸伝」「幕末水滸伝」「昭和 water 滸伝」「戦後水滸伝」「秩父水滸伝」「南海水滸伝」「北海道水滸伝」「女水滸伝」「幻想水滸伝」「忠臣水滸伝」「狂歌水滸伝」「闇市水滸伝」「SF 水滸伝」「爆笑水滸伝」「ザ・水滸伝」「体操水滸伝」「小説将棋水滸伝」「怖くて読めない水滸伝」）を選んで羅列し、学生の目を引こうと考えました。

また『孫子』の場合、CiNii で検索したところ「我孫子」を含む論文まで一緒にでてきた経験をネタに「NOT 検索」で絞り込む方法があることを紹介しました。

3.9 図書購入希望の出し方紹介

何を書くかもっとも悩んだ一冊がドストエフスキー『悪霊』(Бесы) でした。なぜなら、翻訳小説版が本学に一冊もなかったのです(なぜか英語版が一冊のみあった)。悩んだあげく、新入生向けに「図書館にない本があった時どうすればいいか」を書いてはということになり「本を買ってとねだるコキウリに、キウリが図書購入の申し込み方を教える。」という内容にしました。その後行われた選書ツアーで、学生か教員がそれを読ん

だのか、『悪霊』の翻訳本が選ばれていたの、受け入れ後 POP に「買ってあげました」という一文を追加しました。(図 6)

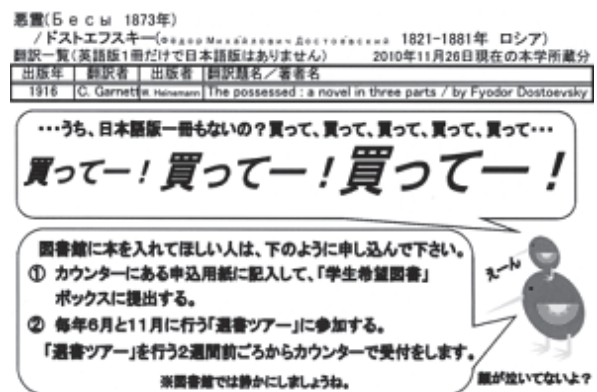


図 6. 『悪霊』POP

3.10 ありきたりなトリビア紹介

結局最後まで残った『失われた時を求めて』(À la recherche du temps perdu) については、内容や関連資料、図書館の使い方まで、どうしても関連するものが思いつかず「14年かけて書かれた長文がしばしばジョークやギャグのネタにされること」を紹介するだけになってしまいました。

4. おわりに

以上が、「文学作品のまんが版18作全てに、図書館を知ってもらうための新入生向け解説文を付ける」という課題に取り組んだ経緯と結果です。結局課題に則した、納得のいく文章を全部で思いつけなかったことは残念でした。またはっきりとは分かりませんが、紹介した関連資料にまで興味を示した学生はそう多くはなかったのではと思います。

しかし今回の課題への取り組みの中で、図書館職員として自館の資料を見直すだけでなく、検索ツールを用いることで思いがけない発見があるという事を実体験する機会を得られたことはよかったと、今回振り返ってみて改めて感じました。

以上、POPのネタを考える過程をただらと羅列した感じになってしまいましたが、何かしら皆様がPOP文章を考える際のご参考になることを願います。

参考文献

- [1] 廣松重矢子, 大学図書館でPOPを作る、POPを使う, 大学の図書館, 30(8), pp.138-140 (2011-08)
- [2] 本学図書館キャラクター「KIULi (キウリ) くん」については以下をご参照ください。
九州国際大学ホームページ KIU ブログ <http://www.kiu.ac.jp/kiublog/2007/11/kiuli.html>
渡辺ゆきの, 図書館キャラクターミニ図鑑 (特集図書館を見せる), 図書館雑誌, 104(4), pp.214-216 (2010-04)
- [3] その後 Webcat で調べたところ、本学で所蔵していない最近の翻訳版 (2001年・柴田耕太郎訳、2008年・生田長江訳) では、まんが版と同じ「ツァラトストラかく語りき」と訳されていたことが分かり、(※ 1951年には佐藤通次が「ツァラトストラはかく語りき」と訳している) はっきりとは言えませんが、まんが化にあたってはこれらが底本にされたのではと思われます。

- [4] 瀬戸口烈司, ダーウィンの著作は『種の起原』か、『種の起源』か, UP, 39(6), pp.18-22 (2010-06)
- [5] 『わが闘争』漫画に賛否 日本で発行、独から苦言, 朝日新聞, 2009/9/2 夕刊, 10面
- [6] The giant bite of a new raptorial sperm whale from the Miocene epoch of Peru, Olivier Lambert etc, Nature 466, pp105-108 (1 July 2010)
- [7] 四部、六時間の大作「戦争と平和」の撮影進む ソ連モス・フィルム, 朝日新聞, 1964/1/5 東京夕刊, 5面
- [8] 事件番号: 昭和40年(う)第2499号【精神分裂病を装っていたことが発覚し、1審の無罪判決が2審で有罪とされた事例】 東京高等裁判所 昭和44年3月26日判決

しもかわ ひろゆき
(九州国際大学図書館)

佐賀大学における Web サービスのシボレス (Shibboleth) 認証について

浅岡宏信

1. はじめに

佐賀大学では、平成 22 年 3 月の稼働システムから学内利用者認証としての総合情報基盤センター ID で、学内の Web サービスが利用できるシボレスによるシングルサインオン (Single Sign-On) の本格運用が始まり、図書館の Web サービス My Library (図書館ポータル) も学内サービスの一つとして当初から運用を開始している。また、国立情報学研究所 (NII) を中心とした学術認証フェデレーション (以下、学認という) とのシボレス認証連携により、大学で契約している電子リソースの一部について学外から利用できるようになっている。本稿では、本学における Web サービスのシボレス認証について紹介していきたい。

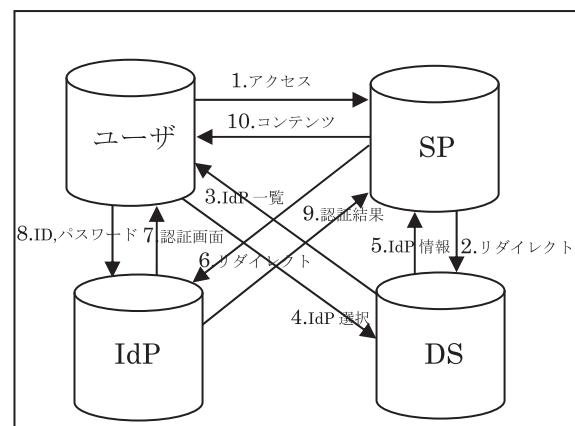
2. シボレスについて

シボレスとは、SAML 等の標準仕様を利用した認証・認可のための属性情報の交換を行うミドルウェアで、米国の大学等で構成される Internet2 において、2000 年に発足したプロジェクトで開発され、標準仕様策定とオープンソースとして提供が行なわれている。シボレスは、大学等で導入されている利用者の認証や属性を提供するためのサーバ Identity Provider (以下、IdP という)、IdP からの属性情報によりサービスを提供する出版社等の Service Provider (以下 SP という)、SP に対し IdP のリストを提供する学認・大学等のシステム Discovery Service (以下 DS という)、信頼する認証局の証明書、IdP、SP の情報を持つメタデータで構成されている。(表 1) 認証を受けるための流れは、まず、ブラウザから SP にアクセスし、DS の IdP 一覧から自所属機関の IdP を選択する。SP から IdP の認証画面にリダイレクト

され、ブラウザに認証画面が表示される。認証画面にユーザ ID とパスワードを入力して IdP で認証を行い、認証結果と属性が SP に返される。IdP 自体は認証のためのデータは持っていないので、認証基盤の LDAP 等から情報を抽出して認証が行われる。成功した場合は、属性情報に応じてアプリケーションが実行され、コンテンツがブラウザに返される仕組みになっている (図 1)。

シボレスのシステム構成 (表 1)

Identity Provider (IdP)	認証及び属性の提供
Service Provider (SP)	IdP の情報によりサービスを提供
Discovery Service (DS)	IdP のリストを提供
メタデータ	信頼する情報局の証明書、IdP、SP の情報



シボレスの処理の流れ (図 1)

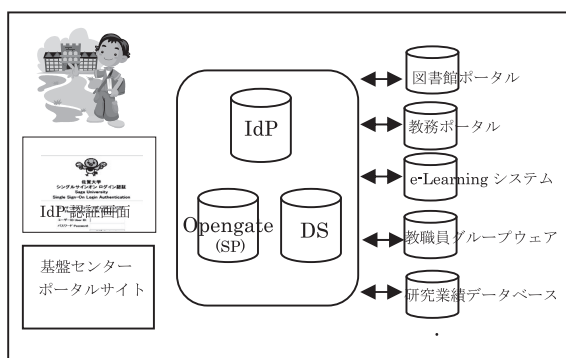
3. 佐賀大学におけるシングルサインオン

平成 20 年度の国立情報学研究所 UPKI (全国大学共同電子認証基盤) 構築事業のシングルサインオン実証実験に参加し、学内システムを統括している総合情報基盤センターで試験運用の取り組

みが行われ、平成 22 年 3 月の学術情報基盤システム更新から全学でシボレスによるシングルサインオンの本格運用が始まっている。認証は、IdP 認証画面（図 2）からセンター ID とパスワードで認証し、一度の認証で学内の Web サービス（基盤センターポータル、My Library（図書館ポータル）、教務ポータル、e-Learning システム、教職員グループウェア、研究業績データベース、評価基礎情報データシステム、利用者情報確認・変更サービス）が身分等の属性に応じて利用できるようになっている（図 3）。また、ネットワーク利用者認証システム（Opengate）のシボレス対応により、学認と認証連携している他大学の利用者は、所属している大学の IdP で認証して、佐賀大学内のネットワークが利用できるようになっている。



佐賀大学 IdP の認証画面（図 2）



大学におけるシングルサインオン（図 3）

4. 電子リソース及び図書館 Web サービス

全学で利用できる契約電子リソースは、文献データベース 19 及び、主要出版社の電子ジャーナルをはじめとして約 5,500 種へアクセスが可能となっている。電子リソースを有効に活用するた

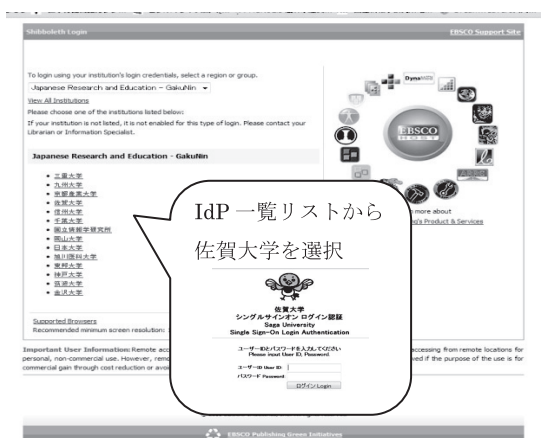
めに、平成 21 年度の図書館システム更新時に既製の電子ジャーナル管理ツールとしてリンクリゾルバを導入してサービスの向上を図っている。また、学外から電子リソースへのリモートアクセスについては、利用者からの申請により図書館から出版社のリモートアクセス用の ID を提供するなど、図書館と利用者それぞれで ID を管理していく必要があった。シボレス対応により一部の出版社については、センター ID でアクセスが可能になり、図書館で ID を管理するなどのリモートアクセスに係る業務が軽減されている。利用者は、一度認証すればシングルサインオンにより、他の出版社等の電子ジャーナルにアクセスしても新たに認証のためのログインの必要がなく、学内・学外を意識することなく横断的な利用が可能となっている。現在、電子リソースの契約は IP 認証によるサイトライセンス契約が主であるが、シボレスは属性（所属、身分等）により認証されるので、組織全体、部局、講座、身分レベルなど細かなレベルでの認証の可能性が考えられる。しかし、まだシボレスに対応している出版社等が少なく、契約している多くの電子リソースが対応できていない状況なので、学外からの電子リソースの利用については、他大学で導入がすすめられているソフトウェアの EzProxy についても検討する必要がある。また、図書館 Web サービスとして My Library（図 4）と教員向け図書購入依頼システムがあり、My Library についてはシステム更新時のシボレス運用当初から対応し利便性の向上が図られているが、図書購入依頼システムは外部システムを利用しており対応ができていない。



図書館ポータル（図 4）

5. SP との接続設定について

本学においてシボレスで利用できる電子リソースは、Elsevier Science Direct、SpringerLINK、EBSCO host、OvidSP、Thomson Reuters (EndNote、Journal Citation Reports)、CiNii がある。それぞれの接続手続きは、学認の Web サイトにある接続情報に掲載されている IdP 管理者向け、図書館向け、利用者向けを参照し、IdP 管理者向けに掲載されている IdP の設定については、システム面を管理担当している総合情報基盤センターで行い、図書館向けに掲載されている接続申込み先に図書館から申請を行っている。IdP の設定反映は、サーバの再起動が必要なため毎週水曜日のシステム保守の時間を利用して行われている。接続が成功すれば、出版社のサイトのシボレスログイン画面から学認 (GakuNin) を選択すると IdP 一覧に大学名が表示され、選択すると認証画面が表示され認証して利用できるようになる (図 5)。すでに認証が済んでいる場合は、認証画面は表示されず利用することができる。サービス提供を開始した、平成 23 年 7 月から 10 月のシボレスにより電子リソースを利用した延べ人数は、学生 125 人、教職員等 81 人で学生の利用割合が高くなっている。まだ利用者数があまり多くないのは、運用を開始したばかりで十分な周知がされていないこともあるので、広報に努めていく必要がある。



EBSCO host 学認 IdP 一覧リスト (図 5)

6. おわりに

シボレスについては、各国のフェデレーションで取り組みが行われており、日本においても国立情報学研究所を中心とした学認で、タスクフォースを発足し対応サービスの拡大に向けた積極的な取り組みが行われている。現在、運用フェデレーションの IdP、SP それぞれに約 30 の大学や機関が参加し、テストフェデレーションに約 30 の大学・機関の参加がある。今後、電子リソースの利用でさらにシボレスの利便性を向上していくためには、学認へ参加する機関が増加し、シボレスに対応した電子ジャーナル、データベースなどの学術コンテンツが増加していくことを期待する。

(参考文献)

- 1) 江藤博文, 大谷誠, 渡辺健次, 只木進一, Opengate とシングルサインオン, 電子情報通信学会技術研究報告 . SITE, 技術と社会・倫理 108 (459), 259-264, 2009
- 2) 統合認証基盤と Single Sign-On 連携, <https://www.gakunin.jp/docs/files/14saga.pdf>
- 3) 大谷誠, 江藤博文, Web サービスにおけるシングルサインオンの導入計画, 総合情報基盤センター広報 第 4 号, 2009
- 4) SAML 準拠の Shibboleth を活用した学術認証連携基盤の構築, <http://kantarainitiative.org/confluence/download/attachments/45057108/kantara-gakunin.pdf>
- 5) 野田英明, 吉田幸苗, 井上敏宏, 片岡真, 阿藤品治夫, Shibboleth 認証で変わる学術情報アクセス, カレントアウェアネス No.307, 2011, <http://current.ndl.go.jp/cal736>

あさおか ひろのぶ
(佐賀大学附属図書館)

プロジェクト IRC 福岡県立大学における洋書読書コミュニティ創りの取り組み

水野邦太郎

はじめに

福岡県立大学では、現在の我国の教育において強く指摘されている読書離れとも相通じる課題を、英語教育の視点から真摯に問い直し、2008年度から洋書を通じた「読書コミュニティ (Interactive Reading Community: IRC)」創りにチャレンジしている。一年生の必修のリーディングの授業 (5クラス 280人) で図書館を活用して取り組んでいる「プロジェクト IRC」を紹介したい。

大学でのリーディングの授業のねらい

大学生の多くは、入試英語の「読解問題 (過去問・練習問題など)」を解く練習を長期間やらされて入学してくる。入試の英文は「著者」も「タイトル」も不明なものがほとんどで、自らの意思や願望から選択したものではなく、まるで天から降ってくるかのごとく「読め」とつきつけられる。そして「空欄補充」「多肢選択」「内容一致」といった形式の「設問」に従って読ませられる。受験生は、「問題文を読んで設問に答える」ことをひたすら繰り返すだけの、自閉的な読みに終止させられる。このような状況のなかに、現実の日常生活で行われている「読む」という営みと同じあり方を見出すことができるだろうか。こうした「真正性 (authenticity)」が低く、望ましくない「波及効果 (washback)」をもたらす受験英語によって英語が嫌いになり、「点数 (単位)」を取る以外、英語を学ぶことの意味が見えずもがいている学生たちが、いかにして「学校で英語を学ぶことの意味」を見出し、英語が好きになり、自律的な学び手 (読み手) として育っていけるかが、大学における英語教育の大きな課題の一つであると思われる。

そこで、受験英語がもつ「個人主義的・認知主義的な勉強」から脱却して、本 (洋書) を読む営みを、「個人の頭の中」を超えて、他者と協働的に営む「社会的実践」として捉え、「教室」でクラスの仲間に、さらに「インターネット」という場を通じて大学を超えて、互いに本を紹介し語り合う「互恵的な読書コミュニティ」を創出していくことを、授業のねらいとして掲げた。

自己決定理論から見た読書コミュニティ創り

人間が「自ら意欲をもって学ぶ」みなもととして、Deci & Ryan (1996) は「自律性への欲求」「有能さへの欲求」「関係性への欲求」を想定している。本授業がデザインしたリーディングの授業は、この3つの心理的欲求の充足を図る観点から、以下のようにデザインされている。



自律性への欲求 : 自己決定したい

- ① 様々なジャンルの本が図書館にある。
- ② 読みたい本を選択することができる。

有能性への欲求 : 「できる」という感覚

- ③ やさしい長い英文がスラスラ読める。
- ④ 英語の基本語の使い方知識が深まる。
- ⑤ 400語/kmで読書量を可視化する。

関係性への欲求 : 帰属意識、連帯感

⑥教室で、⑦インターネット上で、本の紹介をしい語り合うことにより、互いに影響を与え合い学び合う関係が築かれる。特に、この授業のために立ち上げられたIRCというサイト (<http://ilc.eknowhow.jp/irc4/web/>) を媒介とした他大学との洋書を通じた交流は、「関係性への欲求」を満たすうえで大きな役割を果たしている。

「教室」を「対話的実践としての学びの場」へ編み直す

学生たちは、この授業のために図書館に設置された様々なジャンルの洋書から、自らの興味・関心、英語力に照らし合わせて本を借りる。読書は授業外で行い、原則として1週間に1冊のペースで読んでいく。

学期始めに、Reading Marathon (400語=1km) として「10冊 or 100km以上で単位が取得できる」というゴールを示し(Aを取るには13冊 or 130km以上)、毎学期、7割以上の学生がAを取る。そのため、日常生活の中で読書をする時間をつくる「段取り力」が求められる。

そして、教室という場所を「Aという人がaという本を読み、それを読んだ際の感想(reaction)がBという人に伝わり、Bがaを読むきっかけになる」ような「刺激」に満ちた学びの場にしていくために、毎週メンバーを変えて4人ぐらいのグループをつくり、今週読んできた(読んでいる)本について「母語」で紹介をし合う。母語を使用するのは、物語が放つメッセージを「自分はどうか受け止めたか(reaction)」を余すところなく語り、他者と交流することで協働してさらに深い理解へと至る経験をもつことができるためには、母語のほうがその効果が高いからである。そうして、教室という場所に自分の言葉に慎み深く耳を傾け反

応を返してくれる「応答的環境」が存在することによって「やる気」が作られ、一人ひとりがマラソンを続けていくことができている。

インターネットを活かした対話と相互作用

洋書をめぐる「内からの欲求」と「外からの刺激」という知の循環をよりダイナミックにしているのが、他大学との交流を実現しているIRCというサイトである。IRCが「外からの刺激」として働きかける「読書環境の力」として、どのように読書欲を喚起し、一人ひとりの「内からの欲求」を引き出し支えているか、以下、説明してみたい。

IRCには、授業で貸し出されている1800冊の本一冊一冊に対して、その本専用の電子掲示板(Bulletin Board System: BBS)が設けられている。各本のBBSには、その本に関して以下の情報が掲載されている: 本の表紙の画像、Amazon.co.jpのその本のページへのリンク、本のあらすじ、読破距離数、その本の内容に該当するジャンル、EPER (Edinburgh Project on Extensive Reading) Levels for language learner literature in English、学生が感じた読みやすさのレベルの平均、学生たちの本の内容に対する評価の平均(最高は5つ星。これらの情報をもとに「ジャンル別検索」「読破距離数による検索」「レベル別検索」「評価別検索」で好みの本を自由に「探索」できる。

学生たちは本を読み終えたらReaction Report (RR)を書き、その本のBBSに投稿する。投稿すると、My Pageの「読破距離数」「読破冊数」が自動的に加算される。また、参加者全員の現時点における「読破距離数」と「読破冊数」が、それぞれReading MarathonとReading Starsというページでランキング順に☆の数で見ることができる。

IRCに投稿されたRRのデータベースはクラス・学校の垣根を越え、時空を越えて読まれ、自分の読みを仲間たちの読みと比較することができる。またRRに互いに「コメント」を書き合い、本の内容についての理解を深めることができる。RRの例として、*Tuesdays with Morrie*を読んだあ

る学生の「死にゆく先生から贈られた最後のメッセージ」というタイトルのRRの一部を紹介する。「ALSに冒されたMorrie先生の生き様と言葉から、人は「死」を覚悟したときにはじめて「生きるとはどういうことか」が見えてくる、そのことを強く実感させられました。この本の中で、私は確実に先生の生徒の一人になり、先生の言葉を真剣に受け止め、自分なりに解釈しようとしていました。“Death ends a life, not a relationship.”私はこの本をいつでも手元に置いておきたいと思います。どんなときでもページをめくれば、Morrie先生は素晴らしいメッセージを私たちに与えてくれるに違いないからです」。

これに対して多くのコメントが寄せられ、次にその中の一部を紹介する。「死を目の前にした人が言うからこそ、さらにこの言葉は深い意味を持ちます。正直にいうと、私はまだ死というものを考えることができず、なんとなく生きているにすぎないかもしれません。しかし、どうせ死ぬんだと、投げやりになるのではなく、死を受け入れて、ゴールまでに自分が何をすべきか考え、行動できればいいな、と思いました」。このようなコメントのやり取りを通して、読みを深め、豊かな人間性を培っていくことができる。

その他に、IRCには以下のような機能が実装されている。(1) Reading Fan Club: IRC上で互いにRRを読み合いコメントを書き合っていく中で、相手の書く文章、価値観、感性、本の好みにとっても共感を覚える場合がある。その場合、その相手を「自分のお気に入りの人」としてReading Fan Clubに登録することができる。このような「特定の人を介した本との出会い」を通して、未知なる本との出会いがさらにうながされる。(2) Comment Olympics: 誰がたくさんコメントをもらっているかがランキング順に見ることができる。

プロジェクトIRCには、2009年度の後期に九州・沖縄から8大学、さらに、関西、関東、東北の大学からも参加があり、のべ500名の学生がIRCを媒介に洋書を紹介し合い語り合う協同的な学習空間を実践的に創り上げることに成功した。

こうしてIRCというサイトを媒介にしてインターネット上に読書コミュニティをつくり、自分のお気に入りの本を紹介し合い語り合うことができる場を創出することは、「互いに影響を与え合い学び合っている」という実感や「帰属意識」を育てていくことができ、学生たちを「その外国語で読書をする快楽」へと誘っていくことができる。そして、そうしたコミュニティへの「参加」が生涯にわたって、自分の生活を外国語の本を読むことによって彩り豊かにしていける能力を培っていくことにつながり、自律的な学びの態度を培っていくうえで大きな実りをもたらしていくと思われる。

『大学生になったら洋書を読もう』の出版

プロジェクトIRCのネットワークの拡張と発展を祝い、プロジェクトに参加する大学の教員と学生が中心となり（のべ40名）、全国の大学生を洋書の世界へ誘う洋書ガイドブック『大学生になったら洋書を読もう』を大学生協とアルクとのタイアップで企画し出版した。本書には、洋書の選び方をはじめ、洋書読書を習慣化させるコツなど、具体的で実践的なヒントが書かれている。そして、プロジェクトに参加した大学生と教員のお気に入りの洋書が、推薦文とともに100冊紹介されている。

『大学生の洋書POP大賞』の開催

『大学生になったら洋書を読もう』の出版を機に、2010年度の前期に、大学生協主催、丸善およびアルク協賛で洋書を対象とした「大学生の洋書POP大賞」が開催された。POPとは、書店の店頭に掲示してオススメの本の魅力を文章やイラストで他者に伝え、読みたい気持ちにさせるハガキ大のカードをいう。洋書を対象としたPOP大賞は日本で初めての開催で、26の大学から403通のPOPが集まった。そして以下のような賞が用意された:【POP大賞】3万円分の図書カード(1名様)、【部門賞】1万円分の図書カード(3名様)、【優秀POP賞】2千円分の図書カード(20名様)。

審査結果は、大学生協が発行する『読書のいずみ』125号（2010年12月発行）で公表された。福岡県立大学からは、アイデア賞（1人）、優秀賞（6人）が受賞した。「第二回 大学生の洋書POP大賞」は2011年10月1日から12月20日に開催された。審査結果は、3月に生協のホームページで公表される。

おわりに

今後、プロジェクトIRCに参加している大学間の連携を充実させていき、さらに参加大学を拡張していきたいと思っている。そして、IRCというサイトが創出している「他者」と関わる読書環境づくりが、学生たちの読みの質や読書の動機にどのような影響を及ぼすかについて、調査研究を行っていきたい。

参考文献

Albom, M.. *Tuesdays with Morrie : An Old Man, a Young Man, and Life's Greatest Lesson*. Broadway. 2002.

Deci, E.L., & Ryan, R.M. *Why We Do What We Do: Understanding Self-Motivation*. Penguins Books. 1996.

水野 邦太郎. 「本と人・人と人との絆を結ぶ互恵的な読書環境の創出」『コンピュータ & エデュケーション』 pp.75-84. 2005.

水野 邦太郎 監修. 『大学生になったら洋書を読もう』アルク. 2010.

水野 邦太郎・川北直子・東矢光代・西納春雄. 「プロジェクトIRC 読みあい語りあう読書活動を取り入れた多読の授業」『外国語教育メディア学会紀要』48号. pp.143-171. 2011.

みずの くにたろう
(福岡県立大学附属図書館)

【大分大学学術情報拠点（図書館 / 医学図書館）】

1. 九州地区医学図書館協議会総会を開催

大分大学学術情報拠点（医学図書館）が当番校として、第59回九州地区医学図書館協議会総会を10月14日（金）大分市内のホテルで開催した。今回は国立及び私立大学の15大学の医学図書館が参加し、協議題のテーマである延滞図書督促方法について各館の現状報告に基づく意見交換を行い、今後の方策となる活発な議論が交わされた。その他承合事項では、ラーニング・コモンズ設置等についての照会があり、現在設置に向け予算要求中である、オープンスペースに設置し利

用中である等各館の状況が報告された。最後に次回当番校等を確認し無事閉会した。



【沖縄県立看護大学附属図書館】

1. 図書館用機器類の整備状況について

平成23年9月1日から学生への館内貸出用ノートパソコンに関してリース期間終了により機器の入れ替えを行った。その際、利用頻度が高いため32台から40台に増やした。

2. 図書館サービスの改善状況

卒業生への文献複写サービスの実施、文献複写について学内教員のネット利用からの依頼受付を開始した。

【鹿児島大学附属図書館】

1. 入退館管理システムを設置

平成23年3月に中央図書館に入退館管理システムを設置し、6月より本格稼働を開始した。入館者は学生証や職員証をゲートに読み込ませて入館し、退館する際も同様である。

このシステム設置により、安全性をよりいっそう高め、利用者への快適な空間の提供に役立っている。さらに様々な利用状況のデータを取得でき、今後の図書館運営に活用していく予定である。



2. ダイヤル式ロッカーの設置

鹿児島大学附属図書館では毎年学生モニターとの懇談会を実施しており、昨年度、手荷物を保管できるロッカーを設置して欲しいとの意見があった。これにより中央図書館では、平成23年3月にダイヤル式ロッカーを設置した。

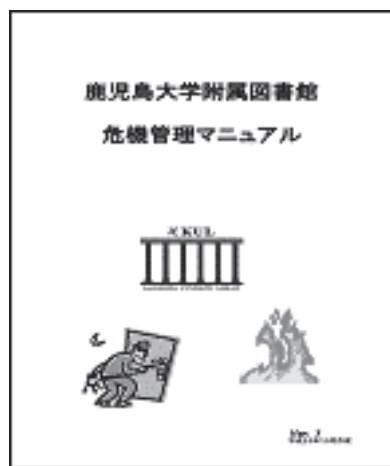
席を離れて食事に出かけたり、資料を探す時やパソコン端末コーナーを利用する際の手荷物等の一時保管に活用されている。



3. 鹿児島大学附属図書館での危機管理対策

鹿児島大学附属図書館では、本年5月に人事課の危機管理特任専門員のセミナーを図書館職員対象に館内で実施した。図書館で起こりうるリスクの対処等に対して講話があり、殆どの図書館職員が参加した。

また、本年10月に「鹿児島大学附属図書館危機管理マニュアル」を作成した。昨年度から立ち上げた危機管理タスクフォースのメンバーが素案を作成し、今年度はそれを基に改善を行い完成したものである。常勤職員と時間外職員（大学院生等）の欄を分け、どちらの対応もわかりやすく記載されており、今後も見直しを実施していく予定である。



「鹿児島大学附属図書館
危機管理マニュアル表紙」

4. 附属図書館図書リユース市を開催

鹿児島大学附属図書館では、7月28日と29日の2日間、中央図書館1階ギャラリー“アトリウム”において「附属図書館図書リユース市」を開催した。

この企画は、重複でかつ利用希望がなく不用となった資料（廃棄予定図書）の再利用と新規購入図書の配架スペース確保を目的に一昨年から開催されているものである。

“アトリウム”には各分野（総記、哲学、歴史、社会科学、自然科学、技術、産業、芸術、言語、文学）の学術図書7296冊が並べられ、全て1冊100円で販売。多数の学生や教職員、一般の方々が来場し、興味のある文献を次々に購入していた。

2日間で2164冊が売却され大盛況に終わった。

今後も年に1～2回の開催を予定しており、図書の新たな場所での再利用やエコ効果、地域の方々の学習や研究への貢献が少しでもできればと期待している。



5. 中央図書館オープンキャンパス

8月6日と7日両日における鹿児島大学オープンキャンパスの一環として行った。多くの学部が参加する6日をメインとして2日間開催し、ウォークラリーや5カ所のコーナー展示(大学の歴史、シラバス、大学生活、教員著作、貴重書)、図書館ツアー等を行った。ウォークラリー兼用の図書館案内MAPを配布し、2日間で約1100名の参加者があった。

ウォークラリーや図書館ツアー参加者には、貴重書クリアファイル、貴重書しおりを進呈した。初めての試みであったが、多くの参加者があり、次年度以降も大学生活で図書館を活用してもらえよう更に工夫を重ね開催していきたいと考えている。



6. 2分館のトイレ改修工事が竣工

鹿児島大学附属図書館の分館である桜ヶ丘分館と水産学部分館の両分館でトイレ改修工事が行われ、本年9月と10月に完成した。どちらも身障者用トイレを新設し、障害を持つ利用者への対応を強化した。またセンサー式の蛇口や照明を導入し、経費節減にも役立つものと期待している。



7. 「かごしま読書フェス@鹿大」開催

「Library Lovers' キャンペーン 2011」の鹿児島大学独自企画として11月6日(日)に鹿児島の二大読書イベントである天文館で朝読書「TenDoku」とガーデンズ文学カフェを鹿児島大学附属図書館にて開催した。「TenDoku」は個人がおすすめの本を持ち寄りグループ内で紹介し合う読書コミュニティで、文学カフェは1冊の本について語り合うカジュアルな読書会である。文学カフェの今回の課題本は向田邦子『思い出トラップ』より「かわうそ」であった。

通常的时间を短縮した形で二大イベントを行い、引き続きエキシビジョンとして、両イベントと鹿児島大学の各代表によるおすすめ本プレゼンバトル「ビブリオバトル」も行い、大いに盛り上がった。イベント参加者(36名)と見学参加者を含めて約70名の参加者が、コーヒーを飲みながら読書の秋を堪能するひと時となった。



8. 貴重書公開展

11月19日～12月4日まで、中央図書館ギャラリー“アトリウム”において、「明治の浮世絵師と西南戦争」展を開催した。

今年度の貴重書公開展においては、所蔵資料の中から、明治の浮世絵師と西南戦争の接点を示す作品を選び、「西南戦争錦絵」を展示し、浮世絵に表現された近代初期の鹿児島イメージの諸相を呈示する形で行い、期間中、教職員、学生、一般市民等404名の来場者があった。

期間中の土曜日には2回の展示作品解説を法文学部高津教授が行い、27日(日)の講演会では

浮世絵と西南戦争それぞれの専門家の講演があり
35名の参加者は熱心に聞き入っていた。



9. 鹿児島県学術共同リポジトリの立ち上げ

「大学地域コンソーシアム鹿児島」内に新規発足した「地域共同リポジトリ事業部会」において『鹿児島県学術共同リポジトリ(英語名:Kagoshima Academic Repository Network、愛称:KARN)』を今年度内に運用開始することが決定した。参加は現在のところ7大学・短大・高専である。共同リポジトリサーバは昨年度末に鹿児島大学学長裁量経費で導入し、鹿児島大学図書館に設置して運用開始に向けて準備中である。各参加館の実務担当者に対しては数回の研修会を開催した。また、DRFを通じて、共同リポジトリ先行館である広島県大学共同リポジトリ、福井県地域共同リポジトリから講師を招き講演会を11月29日(火)に鹿児島大学附属図書館で開催し、32名の参加があった。講演を通じて参加機関・県大図協の関係

者や県内図書館・学術機関関係者は共同リポジトリへの理解を深めるとともに、参加機関は鹿児島県学術共同リポジトリの立ち上げへ向けて決意を新たにす充実した講演会となった。

10. 鹿児島県大学図書館協議会講演会・研修会を開催

県内各大学等図書館の諸活動の向上と連携強化を目的に、鹿児島県大学図書館協議会講演会・研修会が12月16日に鹿児島大学附属図書館で開催され、鹿児島県大学図書館協議会加盟館職員をはじめ、大学関係者・九州地区大学図書館関係者ら約40名が参加した。

研修会では、「図書館での学生力活用について」と題し、各大学等で実際に取り組んでいる学生との協働事例の成果や効果等について発表が行われた。また、講演会では千葉大学アカデミック・リンク・センターから白川優治先生を講師に招き「千葉大学アカデミック・リンクの取り組み—教育・学習支援機能を担う“ティーチング・ハブ”を中心に—」と題して、千葉大学の先進的取り組みについて説明を受けた。

参加者たちは講演会や研修会を通じ、大学等図書館と教育との連携を強化する手法や学生力への認識を新たにし、今後の取り組みについて考える有意義な機会となった。



【活水女子大学図書館】

「長崎学さるく - 東山手居留地を舞台にした活水学院の明治・大正・昭和の海外交流」で、本学図書館所蔵の明治期英語関係の辞書・語学書などの資料展示会を開催

11月6日（日）、活水女子大学東山手キャンパスで、長崎市主催、本学が企画提供している「長崎学さるく - 東山手居留地を舞台にした活水学院の明治・大正・昭和の海外交流～パイプオルガンの調べとアジアンティーを楽しみながら～」を開催し、長崎市民の方や県外の方、本学留学生を含め、約60名が参加し盛会のうちに終了しました。

プログラムは、大チャペルでのパイプオルガンコンサート（演奏者 椎名雄一郎 活水学院オルガニスト）、講演「東山手居留地を舞台にした活水学院の明治・大正・昭和の海外交流 - 建学の精神と往来から」（野々村昇 本学院院长・学長）、資料展示会、キャンパスツアー、アジアンティーの喫茶サービスでした。

講演は、9月7日、本学においてロケが行われました。「『NHK ドラマスペシャル・蝶々さん』と活水」、「活水における明治時代の英語・音楽・体育教育」、「創立者ラッセル女史の日米修好通商100年記念における顕彰」などについて、当時の写真などを交えて行いました。

関連した資料展示会では、「蝶々さんと活水」、「幕末・明治の語学書、英語辞書」、「国際色豊かな活水女学校」、「明治・大正の海外旅行ガイド」、「『つなみ (The Big Wave)』 (パールバック著) と活水学院」のテーマで、学院史資料、本学図書館所蔵の貴重書や絵画などを展示しました。

図書館所蔵の主な展示物を紹介すると、幕末・明治の語学書、英語辞書関係では『Handbook of English-Japanese etymology』（『英和語源手引』William Imbrie 著 .Ogawa Shoei-Do, 1880年）、『An English-Japanese dictionary of the spoken language. 3rd ed.』（『英和口語辞典』Ernest

Mason Satow and Masataka Ishibashi 著 . Kelly & Walsh, 1904年）、『英和对訳袖珍辞書』（堀達之助編 複製版 秀山社 1988年）、『諳厄利亞興学小筈』、『諳厄利亞語林大成』（長崎原本影印の和装本 日本英学史料刊行会編 大修館書店 1982年）など。

その他、20世紀初頭に出版された Underwood & Underwood 社のステレオ写真『Italy through the stereoscope』とステレオビューワー、大正初期に日本初の海外向け公式旅行ガイド『An official guide to Eastern Asia-Trans-continental Connections between Europe and Asia』（『東亜英文旅行案内』鉄道院編 1913-1915年）、『ペリー提督・横浜上陸の図』（複製版。原画は横浜開港資料館蔵・ハイネ原画による石版画）など。

今回の展示資料を準備する中で、今秋、長崎・上海航路が復活したことをヒントに、明治・大正の海外旅行ガイド関係の展示を企画し、洋書書架の中で『東亜英文旅行案内』を偶然見つけることができたのは、大変嬉しい出来事でした。



講演「活水学院の海外交流 - 建学の精神と往来から -」



日米修好通商 100 年を記念して
ラッセル女史に贈られた顕彰



ステレオ写真に興味深々



資料展示会

【鹿屋体育大学附属図書館】

本館の平成 23 年の主な活動を紹介する。

1. 高校生の職場体験

平成 23 年 1 月、3 日間の地元高校生職場体験学習に協力し、2 名の高校生を受け入れた。カウンター業務の他に、プレゼンテーションソフトで新着図書紹介スクリーンセーバーページを作成し、館内の利用者向けパソコンで表示させるなどの職場体験をさせた。

2. 集密書架増設

平成 23 年 3 月、移動書架を 3 台増設した。書架の増設により、今後 5 年分の蔵書量増に対応することができるようになった。さらに、既設の移動書架にも書架の移動にあわせて照明を点燈するように改修し、利用環境の改善を図った。

3. NIFS GALLERY

開学 30 周年を機に、本学の教育・研究が社会に果たしてきた役割と成果、現状について、関係資料や映像を用いて展示し広く社会に発信するためのスポーツ文化ギャラリーとして、大学会館 2 階および大学院体育学研究科棟エントランスホールに『NIFS GALLERY』を開設した。本学にゆかりのあるオリンピックを、メダル、ユニフォーム、パネルなどで展示している。展示内容の確認、東京オリンピック公式ポスターの提供など、図書館も企画から実際の展示、さらに、NIFS GALLERY 運営に携わった。

4. Library Lovers' Week

九州地区の大学図書館が中心になって実施された「図書館が森になる！？ 育てよう読書の木」キャンペーンに連動し、実施した。「読書が好きになる木」、「就活に役立つ木」のほか、体育大の

オリジナルとして「スポーツをする上で役立つ木」という「木」を設け、「TOKYO オリンピック物語」（野地秩嘉著 小学館 2011）などのスポーツ関連本の推薦を受け付けた。

【九州共立大学附属図書館】

本館では、入館者数増加に向けての様々な取り組みを行っており、そのいくつかをご紹介します。

1. 図書館機能の高度化及び取り組みの推進・拡大

1) 教員との連携

(1) 情報リテラシー教育の実施

- ① キャリア基礎演習の時間を利用して、図書館の利用方法や資料の検索方法等を習得し、情報の探索、分析・評価、発信するスキルを一層高める
- ② ゼミの時間を利用して、卒論のテーマ探しや論文の検索方法等を習得する

2) 学習支援センターとの連携

3) 利用者のニーズに応じた効果的なサービスの提供

(1) 選書

- ・ 図書館職員目から見たもの
- ・ 学部からの推薦によるもの
- ・ 書店からの推薦によるもの
- ・ ベストセラー

上記以外に図書館で購入してほしい図書について、全学的に教職員及び学生に呼び掛け、「リクエスト図書申込」を募っている。また、「この本、おすすめ！」コーナーを設け、学生が他の学生にも読んで欲しい図書の紹介と読後のコメントを記入したカードを貼付している。コメントを提供した学生は、MAJICAポイント3をゲット！！*

*本学には、施設等の利用促進を目的とする“キャンパスマイルージ制度”というものがあり、評価項目によって、MAJICA ポイ

ントが加算される仕組み。図書館の利用で、1ポイント等。学生のポイント取得内容から施設利用の習慣化、動向が理解できる。ポイント数により、豪華賞品が当たるイベントも大学祭で行っている。(60ポイントでゴール)

(2) 特集コーナーの見直し等

時節に応じて随時変更するコーナーで主なものは以下のとおり。

- ・ キャリアサポートコーナー（就職応援本等）
- ・ 卒業論文の書き方等
- ・ 人気作家ランキング1位特集コーナー
- ・ 映画化、ドラマ化された作品の紹介コーナー（DVD・原作本）
- ・ トレンディーな書物等のコーナー（「ドロッカー あらかると」）
- ・ 今月の新着本コーナー

(3) 掲示板・HPの活用

HPのリニューアルをし、常に「利用者の目線」を心がけている。

- ・ 特集コーナーの紹介
- ・ 新着図書コーナーに配架している資料の紹介
- ・ 教員・学生を対象にしたサービス窓口を作成

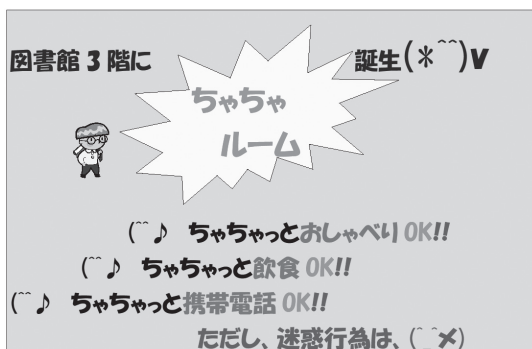
(4) “Library News”の配信

新情報提供の迅速化及び周知徹底を図るため、教職員向けにメールによるお知らせを随時、配信している。

(5) 「ちゃちゃルーム」のアピールと有効活用

北九州弁の語尾に「○○ちゃ」をつける

ことにちなんで「ちゃちゃルーム」という名のおしゃべり OK、軽飲食 OK、携帯電話の通話 OK の部屋を設けた。



※ HP 上での紹介

2. 学生アルバイトとの連携

本館では9名の学生アルバイトがローテーションを組み業務のお手伝いをしている。オープン

【九州工業大学附属図書館】

1. ラーニングcommons・コーナーの整備

附属図書館本館では昨年度から整備にとりかかっていたラーニングcommons・コーナーが7割方完成した。

1階エントランスに近い方からカフェ・ラウンジ、メディア・AVエリア、グループラーニング/プレゼンテーションエリア、教育支援PCエリア、コミュニケーション/オープンスペースエリア(予定)というゾーン配置となっている。

カフェ・ラウンジはドリンク・コーナーを伴いリラックスできる空間としてスタンド付の高テーブルと低めのテーブルとゆったりとしたソファからなるリフレッシュ・エリアとした。メディア・AVエリアはBS放送視聴可能の大型テレビとブルーレイディスクプレーヤーを備えており大型ソファにゆったりと座り、備え付けのAV資料を利用した語学自習が可能となっている。グループラーニング/プレゼンテーションエリアでは47席を擁する可動式で組み合わせ自由な勾玉型テーブル、プロジェクタ、スクリーン、iPad20台、ノー

キャンパスの際にも高校生や保護者の対応をし、好評であった。学生も「接遇」「事務」「肉体労働」等あらゆる要素が凝縮された図書館業務を通じて、学ぶべきことも多く貴重な経験と言える。「学生と一緒に図書館を作る」というコンセプトで彼らの意見も随時、取り入れている。

文部科学省による「大学図書館の整備について」(審議のまとめ)の中に、大学図書館は重要な学術情報基盤の役割を有し、大学の教育研究にとって不可欠な中核をなす総合的な機能を担う機関のひとつとある。その位置づけを明確化し学内外にアピールしていくことが重要と言える。学内外の多様な組織との連携、特に教職員、学生とのコミュニケーションを図りながら、信頼関係を構築し、人的交流・人的ネットワークをさらに拡大したい。

トPC10台を使用しての自由で創造的なディスカッション、グループ学習、情報発信等が期待される。図書館ガイダンスのみならず、授業との連携による同エリアの利用も開始した。

さらに、移設した先端教育支援システムPCコーナーをラーニングcommonsの全体構想に合致するよう、可動式でカラフルな机と椅子に置き換え、講義にも対応できるようプロジェクタとスクリーンも設置し、教育支援PCエリアとして再生させた。残るスペースとして空間構築のカスタマイズが容易なコミュニケーション/オープンスペースエリアの整備の予算要求をしているところである。



メディア・AVエリア



グループラーニング / プレゼンテーションエリア



教育支援 PC エリア



カフェ・ラウンジ

2. iPad 館内貸出開始

附属図書館では7月1日より20台のiPadの貸し出しを始めた。工学部先端教育支援PCの更新により、PC20台とiPad20台を導入したが、iPadは館内に限定して貸し出しの形で利用している。

【九州大学附属図書館】

『九州大学百年の宝物』

23年、九州大学は創立百周年を迎えた。この百年の間、各部局において蒐集されてきた研究資料・図書・標本・芸術作品等、多様でユニークなコレ

情報科学センター情報コンセントサービスのアカウントを利用して無線LANに接続する。返却後は初期化を行い、利用者の情報が残らない形で運用している。

学部生を中心に平均して日に2件程度、多い日は9件の貸し出しがある。

利用の目的は「言葉や事項の調査、公開された講義資料の閲覧、メール作成、息抜き」などで、感想として「PCコーナーまで移動せずに利用できる、操作性が良い」など概ね好評だった。

今後はガイダンスや講義との連携などで利用が増えることを期待している。

3. リポジトリと教員情報データベースとの間の相互リンク

これまで全学的なグループウェアであったロタス・ノーツが近い将来廃止されるのに伴いノーツでの教員情報データベースが更新されることになり、同じくその下で運用していたリポジトリ連携システムも更新せざるをえなくなったため、新たにF社のリポジトリ作業管理システム（Web版）を導入した。同じく新たに導入されたS社の教員情報データベースとの連携をとりながらノーツシステムからのデータ移行も終え運用を開始した。新システムの特長としては教員情報データベースからのデータ取込み、Excelデータ一括登録、作業ステータスの管理など従来のノーツシステムでの機能を保持しながら、リポジトリと教員情報データベース（公開版）との間でハンドルID、URLアドレスによる新たな相互リンクの機能をもたせたことである。

クションを、大学全体の貴重な財産として適切に保存し、後世に伝えると同時に、広く社会に対して情報を発信・活用すべく、『九州大学百年の宝物』を発行し、附属図書館が企画・編集を担当した。

また、これと連動し、5月10日～16日の1週間、紀伊國屋書店福岡本店にて第52回附属図書館貴重文物展示「九州大学百年の宝物—附属図書館貴重資料コレクション—」を開催し、冊子に掲載されたコレクションから、附属図書館を代表する資料約30点を展示した。

古今東西のバリエーション豊かなラインナップに、熱心に時間をかけて鑑賞する来場者も多く、なかでも、挿絵の美しい「源氏物語歌絵」や、「今昔・福博絵図」・炭鉱関係資料など福岡に関係する資料が注目を集めた。博多駅前会場ということもあり来場者数は例年の倍を数え、九州大学附属図書館の多様かつ膨大なコレクションをより広く多くの方に知ってもらう機会となった。

附属図書館付設教材開発センター設置

23年4月、九州大学では、質の高い教材を開発し、大学教育の質的向上を図るため、附属図書館付設教材開発センターを設置した。教材開発センターでは、教員の教材作成支援を行うほか、センター独自でもインストラクショナルデザインに基づいた教材や教育方法の開発と提案を行うなど、様々な活動に取り組んでいく。

このような取り組みにより、協調型・学生主導型学習を推進することで、学生の自律的な学習と実践力を育成する教育技術の普及と促進を行い、新時代の教育技術を社会的に還元し、優秀な若手人材の育成に貢献することを目指している。

また、教材開発センターの設置を記念し、東京大学工学系研究科国際工学教育推進機構の美馬秀樹特任准教授を招き、「MIMAサーチを活用したシラバスの可視化と次世代の教材開発への応用」と題した講演会を9月22日に開催した。講演では、知の構造化と可視化を行うシステムである「MIMAサーチ」の、シラバスをはじめとする大学教育の現場での活用事例を中心に、新しい教材を開発・提供することで学生の自律的な学習をマネジメントする試みについて紹介され、講演終了後には活発な意見交換も行われた。

九大百周年記念講演会「新しい時代の情報図書館学へ向けて」

6月11日、国立国会図書館の長尾真館長による「新しい時代の情報図書館学へ向けて」と題する講演会を開催した。この講演会は、九州大学創立百周年記念講演会の一環として、九州大学の主催、文学部・ライブラリーサイエンス専攻・附属図書館の企画で開催したもので、当日は、全国から150名を超える参加者を得た。

講演では、図書館や書籍の情報化の本質について、包括的、かつ明快に論じられる一方で、大学を初めとする教育の現場での活用や、話題の電子書籍配信サービスについても言及され、新しい発想による情報図書館のあり方が展望された。講演後の質疑応答では、国会図書館のあり方から、自然言語処理についての技術的な問題に至る多彩な問題が提起されたが、長尾館長の明快なご対応に、参会者一同、蒙を啓かれた。

新入留学生向け図書館ツアーを実施

前期は4月11日から15日まで、後期は10月13日から14日までの日程で、中央図書館において新入留学生向け図書館ツアーを開催した。

ツアーのねらいは、留学生受入が拡大する国内状況において、日本人学生だけでなく外国人留学生にも図書館が開かれた場であることを積極的にアピールし、外国人留学生の来館利用を促進することである。

ツアーでは30分程度で館内を巡りながら資料や設備などを英語と易しい日本語で説明し、図書館が提供するWebサービスについても動画を使って簡単に紹介した。ツアー参加者はのべ50名を超え、和やかな雰囲気の中にも活発に質問が交わされた。留学生は特に日本語学習教材や電子リソースの活用方法などに高い関心を示していたようである。

また、後期には新入留学生と先輩留学生が交流するランチイベントもツアー同日に開催し、Library Day for International Studentsと題して留学生が図書館に集う賑やかな2日間となった。

Library Tour

for International Students

**the KEY to SUCCESS
for Your University Life**

Kyushu University Library holds plenty of useful materials and offers high quality services for you. Join our library tour and take advantage of the excellent resources!

> **Date & Time**
April 11 (Mon) – 15 (Fri), 2011 16:40 – 17:10
 *We hold the same program each day. You can choose a convenient date.

> **Entry**
 Assemble in front of the entrance gate in Central Library (on Hakozaki Campus) by 16:40. Reservations not required.

> **Tour Program**
 Tour is conducted in English and easy Japanese. A librarian explains the following points:

- Facilities and materials in the library
- How to borrow the library materials
- How to search the library catalog, etc.

Hakozaki Campus



[Contact Info]
 Kyushu University Central Library
 tel: 092-642-2533
 e-mail: circ2@lib.kyushu-u.ac.jp

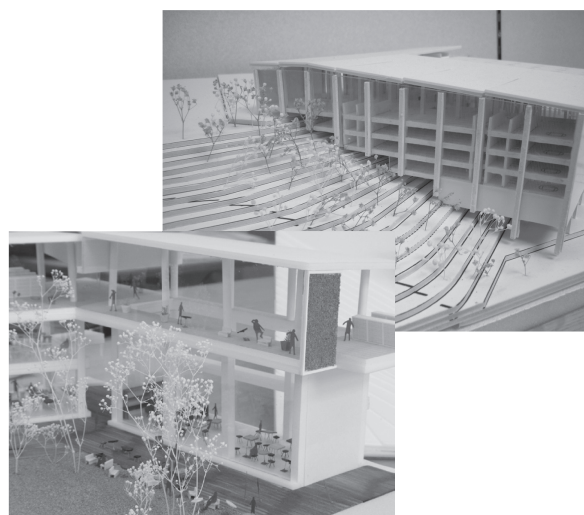


次の百年を担う図書館 — 建築学科の学生による新しい図書館の設計 —

九州大学附属図書館では、29年オープン予定の新中央図書館（仮称）の基本計画策定にあたり、学内より広く意見を収集し検討をすすめており、その一環として、本学人間環境学府空間システム専攻（建築学科）の23年度前期学生実習「建築デザインスタジオ」の課題として、新しい図書館の設計をしてもらった。

新図書館の実際の建築条件のもと、修士課程の学生約30名が6チームに分かれて設計を行い、「自然と共生する図書館」「本の森」「本の屋根に包まれた図書館」など、学生の視点から様々なコンセプトの図書館が作られた。図書館職員も加わった数度の講評会を経て、どれもオリジナリティあふれる作品に仕上がった。

完成した模型の一部は、中央図書館と伊都図書館で展示した。



「第4回中国・四国・九州・沖縄地区大学図書館職員フレッシュパーソンセミナー」を開催

中国四国地区国立大学図書館協会と九州地区国立大学図書館協会との共催により、九州大学附属図書館において、9月15日～16日の2日間にわたって「第4回中国・四国・九州・沖縄地区大学図書館職員フレッシュパーソンセミナー」を開催した。これは図書館に採用されて4年以内の国公立の大学職員を対象として、大学図書館職員のスキルアップおよび人的ネットワークの形成を図ることを目的としており、中国四国地区および九州地区の大学図書館職員35名が受講した。

セミナーでは、これから図書館職員として活動していく上で基本となるテーマについて講義が行われたほか、ワークショップ形式で行われたグループ討議では、それぞれ与えられたテーマについて各大学の事例や取り組みをもとに活発な議論が展開された。グループ討議や懇親会を通して、受講生同士、また受講生と講師の意見交換も積極的に行われ、大変充実したセミナーとなった。

おすすめ図書紹介の新企画「BookLink」スタート

9月、九州大学の学生によるおすすめ図書の紹介レー「BookLink」をスタートさせた。1人1冊紹介したら次に本を紹介してくれる友達や先輩後輩にバトンタッチし、次々に友達の輪でつないでいくというもの。紹介された本は、中央図書館内の展示コーナーのほか、ウェブ本棚サービス「ブックログ」でも紹介している。すでにさまざまな学部間でバトンが渡されており、展示コーナーには多くの利用者が足を留め、紹介本がすぐに借り出されるなど、大変好評である。

BookLink のホームページ

<http://www.lib.kyushu-u.ac.jp/booklink/>

中央図書館で防災避難訓練を実施

9月27日、中央図書館にて、消防署及び防災関係業者の協力の下、防災避難訓練を実施した。緊急時対応についてのレクチャー、避難器具等の模擬訓練ののち、避難誘導訓練を行った。避難誘導訓練では、地震発生とともに停電、続いて書庫から火災発生という想定で、職員で構成する自衛消防隊の誘導に従い、館内の利用者も全員避難した。

利用者も交えた大規模な避難誘導訓練を行ったのは初めてで、東日本大震災後ということもあり、避難完了まで緊迫した空気の中で行われた。

本訓練を踏まえ、今後自衛消防隊編成の見直し、避難経路の確認や火災報知システムの検証を行う

【熊本大学附属図書館】

1. 学生図書選書員による図書選書を実施

学生用図書を学生の視点でより充実させることを目的に、平成19年度から実施している選書リストを作成する方式による学生用図書の選書及び昨年度から実施している学生選書ツアーを行った。9月6日に5名の学生がバスで書店に出向いて選書を行った。自分の専門分野や興味のある本、他の人に読んでもらいたい本など学生の視点で選ばれた図書186冊を購入した。また、選書リスト

とともに、毎年訓練を行い、いざという時に冷静に対処できるようにしていきたい。

ディスカバリ・サービスの開始

膨大かつ多様化する学術情報資源へ迅速・的確なナビゲートを可能とするディスカバリ・サービスを開始した。

Cute.Search (Serials Solutions の Summon) により、世界中の学術文献 (電子コンテンツ、冊子所蔵資料、オープンアクセス等) の中から、Google などでは見つけることができない有用なコンテンツを迅速に発見・アクセスする環境が実現した。

また Cute.Catalog (オープンソースの eXtensible Catalog) では、学内のあらゆる学術情報資源 (九州大学の研究論文、所蔵する図書・雑誌、電子ジャーナル、電子ブック、機関リポジトリ) をシンプルかつリッチなインターフェースで提供することにより、学習・研究活動のなかでの「知りたくなる」「つながりたくなる」を支援する仕組みを整備した。

併せて、電子コンテンツの一元的・持続的な管理およびディスカバリ・サービスのメタデータ基盤として、Serials Solutions の 360 Resource Manager と 360 MARC Updates によるシステム整備を行った。

作成による選書では、留学生1名を含む22名の学生選書員により選ばれた229冊の図書を購入した。これらの図書は、図書館ロビーで展示され、多くの利用者が手にとっていった。

2. 第4回「東光原文学賞」を募集

平成20年度に創設した「東光原文学賞」の第4回募集を行った。本賞は、学生の読書への関心を大いに喚起し、また、創作という能動的な知的

活動の機会を提供することを目的に創設したものであり、今年度も本学の学生を対象にジャンルを短編小説として10月31日まで募集を行い21編の応募があった。学内外の審査員による選考委員会で大賞1編及び優秀賞4編を選考し、1月13日に表彰式を行った。

3. 貴重資料展・公開講演会・永青文庫セミナーを開催

第28回貴重資料展「永青文庫資料にみる肥後の街道とその景観」を熊本大学文学部附属永青文庫研究センターとの共催で、10月29日から10月31日まで中央館において開催した。今年は本館に寄託されている永青文庫資料のうち約千点余の絵図、地図、指図（建築図）の中から、肥後全域を描いた国絵図と幕府から派遣された巡見使が辿った道筋と景観を描いた街道図を中心に、沿道の町と村にあった御茶屋、寺社、御客屋などの絵

図32点を展示した。

初日に行われた公開講演会・第6回永青文庫セミナーでは、本学の北野隆 文学部附属永青文庫研究センター特任教授が「永青文庫資料にみる肥後の景観の魅力—街道とその建築—」と題し、展示資料から読み取れる当時の景観や現在の「御客屋」跡などに触れ、街道とその建築の魅力について解説した。展示会、講演会とも好評で、期間中合わせて300名を超す参加があった。



【佐賀大学附属図書館】

1. 学生選書委員会活動

学生選書委員会の活動は、平成18年開始より6年目を迎えた。今年度の活動として、選書ツアーに加え、職場体験、館内展示等を実施した。

選書ツアーは、8月に福岡市天神の書店（帰りに九州国立博物館見学）、9月に福岡市博多区の書店で実施した。



選書ツアー後は学生選書委員と職員とでミーティングを開催し、選書した本の審議を行っている。



職場体験として、選書して購入した本にバーコードラベルや背ラベルを貼る作業などを行っている。今年度は貸出カウンターでの体験も実施した。



学生選書委員が、自分が選んだ本のポップを作成し、学生選書特設コーナーの飾り付けを行った。利用者の目をひくコーナーとなっている。

図書館1階貸出カウンター前のスペースは、季節の行事や、就職活動などの学生暦に合わせたディスプレイや、新着図書の展示などを、図書館職員が定期的に入れ替えている。

学生選書の特設コーナーとあいまって、足を止め、本を手にする学生が昨年以上に増加している。



(図書館本館)



(医学分館)

2. 佐賀県大学図書館協議会総会での講演会

8月3日に、平成23年度佐賀県大学図書館協議会総会を当館で開催した。総会后、本学の青木歳幸 地域学歴史文化研究センター副センター長が「佐賀学の魅力」と題し、佐賀藩医学の先進性について講演された。



3. 図書館月間講演会

当館では、毎年11月を「図書館月間」として、市民・学生・教職員を対象とした講演会などを開催している。

今年は「佐賀の陶芸—過去・現在・未来—」をテーマに講演会を2回開催した。

【第1回】

日時：11月15日（火）14:00～15:30

演題：「現代陶芸の特質（シンプル・シャープ・クリア・ヴァイタリティ）—日展女流陶芸家・寺崎康子の場合—」

講師：吉永陽三氏
(元佐賀県立博物館・美術館副館長)
寺崎康子氏 (陶芸家「姫の窯」窯元)



【第2回】

日時：11月18日（金）14:00～15:30

演題：「有田・唐津焼と私の作品」

講師：田中右紀氏(佐賀大学文化教育学部准教授)



4. 開館時間の延長

学習環境の充実のため、本館、分館とも開館時刻を8:40から8:30に早めた。また、本館の授業期の閉館時刻を20:00から21:10までに延長した。

【筑紫女学園大学・短期大学部附属図書館】

1. 図書館システム更新

今年9月に図書館業務システムを更新しました。これまでのクライアントサーバー型システムから、Web版システムへ変更したことにより、ハー

5. 学生支援のための学習アドバイザー配置

本年10月より、学務部教務課と協同で、学生支援のための学習アドバイスを実施できるブースを、本館1階学習室内に設置した。月～金曜日の午後は学生・大学院生による学習アドバイザーが常駐している。従来学生センター内に設置されていたが、利用しにくい環境であったため、だれでも気軽に利用できるように図書館内にブースを移設した。



図書館玄関前



学習アドバイザーブース

ドウェア台数も整理縮小することができました。

利用者向けの新機能としては、マイライブラリで貸出履歴が確認できるようになり、なかなか好評のようです。

また、この機にマイライブラリから図書館へ文献複写依頼ができるよう、サービスを拡大しました。

2. 統合検索・リンクリゾルバを導入

図書館システム更新に併せて統合検索システムとリンクリゾルバを導入しました。

データベースや電子ジャーナルも年々増加し、より多くの情報が得られるようになってきているものの、情報を得るためにはある程度検索の技術が必要となってきた状況です。

今回、利用者の情報へのアクセス支援と、電子リソースの有効活用のため、統合検索とリンクリゾルバを組み合わせ導入することにしました。

3. 図書館ホームページを一新

11月には本学図書館ホームページを一新しました。まだトップページと開館スケジュールのページをリニューアルしたところですが、トップに統合検索の検索窓を設けたことが最も大きな変更点です。

【長崎大学附属図書館】

1. 古写真展「長崎・写真伝来 一知られざる日本写真開拓史 四国・九州・沖縄編一」を長崎歴史文化博物館と共催で開催

6月11日～7月8日、長崎歴史文化博物館との共催で、古写真展「長崎・写真伝来 一知られざる日本写真開拓史 四国・九州・沖縄編一」を開催した。長崎大学からは、登録有形文化財に登録されたボードインアルバムをはじめとする写真を出品した。

今回の写真展の最大の特徴は、オリジナル写真の展示であった。これまで開催してきた古写真の展示会は、元のオリジナル写真を、大きく引き伸ばしてパネル等に複製したものの展示であったが、今回の写真展では、その実物を裏面や台紙も見えるよう工夫をした展

4. 学生図書委員の活動が紹介されました。

ku-librarians（京都大学図書系職員勉強会）作成の「学生協働まっぷ」で学生選書を実施している図書館の中に本学も紹介されました。

「学生協働まっぷ」は『カレント・アウェアネス・ポータル』2011年9月21日号（<http://current.ndl.go.jp/node/19137>）に掲載され、また、第13回図書館総合展（11月9日～11日開催）のポスターセッションでも公開されました。

本学学生図書委員もここ数年は定着率が上がってきており、もっと活動を拡大できないものかと思案しているところです。

昨年度 Library Lovers' キャンペーン協賛として学生図書委員が書き溜めたポップ（図書のおすすめ文）を掲示して人気投票を行いました。

今年も第2回筑女ポップコンテストとして、平成22年度学生図書委員のポップ131冊分を8号館図書館入口に10月末から12月末まで掲示しました。投票結果は図書館ホームページに掲載中です。

示を行った。来場者は、一点一点、熱心に見入り、この写真の時代の雰囲気や力を感じ取っていた。





2. 写真展「震災被害と長崎大学の支援」を開催

中央図書館および経済学部分館において、7月より「震災被害と長崎大学の支援—岩手県大槌町にて—」とした写真展示を行った。

展示された写真は、震災直後の3月14日には東北に入り、医療支援活動を行った熱帯医学研究所の山本太郎教授が提供したものであった。

岩手県大槌町の地震と津波による被害と、そこでの長崎大学職員の支援活動の様子を写した写真35枚が展示された。震災翌日に出港して救援物資を搬送した水産学部の練習船長崎丸と、乗り組んだ教職員と学生、長崎大学病院の医師、看護師チームによる医療支援の様子を伝えている写真等であった。図書館を利用する多くの学生が、この写真や手記に見入っていた。

これに合わせて「東日本大震災—今、何ができるのか—」とした図書の企画展示も行った。



3. 「佐藤方朔文庫受贈記念公開展示会」を開催

11月1日～22日、医学分館において、佐藤方

朔文庫受贈記念公開展示会「医学は長崎から 佐藤方朔と外国人教師たち—業績とその時代—」を開催した。

佐藤方朔（1854～1886 山口県（長州藩）出身）は、長崎医学校に学び、オランダ人医学教師マンスフェルトの訳官（通訳）として京都・大阪で活躍、多くの医学書の翻訳も残している。その後、長崎医学校で教鞭を執った他、ドイツに留学し、現在のビュルツブルグ大学でドクトルの学位を取得している。帰国後、陸軍二等軍医正に任命されるが、31歳の若さで病のために死去した。

方朔氏の残した600冊の蔵書には、貴重な講義録、医学書、和漢書があり、これらが昨年度、母校である長崎大学附属図書館に寄贈された。

今回の展示会はこの蔵書の展示公開に合わせ、佐藤方朔とマンスフェルト等、当時の長崎に招かれた外国人教師たちの人物と、日本の医学に貢献した功績を紹介した。



4. 長崎大学学術研究成果リポジトリ:NAOSITEの成長と躍進

2011年1月、NAOSITEはスペインの研究機関CSISが実施している世界リポジトリランキングにおいて、国内3位、世界第26位というランキングを獲得した。これは、リポジトリに登録された論文数やダウンロード数、検索のされやすさが評価されたものであった。

また、10月28日にNAOSITEの登録コンテンツ数が20,000件を達成した。20,000件目の論文は、工学研究科の福永博俊先生のIEEE Transactions

on Magnetics の掲載論文であり、20,000 件目に寄せての福永先生のコメントを、NAOSITE の

ニュースに掲載した。

【福岡教育大学附属図書館】

1. 電子ジャーナル等の見直し

昨年行った電子ジャーナル及び文献情報データベースに関するアンケート調査結果に基づき、2012 年から Wiley 発行の電子ジャーナルの契約を取り止め、Swets 社のリンクリゾルバを導入することにした。また、日本語の情報データベースや新聞記事データベースのトライアルを実施し、新規導入の検討を行っている。

2. 図書館システムの更新

2 月に図書館システムの更新を行った。

新システム (iLiswave-J) では、OPAC で他館との横断検索が可能になったほか、各資料の館内での配置場所や表紙のイメージ、同分類でよく読まれている図書のご案内、ブックレビューの書き込み機能なども追加された。また、web や mobile サイトからの貸出更新ができるようになり、使いやすくなったと学生に好評である。

3. 大学オープンキャンパス協賛

7 月 30 日 (土) 開催の大学オープンキャンパス行事に合わせ、図書館では、図書館ツアーを実施した。ツアーでは、教科書室や子ども図書室、書庫など、高校の図書室にはない施設を見学していただいた。また、通常は自由に入室できない明治期以降の保存用教科書等を配架している『戦前戦後教科書室』では、最近テレビドラマに取り上げられた墨塗り教科書の復刻版などに見入る高校生や保護者が多く、「普段見ることのできない古い教科書や小学校時代の懐かしい教科書が見られてよかった。」という感想が寄せられた。

4. Jr. サイエンス協賛

11 月 3 日 (木) 大学主催イベントの” Jr. サイエンス & ものづくり in 教育大”に参加し、子ども図書室において「絵本の中から飛び出した『ごちそう』をつくって遊ぼう！ (雑材や粘土などを使った絵本の世界の創作)」という対象年齢 3 歳以上の企画を実施した。

今年は、絵本『チョコレートパン』の読み聞かせの後、段ボールのパンに色々な色のソースをかけ、ビーズやお花紙、マカロニでデコレーションなどしてお菓子作りを行い、ラッピング後持ち帰っていただいた。参加者からは、「家庭では作れないような素材がたくさんあって、とても楽しかった。」などの感想が寄せられた。

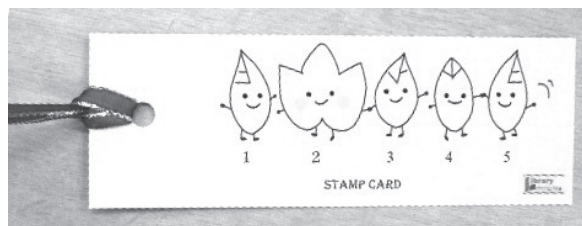


5. Library Lovers' キャンペーン

九州地区の国公私立大学及び高等専門学校図書館による合同企画「読書の木」に参加し、「スタッフおすすめの1冊&1本」(図書&ビデオ)コーナーの展示を行った。



「読書の木」にコメント投稿した利用者には、投稿毎にしおりにスタンプを押し、獲得ポイント数に応じてグッズのプレゼントを行った。おすすめ本の貸出も多く、キャンペーン効果があった。



【福岡県立大学附属図書館】

1. 「大学生の洋書 POP 大賞」に入賞

全国大学生生活協同組合連合会主催の「第1回大学生の洋書 POP 大賞」コンテストで本学の学生がアイデア部門賞などを7人が受賞し、館内とロビーにその作品を展示した。

本学の水野准教授の授業で図書館を活用する「プロジェクト IRC (Interactive Reading Community 読書コミュニティ)」活動の取組の一環である。



POP展示

2. 廃棄図書の学生等への配布

複本のために除籍した図書と、保存期限を経過

した教養・娯楽雑誌について、廃棄前にロビーに展示し、来館者に無償配布した。図書については事前に教員への調査を行い、希望者に配布した。

3. e-DDS の開始

速達での文献の到着を希望する利用者のため、e-DDS での依頼を開始した。

4. 相互貸借で借受けた資料の館外貸出について

今まで相互貸借で借受けた資料は館内閲覧に限定していたが、館外貸出が可能な図書館の資料については、本学の学生及び教職員に限り館外貸出を開始した。

これにより、館内での閲覧時間が長く取れない利用者に好評である。

5. オリエンテーションの範囲拡充

新入生のみを対象としていた図書館利用オリエンテーションについて、学部3・4年生や大学院生を対象としたプログラムを開始した。

参加者は卒業論文や修士論文作成のための文献検索などをスムーズに行うことができるようになった。

【宮崎大学附属図書館】

1. 月例展示について

月例展示については、毎年テーマ毎に実施しているが、今回その一部を紹介します。

本館：

- ・「就活一直線」図書展
- ・冬の省エネ推進ポスター作品展
- ・「芥川賞・直木賞受賞作」図書展
- ・〔新入生歓迎企画〕ようこそ図書館へ「大学生活はじめの一步」
- ・夏の省エネ推進ポスター作品展
- ・省エネで取り組むエコロジー展



医学分館：

- ・読書の秋 医療文学を読む
- ・「ペプチド」展
- ・「新入生歓迎図書展～ようこそ医学分館へ！～」
- ・看護の日に考える「災害看護」
- ・レポート・論文の書き方



2. 「外国人が見た宮崎」作品展の開催

宮崎県国際交流協会が募集した、宮崎県内の留学生が自分の目で撮った写真展を開催した。

3. 本館の日曜開館時間の拡大

学生からの要望により、本館の日曜開館時間を10:00～16:00（現行13:00～17:00）に拡大し、平成23年4月から試行中であるが、従来より入館者数が約3割程度増えている。

4. Library Lovers' キャンペーン宮崎大学オリジナル企画「しおり工房」実施

Library Lovers' キャンペーンにおいて、オリジナル企画として「しおり工房」を実施した。「しおり工房」は本のカバーや帯のデザインを利用したしおりを利用者が作るもので、熱心に作成する姿がみられた。



5. 廃棄図書の学生等への配布

平成23年11月19日～20日に大学開放事業が実施され、図書館の開放を行った。廃棄図書については、他大学等に照会后希望があったものを譲渡し、残りを廃棄しているが、昨年に引き続き、残ったものを学生・教職員・一般市民等の希望者へ無償配布した。

【琉球大学附属図書館】

■平成 23 年度貴重書展「文献資料にみる八重山・琉球」

琉球大学附属図書館では、開館以来収集してきた沖縄関係資料のなかでも、普段一般に公開していない貴重書を中心に、多くの市民に見てもらおうと県内各所において毎年貴重書展を開催しています。今年度は10月22日から30日までの間、石垣市立図書館との共催により開催されました。琉球大学附属図書館が所蔵している貴重資料のなかでも石垣島の旧家宮良家が旧蔵していた「宮良殿内文庫」を中心に約30点が展示され、期間中約720名が来場しました。また、23日には石垣市立図書館視聴覚室において沖縄県立図書館との共催で特別講演「八重山の歴史をさぐる」を開催し、琉球大学教育学部の豊見山和行教授、里井洋一教授による講演が行われました。



■ EU 資料展

例年5月から6月の間に、駐日欧州委員会代表部が主催する日本と欧州連合の友好週間イベント「日・EU フレンドシップウィーク」の一環として、欧州連合（EU）に関する理解を深めることを目的に「EU 資料展」を開催しています。

今年度は6月13日（月）から6月19日（日）までの1週間、附属図書館2階情報ラウンジにおいて「EU 資料展 スペイン～スペインってどんな国？～」を開催しました。

EU の紹介とともに、EU 原加盟国の一つであるスペインを紹介するパネルやスペインの調理器具や漫画などを展示しました。また、EU の広報資料やスペインの観光資料を配布しました。



■企画展

平成 20 年 5 月より、本館ロビー正面に「企画展コーナー」を設置しています。このコーナーで

は、約2か月毎にテーマを変えて、利用者のみならずさまへオススメする本等を紹介しています。

【平成23年度実施企画展】

- 4～5月「Let's enjoy！琉大ライフ♪」
- 6～7月「環境ライフ！エコライフ！」
- 8～10月「めざせ！びぶりに文学賞！」



■ワークショップ「小説の書き方講座」

琉球大学附属図書館では、7月13日、文芸ワークショップ『小説の書き方講座—びぶりに文学賞に応募してみよう！—』を開催しました。前半は、作家であり小説・戯曲などで県内外の文学賞を受賞している大城貞俊氏（教育学部准教授）を講師に迎え、「沖縄的小説の書き方」とする演題で、約三十分間の講演が実施しました。その後、過去のびぶりに文学賞受賞者らや、沖縄で活躍中の詩人の方々による朗読会を開催しました。

後半は「討論！琉大文学！」というタイトルでパネルディスカッションが行われました。パネリストには、前半に引き続き大城貞俊氏、びぶりに文学賞選考委員である、山里勝己氏（法文学部教授）、同じくびぶりに文学賞選考委員の喜納育江氏（国際沖縄研究所教授）、そして過去のびぶりに文学賞受賞者が登壇し、大いに盛り上がりました。パネルディスカッションの内容は過去のびぶりに文学賞について、若者の文学離れや創作活動の裏話等、様々な話題があがり、参加者は熱心に耳を傾けていました。

本ワークショップは、今年で第5回となる琉球大学びぶりに文学賞への応募を促すと同時に、琉

球大学の文学活動の更なる活性化をめざし、企画されたもので、大学の内外から参加がありました。また、昨年十月に行われたワークショップ「声の文学」シリーズの第二回目の企画でもあり、より学生の関心の高いものとなったようです。



■ワークショップ「詩の寺子屋塾」

琉球大学附属図書館では、10月12日、文芸ワークショップ『詩を書いてみよう—詩の寺子屋塾—』を開催しました。講師には、詩人であり、第10回山之口獯賞受賞者の松原敏夫さんをお招きしました。詩とは何かという講師の講義の後、参加者がそれぞれの意見をディスカッションしました。また、参加者の詩の講評、講師の詩の朗読など盛沢山の内容で、大盛況となりました。参加者の方も学生だけでなく職員や学外の方まで多岐にわたっていました。本ワークショップは、今年で第5回となる琉球大学びぶりに文学賞限定企画である詩部門への応募を促進するために企画されました。今回のワークショップ参加者の中にはアンケートで「びぶりに文学賞詩部門へ応募したい」と答える学生もおり、びぶ

りお文学賞への関心の高さもうかがえました。

■附属図書館に新たなグループ学習スペースを増設

琉球大学附属図書館は、本館一階の多目的ホールに新たにグループ学習を行うためのスペースを設置し、10月より利用を開始しました。琉球大学では、学内の各所に学生のための学習スペースが設けられているが、夜10時まで開館している図書館のグループ学習室の利用率は高く、予約で満室になることも多かったため、図書館の多目的ホールを改修し、新たに予約のいらないグループ学習のための施設として、既存の施設を活用して設置されました。

新しい学習スペースの設置にあたっては、本学工学部環境建設工学科の入江准教授に家具類を含めた空間デザインを依頼し、図書館の中で最も居心地の良い空間を目指して改修をすすめました。白と赤を基調とした空間はすっきりとし、ホワイトボードや貸出用のノートパソコンやプロジェクタを活用した学習、人数にあわせて机や椅子を移動させることができ、ゼミ等でも活用が見込まれます。

後期の開始にあわせて提供を始めたグループ学

習スペースは、図書館内で唯一靴を脱いで利用するスペースとなっており、学生が寛いだ雰囲気です学習する姿が見受けられています。



図書館活動報告

福岡県・佐賀県大学図書館協議会

【平成23年度総会】13:00～16:10

日時：平成23年5月20日（金）

会場：九州国立博物館 研修室

出席者：37館45名

当番館：福岡国際大学・福岡女子短期大学図書館

協議事項

- (1) 平成22年度決算報告および監査報告
- (2) 平成23年度事業計画および予算案
- (3) 次期理事館および監事館の選出
理事館 聖マリア学院大学図書館
監事館 保健医療経営大学情報メディアセンター図書館
- (4) 福岡県図書館協会理事の選出

地区研究会報告

- (1) 北部地区
九州工業大学附属図書館
事務長 石丸 克巳 氏

(2) 福岡地区

福岡大学図書館

課長補佐 工藤 邦彦 氏

(3) 南部地区

聖マリア学院大学図書館

山口 真由美 氏

承合事項

- (1) 図書館システムについて

その他

- (1) 北部地区研究会目録講習会

九州女子大学・九州女子短期大学附属図書館

業務課長 松尾 伸二 氏

見学

九州国立博物館バックヤードツアー

福岡県・佐賀県大学図書館協議会北部地区研究会

【第1回研究会】

日時：平成23年6月30日（木）13時30分～16時20分

場所：九州国際大学 1号館2階 大会議室

出席者：14館22名

議事

- (1) 平成22年度決算報告及び監査報告について
- (2) 平成23年度北部地区研究会予算(案)について
- (3) 平成23年度目録講習会の実施について
- (4) 協議事項
1) 表彰規程について
- (5) 承合事項
1) 相互貸借で借り受けた資料の館外貸し出しについて
- (6) 講演
「大学図書館と情報リテラシー教育」

九州国際大学・准教授 安藤友張

- (7) 平成23年度当番館確認

【第2回研究会】

日時：平成23年12月13日（火）13時30分～16時

会場：北九州市立大学 北方キャンパス

本館7F E-702会議室

出席者：14館24名

議事

- (1) 平成23年度表彰者について
- (2) 報告事項
1) 「平成23年度目録講習会」について報告
- (3) 協議事項
1) 平成24年度以降の目録講習会の開催・運営方法について

(4) 承合事項

- 1) 紀要発行と図書館業務の関わりについて
- 2) 電子ジャーナル・雑誌の購入予算について
- 3) 製本化の基準について

(5) その他

- 1) 平成24年度当番館確認

- 2) 平成25年度当番館選出

(6) 講演

「学び合う子どもを育てる」

北九州市立貴船小学校教諭・菊池省三

福岡県・佐賀県大学図書館協議会 北部地区研究会 目録小委員会 平成23年度 目録講習会（中級コース）開催報告

1. 講習会実施概要

平成19年度から北部地区研究会において目録講習会を開催してきた。開催内容については、初年度は、デモンストレーション形式で、半日開催した。平成20・21年度は、初級コースとしてNII（国立情報学研究所）の目録講習会（図書コース）と同等の内容で講習会を開催した。平成22・23年度は初級コース受講者及び目録業務経験者（実務経験者）を対象とした中級コースの講習会を行った。

本来なら、初級コース、中級コースと隔年ごと開催予定であったが、今年度は東日本大震災の影響に伴い国立情報学研究所の教育用サーバー（WebUIP）の利用が不明確なため、予定していた初級コースではなく中級コースへ変更し実施した。

2. 講習会実施目的

今回の講習会も昨年同様、受講の前提となる知識・技術は『目録規則（日本目録規則・英米目録規則・コーディングマニュアル等）及び目録業務を理解していること。』を準拠していること。

研修目的を目録業務担当者が共通に理解しておくべき、総合目録所在データベースの構成、内容、データ登録の考え方を再認識し、各図書館員のスキルアップを目指すものとして、中級者を対象とした講習会を行った。

3. 講習会実施状況

日時：平成23年8月24日（水）9：00～17：00

場所：九州女子大学・九州女子短期大学 耕学館
E203教室

申込人数：27名（内 1名欠席）

参加人数：26名

講師及び講師補助：

九州共立大学附属図書館 上井、築地

九州国際大学図書館 坂田

近畿大学産業理工学部図書館 白石

九州女子大学・女子短期大学附属図書館 矢崎

4. 講習会カリキュラム

- ・目録検索（検索方法の再確認）・演習
- ・所蔵登録（所蔵登録の再確認）・演習
- ・流用入力・書誌修正・演習
- ・書誌修正・書誌新規入力・演習
- ・セルフチェックテスト1-3
- ・セルフチェックテスト結果確認
- ・グループ演習説明
- ・グループ演習/個人回答
- ・グループ演習/グループ討議
- ・情報源の取り方・演習回答説明

5. 講習会内容

5.1. 教材

午前中の講習教材は、NIIの目録講習会（図書コース）のテキストおよび問題集を使用した。課題等の演習を

行う際には、「WebUIP」を利用し回答を入力した。

午後からの教材（グループ演習課題）については、IAAL(NPO法人大学図書館支援機構)の方に協力頂き、北部地区独自の教材作成を行った。特に教材作成の際には、受講者のレベル設定を習得テストの結果をふまえ受講者が間違えそうな課題を選び作成した。当日の演習用の教材（課題）の情報源は、ホームページ上からの情報提供と現物のみとし、紙での配布はしなかったため、情報源が見つらいとの声もあった。今後教材の情報提供方法については要検討である。

また、演習用の課題数については、全問回答する時間がなかった事や正解の解答率が低いことから教材（課題）のレベル設定を再度検討する必要があると思われた。

5. 2. 方法

講習会参加者については、講習会前にNIIの教材「RENANDI」を使い「e-learning」（事前学習）や「習得テスト」を行ってもらった。講習会当日の午前中は初級コース（NII開催の目録講習図書）の内容を復習程度にポイントをおさえ行った。講習後は、「セルフチェックテスト」を行い各自の習得状況の確認を行った。午後からはグループ演習とし、1グループ4名（経験年数がある人を中心にグループ分けをした）とし、実際の図書（参加者から提出されたディスカッション用題材）等をまず個人で解答を出し、その後グループでディスカッションを行い「WebUIP」に解答を入力してもらった。

今年度は特に昨年度の反省から講習の時間を大幅に減らし、グループ演習（ディスカッション）にかける時間を多くとり、現場での情報の取り方、書誌の見方等実務の中で迷いそうな目録の課題を提示し、グループでディスカッションを行いながら解答してもらおう方法を取り入れた。

6. 講習会実施結果

昨年に引き続き中級コースということ、参加申込者が経験年数のある方が多かったのでかなりレベルを高く設定して行った。そのため、通常行われる目

録講習内容をかなり短縮して復習という形で行った。しかし、その反面「セルフチェックテスト」の結果（60～100点）に差があり習得状況に個人差が出た。

グループ演習の時間は昨年よりかなり長くとったこと、課題のレベル設定を高めたためグループディスカッションの時間はかなり盛り上がり個々のスキルの確認ができたようだ。

また、受講者からもこの講習会を通して知識の再認識ができたことや目録担当者の横のつながりができたことは良かったとの意見がだされた。

7. 今後の課題と方向性

今後、北部地区研究会においての目録講習会のニーズは初級より中級にあるのではないかと考える。また、現在北部地区研究会で目録講習会を開催しているが、参加者は福岡県・佐賀県大学図書館協議会加盟館の図書館職員である。できればこの研修体制がもっと幅広いものになればより効果が見込まれるのではないかと考える半面、北部地区図書館の実態に合わせた実務レベルの研修を考えると現在の形が良いのではないかとも思う。

ただ、図書館職員が減少する今、他館と協力して研修（目録講習会など）を行う事は効果的であると考える。できれば、今後も北部研究会において目録講習会が継続して開催できるよう協力をお願いするところである。

8. 最後に

今年度、目録講習会においてご協力頂きました国立情報学研究所、NPO法人大学図書館支援機構（IAAL）をはじめとする関係各所および担当者へ厚くお礼申しあげます。

（文責：北部地区目録講習会小委員会 九州女子大学・九州女子短期大学附属図書館 矢崎美香）

平成23年度 福岡県・佐賀県大学図書館協議会
福岡地区研究会記録

◎日 時 平成23年11月25日(金) 13:30～16:40
(受付開始 13:00)

◎会 場 福岡工業大学 本部棟 3階『第2会議室』

◎出席者 13館27名

◎研究会 福岡工業大学・福岡工業大学短期大学部
附属図書館

担当館 九州大学附属図書館

1. 研究会開会 (13:30～13:40)

- ・当番校館長挨拶
福岡工業大学附属図書館 館長 赤木 文男 氏

2. 講 演 (13:40～14:45)

- ・演 題:「図書館マーケティングの現状分析
と課題」
- ・講演者:九州情報大学教授 南 俊朗 氏

3. 休 憩 (14:45～15:10)

4. 協議事項 (15:10～15:40)

- ・協議題:「図書館における学習支援について」
- ・提案館:福岡工業大学
提案館より提案理由について説明の後、協議が行われた。

5. 事例報告 (15:40～16:15)

- ・題 目:Library Lovers' キャンペーンの取
り組みについて
- ・報告者:九州大学附属図書館
利用支援課文献流通サービス係
大田 海 氏

6. 承合事項 (16:15～16:30)

- (1) ①選書はどのように行っていますか?
②選書のための基準はありますか?
提案館:九州情報大学図書館
- (2) 貴重図書の閲覧、帯出および撮影・出版掲載
等複写について
提案館:福岡大学図書館
- (3) 外国雑誌の見積・発注方法について
提案館:中村学園大学図書館
- (4) 文献複写業務における現金以外での料金決済
の導入状況について
提案館:九州大学附属図書館
- (5) 蔵書点検について
提案大学:九州大学附属図書館
以上5件について各館より提案理由および回答
に対してお礼が述べられた。

7. 平成24年度福岡地区研究会当番大学の紹介
(16:30～16:40)

- ・次期当番館として、福岡女子大学附属図書館、
筑紫女学園大学・短期大学部図書館、中村学
園大学図書館が紹介され、当番館を代表して
筑紫女学園大学・短期大学部図書館から挨拶
があった。

8. 閉 会 (16:40)

※閉会后、見学希望者を図書館へ案内した。

福岡県・佐賀県大学図書館協議会南部地区研究会

【平成22年度 第2回研究会・総会】

日 時：平成23年2月10日(木)13:30～16:30

会 場：聖マリア学院大学2号館会議室

出席者：12館15名

当番館：聖マリア学院大学図書館

議 題

研究テーマ

- (1) レファレンス・サービスのスキルアップについて

協議事項

- (1) 平成23年度研究テーマについて
- ①図書館における電子書籍の位置付けについて
 - ②図書館の利用促進について
 - ③図書館業務の効率化について
 - ④レファレンス・サービスのスキルアップについて
- (2) 当番館ローテーションについて

承合事項

- (1) 館内清掃及び閉架書架、貴重資料室等の資料や書棚の清掃について
- (2) 携帯電話の利用制限について

【平成23年度 第1回研究会】

日 時：平成23年9月12日(月)13:30～16:30

当番館：西九州大学短期大学部附属図書館

会 場：西九州大学短期大学部3408会議室

出席者：12館15名

講 演

演 題：「行きたくなる図書館の扉を拓くのはあなた！」—大学の特色を生かす図書館運営—

講 師：別府大学附属図書館 館長石井保廣氏

議 題

研究テーマ

- (1) 図書館の利用促進について
- (2) 図書館業務の効率化について

- (3) 同じ分類番号の図書を多数所蔵している場合の分類番号以外での配架方法について

- (4) 長期延滞者(学生)に対する対応について

講 演

演 題：眼と心

講 師：聖マリア学院大学看護学部教授

中山 和道 氏

その他

- (1) 平成22年度南部地区研究会のまとめについて

総 会

- (1) 平成22年度決算について
- (2) 平成23年度予算(案)について
- (3) 平成23年度幹事館及び当番館の選出について
- 第1回：西九州大学短期大学部附属図書館
- 第2回：久留米工業大学図書館
- (4) 平成23年度協議会理事の当番について
- 理事館 聖マリア学院大学図書館
- 監事館 保健医療経営大学情報メディアセンター図書館
- (5) その他

承合事項

- (1) 製本雑誌を資産登録する際の評価額について
- (2) 寄贈図書受入に関する基準があればご教示ください。また、規程があればいただけないでしょうか?
- (3) 図書館内での飲食の持ち込みはどうされているか?

【平成23年度 第2回研究会】

当番館：久留米工業大学図書館

佐賀県大学図書館協議会

1. 平成23年度総会

日 時：平成23年 8 月 3 日（水）11:00～15:50
当番館：佐賀大学附属図書館
会 場：佐賀大学附属図書館 本館 4 階 会議室
出席者：8 名
協議事項等

- ① 平成22年度決算報告について
- ② 平成23年度予算（案）について
- ③ 平成23年度図書館活動費の補助について
- ④ 平成24年度幹事館および監査館の選出について
- ⑤ その他

報告事項

- ① 各大学図書館の活動状況について
- ② その他

承合事項

- ① コミック（漫画）本の受入について
- ② 除籍基準について

懇談会及び情報交換

講演会

講演者：佐賀大学地域学歴史文化研究センター
副センター長 青木 歳幸
演題名：「佐賀学の魅力」

長崎県大学図書館協議会

1. 平成23年度総会

期 日：平成23年 6 月10日（金）14:00-16:30
場 所：長崎県立大学シーボルト校
出席者：11館24名（外に長崎県公共図書館等協議会より2名）

議 題：

- (1) 平成22年度事業報告について
- (2) 平成22年度決算・監査報告について
- (3) 平成23年度事業計画（案）について
- (4) 平成23年度予算（案）について
- (5) 平成24年度総会会場館について
- (6) 平成23～24年度研修企画委員について
- (7) その他

報告事項：

- (1) 平成22～23年度役員館について
- (2) 各館の当面する諸問題について
- (3) その他

2. 研修事業（平成23年1月～12月）

- (1) 公共図書館等協議会との合同研修講演会
テーマ：法律・判例の検索方法及びNDLサーチ

日 時：平成23年 9 月 5 日（月）10:00-16:20
場 所：長崎大学情報メディア基盤センター
内 容：

「法律・判例の検索方法」

講 師：いしかわまりこ氏

（筑波大学法科大学院非常勤講師）

「NDLサーチの移行及びNDL書誌データ利用」

講 師：志村努氏

（国立国会図書館関西館図書館協力課）

参加者：82名（大学6名，公共等76名）

(2) 研修講演会

テーマ：これからの大学図書館・大学図書館員
—小規模大学を中心に

日 時：平成23年12月 2 日（金）14:30-17:00

会 場：長崎大学附属図書館

内 容：

「これからの大学図書館・大学図書館員に求められること—幾つかのキーワードから」

講 師：岡本真氏

（アカデミック・リソース・ガイド）

参加者：21名

熊本県大学図書館協議会

1. 平成23年度熊本県大学図書館協議会総会

日 時：平成23年6月9日（木）16：00～16：40

会 場：崇城大学図書館 会議室

出席者：12館22名

議 事：

- (1) 平成22年度総会議事録の確認
- (2) 平成22年度事業報告について
- (3) 平成22年度収支決算並びに監査報告について
- (4) 平成23年度事業計画(案)及び予算(案)について
- (5) 次年度世話館について
- (6) その他（照会事項）

2. 平成23年度熊本県大学図書館職員研修会

①セミナー（講演会）

日 時：平成23年10月20日（木）10：00～12：00

会 場：くまもと森都心プラザ6階 A会議室

講 師：田中 榮博 氏（くまもと森都心プラザ図書館長）

講演題：「くまもと森都心プラザ図書館が目指すもの」

参加者：12館23名

②実務者研修会（図書館見学）

日 時：平成23年10月20日（木）13：00～14：30

会 場：くまもと森都心プラザ図書館

参加者：12館23名

大分県大学図書館協議会

1. 平成23年度総会

日 時：平成23年9月30日（金）16：00～16：50

当番館：大分工業高等専門学校 図書館

会 場：大分工業高等専門学校 図書館2階

総合メディア教室

出席者：15名

協議事項等

〔協議題〕

- (1) 平成22年度事業報告について
- (2) 平成22年度決算報告(案)及び監査報告(案)について
- (3) 平成23年度事業計画(案)について
- (4) 平成23年度予算(案)について
- (5) 平成24年度役員館(案)及び当番館(案)について

〔報告〕

- (1) 大分県地域共同リポジトリ（仮称）の勉強会の報告について
- (2) 「大分県大学図書館間相互利用実施要項・別表」の変更について

2. 講演会

日 時：平成23年9月30日（金）15：10～15：50

会 場：大分工業高等専門学校 図書館2階

総合メディア教室

講 師：大木 正明氏（大分工業高等専門学校准教授）

演 題：「図書から広がるフィルム・ツーリズム」

参加者：15名

主 催：大分工業高等専門学校 図書館2階

総合メディア教室

3. 研修会

日 時：平成23年2月18日（金）13：30～15：40

場 所：大分県立芸術文化短期大学 人文棟2階

会議室

演 題：「これが焦点だ！学術情報リテラシープログラムの開発と企画」

講 師：井上真琴氏（同志社大学企画部企画室企画課長）

参加者：28名

宮崎県大学図書館協議会

1. 平成23年度宮崎県大学図書館協議会総会

日 時：平成23年9月16日（金）

14:30～16:00

会 場：宮崎大学附属図書館共同研究室

出席者：加盟7大学、1高専及び宮崎県立図書館
（オブザーバー館）

計15名

議 事：

- (1) 平成22年度決算報告及び監査報告
- (2) 平成23年度事業計画及び収支予算
- (3) 協議事項
 - ① 夏季における省エネルギー対策について
 - ② 電子媒体による新聞記事の購読について
- (4) 承合事項
 - ① 「宮崎県大学図書館協議会と宮崎県公共図書館連絡協議会における図書館資料の現物貸借要領」にもとづく実績について
 - ② 延滞対策について
 - ③ 蔵書点検方法等について
 - ④ 教員の研究費で購入した雑誌の取扱いについて
 - ⑤ 返却期限を過ぎた場合の罰則等について
 - ⑥ 学生の活用について

⑦ 館内への飲食物の持ち込みについて

⑧ 電子ブックの取り扱いについて

2. 平成23年度宮崎県大学図書館職員等研修会

日 時：平成23年11月21日（月）

13:00～16:40

会 場：宮崎大学附属図書館共同研究室

テーマ：図書館職員のための情報検索セミナー

参加者：37名

講師等：

第一部：「情報検索の基礎知識」～紀伊國屋書店電子商品営業部

第二部：「情報検索実習」～各データベースの利用方法－基礎から応用－～紀伊國屋書店電子商品営業部



鹿児島県大学図書館協議会

1. 第32回鹿児島県大学図書館協議会総会

日 時：平成23年5月27日（金）15:00～17:00

会 場：鹿児島大学附属図書館
ライブラリーホール

出席者：11館24名

議 事：

- (1) 平成22年度会務報告
- (2) 平成22年度決算報告及び監査報告
- (3) 平成23年度事業計画
- (4) 平成23年度予算審議

(5) 協議題審議

（協議事項）鹿児島県大学図書館共同開催イベントについて

（情報交換）図書の館外貸出利用の促進策について

(6) 報告事項

①共同リポジトリについて

2. 平成23年度鹿児島県大学図書館協議会講演会・
研修会

日 時：平成23年12月16日（金）13:00～17:00
会 場：鹿児島大学附属図書館
ライブラリーホール

研修会

テーマ：図書館での学生力活用について
発表館 鹿児島県立短期大学、志學館
大学、鹿児島国際大学

参加者：37名

講演会

テーマ：千葉大学アカデミック・リンクの取
り組み－教育・学習支援機能を担う
“ティーチング・ハブ”を中心に－
講 師：白川優治氏（千葉大学助教）

参加者：41名

沖縄県大学図書館協議会

1. 平成23年度（第39回）総会

日 時：平成23年9月6日（火）14:30～15:00
会 場：沖縄工業高等専門学校視聴覚ホール
出席者：37名
議 題：平成22年度事業報告について

平成22年度決算報告および監査報告につ
いて
平成23年度事業計画(案)および予算(案)
について
平成24年度の当番館及び平成23年度の監
査館の選出について

テーマ：「英語多読の実際」

講 師：新川 智清氏（沖縄工業高等専門学校図
書館長）

出席者：37名

3. 研修会

日 時：平成23年5月26日（木）14:00～16:30
会 場：琉球大学附属図書館1階オープンサテラ
イト

テーマ：「インターネットで使えるレファレンス・
ツール」

講 師：渡邊 太郎氏（国立国会図書館 主題情
報部 参考企画課）

出席者：31名

2. 講演会

日 時：平成23年9月6日（火）15:15～16:35
会 場：沖縄工業高等専門学校CALL教室

平成23年度 第41回九州地区国立大学図書館協会総会

1. 平成23年度（第41回）総会

日 時：平成23年4月21日（木）13:30～17:00
会 場：ホテル グランデはがくれ 2階
シンフォニーホール

出席者：11館31名

協議事項

- 1) 図書館職員の人事政策課題について
- 2) 国立大学図書館職員の採用試験について
- 3) 大学図書館職員フレッシュ・パーソン・セ

ミナーの開催について

4) 九州地区国立大学図書館協会の代表館・副代
表館選出について

①代表館・副代表館選出について

②その他

5) 国立大学図書館協会の運営等について

①第58回総会のワークショップで取り扱う
テーマについて

②その他

- 6) 大学図書館コンソーシアム連合の発足について
- 7) 九州地区大学図書館協議会等の運営について
 - ①平成23年度九州地区大学図書館協議会の役員館の選出について
 - ②平成24年度九州地区国立大学図書館協会総会の当番館について
 - ③その他
- 8) その他
- 9) 報告事項

- ①実務者連絡会議の開催報告
- 承合事項
 - ① 平成23年度の九州地区国立大学附属図書館の開館時間について
- その他
 - ① 電子ジャーナルの高騰について
 - ② 九州地区国立大学附属図書館情報共有サイトについて

平成 23 年度九州地区国立大学附属図書館館長懇談会

日 時：平成23年12月 8 日（木）13：15～14：45
 会 場：九州大学附属図書館会議室（新館 4 階）
 出席者：11大学 12名

懇談会

・テーマ

1. 図書館が直面している課題について
2. その他

平成 23 年度九州地区国立大学附属図書館事務（部・課）長会議

日 時：平成23年12月 8 日（木）13：15～14：45
 会 場：九州大学附属図書館視聴覚ホール（新館4階）
 出席者：11大学 20名

・協議題

議 事

・報 告

1. 国立大学図書館協会理事会報告
2. 平成23年度九州地区国立大学図書館協会実務者連絡会議報告
3. その他

1. 平成24年度九州地区国立大学法人等職員採用合同図書系二次専門試験について
2. 事務系（図書）試験区分の第一次合格者名簿の他地区への提供について
3. 会話型学習スペースの利用実態について
4. その他

平成 23 年度九州地区国立大学附属図書館館長・事務（部・課長）会議

日 時：平成23年12月 8 日（木）15：00～17：15
 会 場：九州大学附属図書館視聴覚ホール（新館 4 階）
 出席者：11大学 32名

・協議題

議 事

・報 告

1. 館長懇談会報告
2. 事務（部・課）長会議報告
3. 国立大学図書館協会理事会報告
4. その他

1. 国立大学図書館協会監事の選出について
2. 国立大学図書館協会地区助成事業について
3. 「Library Lovers'」キャンペーンの実施について
4. 図書館の学習支援及び教育活動への直接の関与について
5. 図書館職員の確保・育成について
6. その他

平成 23 年度九州地区国立大学図書館協会実務者連絡会議

第 1 日目

日 時：平成23年10月20日（木）13：30～17：15

場 所：佐賀大学附属図書館 4階会議室

出席者：11大学13名

(2) 図書館独自の防災計画、対応などのマニュアルの作成について

(3) 災害対策等についての現況調査について

(4) 防災訓練の実施状況について

(5) 職場体験学習、インターンシップ、または職場外研修の受入について

(6) 学生支援のための学習アドバイザー（学生）の配置について

(7) 研究室所在図書蔵書点検について

(8) インターネット販売等にかかる立替払いについて

1. 協議事項

テーマ「大学図書館における災害時の対応と事業継続計画（BCP:business continuity plan）」

(1) 大学図書館における災害時の対応と事業継続計画（BCP:business continuity plan）

2. 承合事項

(1) 災害等が発生した場合の図書館としての具体的な対応や危機管理マニュアルの作成について

第 2 日目

日 時：平成23年10月21日（金）9：30～12：00

場 所：佐賀大学附属図書館

佐賀城本丸歴史館・施設見学

私立大学図書館協会 西地区部会 2011（平成 23）年度 第 1 回九州地区協議会

開催日時：2011（平成23）年 4 月 21 日（木）

14：30～17：00

会 場：グランデはがくれ 1階 ハーモニーホール

出席者：46館76名

①平成23年度九州地区大学図書館協議会の役員校について

・表彰委員館 福岡女学院大学

・編集委員会 九州国際大学

I. 報告事項

(1) 九州地区協議会関係

(2) 九州地区大学図書館協議会関係

(3) 西地区部会関係

(4) 私立大学図書館協会関係

III. 承合事項

(1) 「学生参加型」の図書館について(筑紫女学園大学)

II. 協議事項

(1) 九州地区協議会関係

①西地区研究会本会からの研究発表者の推薦依頼について

②九州地区協議会研究会について

2011年 8 月 26 日(金)に九州女子大学で開催予定

(2) 九州地区大学図書館協議会関係

IV. 確認事項

(1) 九州地区協議会HP及びMLの運用について

(2) 外国新聞分担保存について

(3) 九州地区協議会役員校等ローテーション表(2011年度版)及び同表解説

(4) 九州地区協議会年度別幹事校

(5) 本会関係行事・会議等スケジュール

V. その他

(1) 2011年度当番校・幹事校・役員校等の紹介

私立大学図書館協会 西地区部会 九州地区協議会
2011（平成23）年度 第1回定例幹事会

1. 期 日：2011（平成23）年6月3日（金）
14：00～16：00
 2. 会 場：九州女子大学 3階会議室
 3. 当番館：九州女子大学
 4. 参加者：5館8名
 5. 内 容：
 - (2) 地区協議会研究会補助金10万円について
 - (3) 九州地区協議会のあり方について
- II. 確認事項：
(1) 九州地区協議会年度別幹事校について
- III. 報告事項：
(1) 協会賞の申請内容及び選考の経緯について
- I. 協議事項：
(1) 2011年度九州地区研究会開催（案）について

私立大学図書館協会 西地区部会 九州地区協議会
2011（平成23）年度 九州地区研究会

1. 期 日：2011（平成23）年8月26日（金）
10：15～17：00
 2. 会 場：九州女子大学 耕雲館
 3. 幹事校：九州女子大学図書館
 4. テーマ：大学図書館の現代的役割と将来の展望
について
 5. 参加者：37館56名
 6. 内 容：
 - I. 事例発表
 - (1) 「ラーニング・コモンズを中心としたAPUライブラリーの学習支援の取り組みについて」
立命館アジア太平洋大学
北村 滋朗 氏、大勢 美穂 氏
 - (2) 「留学生の図書館利用に対する意識」
日本経済大学 古賀 郁人 氏
 - (3) 「図書館ホームページを中核とした利用者
 - サービスの向上と経費・労力の削減の試み」
九州女子大学・九州女子短期大学
松尾 伸二 氏、永野 明 氏
- II. 講演
「情報検索から資源発見へ：ディスカバリサービスの可能性」
講師 筑波大学 宇陀 則彦 氏
- III. パネルディスカッション
「大学図書館の現代的役割と将来の展望について」
パネリスト 筑波大学 宇陀 則彦 氏
九州大学 片岡 真 氏
国立情報学研究所 守屋 文葉 氏
熊本学園大学 山田 美幸 氏
司 会 九州女子大学・九州女子短期大学
高橋 昇 氏

私立大学図書館協会 西地区部会 九州地区協議会
2011（平成23）年度 研究会準備委員会

1. 期 日：2011（平成23）年11月11日（金）
14：00～15：30
2. 会 場：崇城大学 図書館 4階会議室
3. 当番館：崇城大学
4. 参加者：7館11名
5. 内 容：
 - I. 協議事項
 - (1) 2011年度九州地区研究会について
 - (2) 2012年度九州地区研究会についてメインテーマ：「よりよい大学図書館を目指

して「A library is a growing organism」]

日時：2012（平成24）年9月7日（金）

研究会 10：15～16：00

昼休みに図書館内見学

意見交換会 16：30～18：00

研究会会場：崇城大学

意見交換会会場：ホテルニューオータニ熊本

(3) その他

私立大学図書館協会 西地区部会 九州地区協議会 2011（平成23）年度 第2回定例幹事会

1. 期 日：2011（平成23）年12月9日（金）

14：00～16：00

2. 会 場：南九州大学 本館

3. 当番館：南九州大学

4. 参加者：6館9名

5. 内 容

I. 協議事項

(1) 2011年度九州地区協議会総会の報告について

(2) 2012年度九州地区協議会総会実施計画(案)について

(3) 2011年度九州地区協議会・研究会の会計報告について

(4) 西地区部会2012年度研究会研究発表者の推薦について

(5) 私立大学図書館協会役員校・当番校の選出について

(6) 2012年度九州地区大学図書館協議会の私立大学部会の表彰委員館・編集委員館の選出について

II. 確認事項

(1) 本会関係の次年度以降の役員校・当番校について

(2) 地区協議会の繰越金の弾力的運用について

(3) 九州地区協議会総会のあり方について

事務局報告

平成23年度九州地区大学図書館協議会 幹事館・副幹事館会議

- 日時：平成24年1月12日（木）
15時00分～16時30分
- 会場：九州大学附属図書館1階会議室
- 出席者：
○副幹事館
宮崎大学附属図書館（国立大学部会）
図書課長 池田 光弘
長崎県立大学附属図書館（公立大学部会）
シーボルト校図書課長 吉野 康弘
熊本学園大学附属図書館（私立大学部会）
図書情報課長補佐 上野 照美
○幹事館
九州大学附属図書館
事務部長 濱崎 修一
図書館企画課長 飯田 昇平
利用支援課長 古賀 幸成
図書館企画課長補佐 佐本美恵子

- 欠席者
九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学（私立短期大学部会）

5 議 題

- 1) 平成24年度九州地区大学図書館協議会総会について

次期当番館 鹿児島大学附属図書館から「平成24年度九州地区大学図書館協議会等実施計画（案）」の提出があり、日程等内容を確認のうえ、原案のとおり承認された。

- 2) 第62回九州地区大学図書館協議会総会議事要録（案）について

今年度当番館 佐賀大学附属図書館から「第62回九州地区大学図書館協議会総会議事要録（案）」提出があり、内容の確認を行ったところ

字句等の間違いが数か所あったので、修正ののち書面回議に諮ることになった。

（第62回九州地区大学図書館協議会総会議事要録（案）は平成24年1月20日（金）に書面回議により開催の結果、意見等の申し出がなかったため、修正案のとおり承認された。）

- 3) 九州地区大学図書館協議会の財政状況について
今年度の総会において、監査館より九州地区大学図書館協議会の財政状況について収支のバランスが取れるよう検討願いたいとのご意見をいただいている。

実際、ここ数年赤字の年が多く繰越金で補っている状況である。事務局としては経費の削減を行い財務基盤の安定化を図りたい。具体には削減効果が最も大きい研修会補助費の上限を平成24年度より3万円から2万円に減額し、支出を削減することにより収支を均衡させたいと考えている。資料に基づきこれまでの経緯を含めた支出削減案を説明の後、第63回九州地区大学図書館協議会総会の協議事項としたいとの提案があり、審議を行った。

○ 財政状況の話ということだったので会費の値上げをする様な話かもしれないと聞いていた。そういうことではなかったのか。

○ 確かに最初は会費の値上げについても検討したが、まずは経費の削減からということにおちついた。支出の見直しということ考えた時には、総会運営費の30万円にしても総会講演会経費にしてもきびしい額なのではないかなと考える。研修会補助費は9地区で1万円づつ削減すると9万円の経費削減という

ことになるので提案した。

- 説明にもあったとおり実態があって、それに手を打たねばならないので収入をふやすか、支出を減らすか止むを得ないのではないか。これは予算（案）にするということで決定は総会に諮るということか。
 - 事前に検討いただいて、総会に諮るということである。
 - 総会講演者も3年位に1回は文科省・国会図書館或いは他地区の大学より招聘するとなっているが、予算がないとその辺の取り扱いも係ってくる。
 - それなりに金額が見えれば研修内容をそれなりに考えることもできる。どうしても時にはその時に考えるということもある。
- などの発言があり、審議の結果、次回総会の協議事項とすることが承認された。

4) その他

- ① Library Lovers' キャンペーンの来年度以降の取り組みについて

平成22年度からスタートして2年間継続して取り組みを行っている。当初は国立大学協議会の地区助成事業とし始まったが、広く九州地区の大学図書館へ参加の呼びかけを行った結果、参加館30館となった。高い評価も得られ九州地区大学図書館協議会誌に報告も行った。引き続き23年度も実施することになり企画の段階から国・公・私を含めて取り組みを行い45%の参加率となった。事務局よりこの成果を踏まえ、24年度から九州地区大学図書館協議会の事業の位置づけで実施していきたいとの提案があった。

これについて、WGに入れてもらったが職員も楽しくやっていた。協働してやっている姿からすると人的交流、企画の面も含めて参考になっている。このとおりやっていただきたい。良い取り組みだと思う。などの発言が

あり、次回総会の協議事項として提案することが承認された。

- ② 九州地区大学図書館協議会総会における協議事項等について

事務局から協議事項等は別途当番大学の鹿児島大学から照会する予定であることを報告した。

- ③ 副議長について

総会における副議長は、平成11年度からの副幹事館制度の発足により、副幹事館の図書館長にお願いしている。平成24年度についても、副幹事館のうちのいずれかの図書館長にお引き受けいただきたい旨の説明があり、意見交換の結果公立大学部会の長崎県立大学の図書館長にお願いすることとなった。

- ④ 表彰委員館、編集委員館の交代について

表彰委員館、編集委員館の任期は1年間なので、各部会で当番館の検討をお願いしたい。九州地区国立大学図書館協会の総会当番の平成44年度までの予定表をお渡しするので各部会での当番館選出の参考資料としていただきたい。なお、幹事館、副幹事館は、交代の年度ではないとの説明があった。

- ⑤ 平成25年度の総会は福岡地区の当番で国立大学部会の当番館は福岡教育大学であるとの報告があった。

- ⑥ 平成24年度の監査館について

監査館は事務局に近いということで福岡市内の大学にお願いしている。今年度は福岡工業大学にお願いしている。ローテーションによると平成24年度は筑紫女学園大学であるという説明があり、事務局から筑紫女学園大学に内諾を得ることということで了承された。

第 62 回九州地区大学図書館協議会総会記録

日 程 表

1. 期 日 平成 23 年 4 月 22 日 (金)
2. 会 場 ホテル グランデはがくれ 2 階「フラワーホール」
佐賀市天神 2 丁目 1 番 36 号
電話 0952-25-2212 FAX 0952-24-2727
URL : <http://www.grande-hagakure.com/>
3. 日 程 9 : 30 受付開始
10 : 00 1. 開 会
2. 当番館長挨拶
3. 幹事館長挨拶
4. 会議日程・配布資料の説明
5. 議長、副議長の選出
6. 議長、副議長の挨拶
7. 新任館長等紹介
8. 表彰式
9. 幹事館報告
10. 平成 22 年度決算及び監査報告
11. 平成 23 年度予算 (案)
11 : 00 12. 国立、公立、私立、私立短大各部会報告
12 : 00 昼 食
13 : 00 13. 講 演
講師 : 旭学園理事長 高島 忠平 氏
演題 : 邪馬台国の条件
14 : 30 14. 協議事項
15. 承合事項
16. 次期役員館の選出
17. 次期当番館の挨拶
18. 議長、副議長の解任
16 : 00 19. 閉 会

出席者名簿（○は新任者）

【国立大学】

九州工業大学附属図書館

附属図書館長 鶴田 隆 治
事務長 石丸 克 巳

福岡教育大学附属図書館

附属図書館長 池田 修
学術情報課長 小川 稔

九州大学附属図書館

附属図書館長 ○川本 芳 昭
事務部長 濱崎 修 一
図書館企画課長 飯田 昇 平
利用支援課長 古賀 幸 成
図書館企画課長補佐 佐本 美恵子

佐賀大学附属図書館

附属図書館長 稲岡 司
附属図書館副館長 吉田 裕 樹
学術研究協力部長 川上 敏 彦
情報図書館課長 野村 正 人

長崎大学附属図書館

附属図書館長 ○姫野 順 一
学術情報部長 西山 常 清
学術情報サービス課長 叶井 貫一郎

熊本大学附属図書館

附属図書館長 ○森 正 人
図書館ユニット長 ○城川 由 美

【公立大学】

北九州市立大学学術情報総合センター

図書館担当係長 鈴木 吉 美

九州歯科大学附属図書館

学務部長 川原 利 三

北九州学術研究都市学術情報センター

学術情報担当課長 平野 富士男
主任 柳澤 裕 幸

大分大学学術情報拠点（図書館）

学術情報拠点長 伊藤 哲 郎
研究・社会連携部長 ○石川 幸 秀
学術情報課長 能勢 明 雄

宮崎大学附属図書館

附属図書館長 原田 宏
情報図書部長 ○上村 茂 樹
図書課長 池田 光 弘

鹿児島大学附属図書館

附属図書館長 井上 佳 朗
学術情報部長 長友 良 維
情報管理課長 ○松田 孝 三
情報管理課総務係長 新野 博 樹

鹿屋体育大学附属図書館

附属図書館長 西 蘭 秀 嗣
学術図書情報課長 ○森 規 昭

琉球大学附属図書館

附属図書館長 ○高 良 倉 吉
事務部長 ○真栄城 潔
情報管理課長 中尾 実
情報サービス課長 ○大山 努

出席館 11館 34名

欠席館 なし

福岡県立大学附属図書館

附属図書館長 古橋 啓 介
学務部長 鬼丸 健 二

長崎県立大学附属図書館

附属図書館長 ○大塚 一 徳
佐世保校附属図書館長 阿部 律 子
佐世保校図書課長 寺田 勝 嘉
シーボルト校図書課リーダー 坊野 隆 義

熊本県立大学学術情報メディアセンター
センター長 津 曲 隆

鹿児島県立短期大学附属図書館
附属図書館長 岡 村 俊 彦

大分県立芸術文化短期大学附属図書館
附属図書館長 根之木 英 二
企画情報課長 伊 達 和 男
職 員 姫 野 由 美

沖縄県立看護大学附属図書館
附属図書館長 ○大 湾 明 美
主 査 幸 地 哲

大分県立看護科学大学附属図書館
附属図書館副館長 ○小 野 美 喜
職 員 白 川 裕 子

名桜大学附属図書館
附属図書館長 高宮城 繁
参 与 又 吉 純
係 員 名 城 弥 生

宮崎公立大学附属図書館
主任主事 赤 澤 央 臣

出席館 13 館 25 名
欠席館 2 館

宮崎県立看護大学附属図書館
附属図書館長 布 施 裕 二
主 査 ○尾 曲 美智男

【私立大学】

西日本工業大学図書館
図書館長 ○赤 司 信 義
課 長 ○黒 岩 壽

福岡女学院大学図書館
図書館課長 鶴 典 子

西南女学院大学図書館
係 長 河 田 洋

九州産業大学図書館
事務部長 岩 佐 哲 朗
事務室長 ○川 上 祐 二
庶務係長 宮 丸 由美子

九州国際大学図書館
事務室長 峰 日出人

福岡大学図書館
事務部長 石 田 積
課 長 ○奥 蘭 邦 広
課長補佐 式 島 千 春
課長補佐 工 藤 邦 彦

九州共立大学附属図書館
図書館長 森 川 壽 人
業務課長 古 賀 進

九州女子大学・短期大学附属図書館
館 長 高 橋 昇
業務課長 松 尾 伸 二

中村学園大学図書館
図書館長 ○青 峰 正 裕
図書館課長 猿 渡 健 一

福岡工業大学附属図書館
館 長 赤 木 文 男
課長補佐 江 口 典 明

西南学院大学図書館
図書情報課課長 古 庄 敬 文
図書情報課主幹 坂 口 久 人

第一薬科大学図書館 館長 司書	○原 口 浩 一 釘 本 奈 美	長崎純心大学早坂記念図書館 図書館事務室長	岩 崎 由 希 子
九州情報大学附属図書館 司書	藤 理 恵 子	長崎ウエスレヤン大学附属図書館 司書	植 松 久 子
筑紫女学園大学・短期大学部附属図書館 図書館課長	福 田 千 代 子	長崎国際大学図書館 図書館課長	飯 島 芳 典
福岡国際大学・福岡女子短期大学図書館 図書館長 司書	大 里 栄 子 梶 原 正 江	崇城大学図書館 館長 課長	恒 松 郁 生 原 みゆき
久留米工業大学図書館 館長 事務室長	渡 邊 孝 司 萩 尾 文 子	九州ルーテル学院大学図書館 図書館課長	水 谷 江 美 子
聖マリア学院大学図書館 図書館長 司書	井 手 信 山 口 真 由 美	熊本学園大学付属図書館 館長 部長 課長 課長補佐	村 松 茂 美 宮 原 由 美 子 津 村 秀 夫 上 野 照 美
久留米大学附属図書館 館長 課長	○石 川 捷 治 熊 谷 まゆみ	東海大学附属図書館 熊本・阿蘇図書館 課長補佐 特任職員	板 東 弘 小 佐 井 裕 子
保健医療経営大学情報メディアセンター図書館 図書係	○井 上 恵	熊本保健科学大学附属図書館 主任	山 崎 栄 子
西九州大学附属図書館 図書館長 図書館課長 図書館課長補佐	酒 井 出 増 田 定 次 田 中 朋 子	九州看護福祉大学附属図書館 図書館長	佐 藤 林 正
活水女子大学図書館 図書館長 図書館課長	徳 永 幸 子 森 茂 樹	日本文理大学図書館 係長	小 平 正 典
長崎総合科学大学附属図書館 図書館課長	吉 田 政 則	立命館アジア太平洋大学ライブラリー 総合情報センター副センター長	○吉 松 秀 孝 大 勢 美 穂
長崎外国語大学教育研究メディアセンター 係員	田 中 陽 子	別府大学附属図書館 館長 事務長	石 井 保 廣 吉 岡 義 信

事務職員 萩尾美香
事務職員 小野目依

鹿児島純心女子大学附属図書館
事務職員

岩永真佐子

九州保健福祉大学附属図書館
事務室主任

内田ゆかり

志学館大学図書館
図書館長
係長

河原晶子
木佐木和代

宮崎産業経営大学附属図書館
課長

楠本浩徳

沖縄国際大学図書館
図書館長

兼本敏

南九州大学・南九州短期大学図書館

館長 中根忠洋
司書 冨師明子

沖縄キリスト教学院図書館
図書課主任

玉寄勝也

鹿児島国際大学附属図書館
図書館次長

○相良長宣

出席館 43館 73名
欠席館 2館

【私立短期大学】

九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学図書館
図書課長

小林由憲

鹿児島女子短期大学附属図書館
図書館長
課長

○古川恵子
南谷久

九州大谷短期大学図書館
助教・司書

梅野智美

鹿児島純心女子短期大学図書館
事務職員

山之内理恵

東九州短期大学図書館
司書

釘丸知子

出席館 5館 6名
欠席館 2館

第 62 回九州地区大学図書館協議会総会議事要録

1. 開 会

当番館佐賀大学附属図書館の野村課長が開会を宣言し開会した。

2. 当番館長挨拶

当番館である佐賀大学附属図書館の稲岡館長より、挨拶があった。

3. 幹事館長挨拶

幹事館である九州大学附属図書館の川本館長より、挨拶があった。

4. 会議日程・資料等の説明

野村課長より、日程及び配布資料について、説明があった。

5. 議長選出、挨拶

「九州地区大学図書館協議会総会運営に関する細則」第2項に基づき、当番館の館長である佐賀大学附属図書館の稲岡館長が選出され、続いて挨拶があった。

6. 副議長選出、挨拶

議長より、副幹事館である熊本学園大学附属図書館の村松館長を副議長に指名され、続いて挨拶があった。

7. 新任館長等紹介

今年度は新任館長が多数のため、資料1の出席者名簿に基づき、確認された。

8. 表彰式

「九州地区大学図書館協議会表彰規程」に基づき、18名が表彰された。被表彰者を代表して、佐賀大学の吉田みゆき氏、福岡大学の式島千春氏へ、表彰状が授与された。

(1) 勤務期間 20 年以上の者で退職または転職した者（表彰規程第 2 条第 2 号）

（所属機関、氏名の 50 音順）

	表彰の区分	所 属 大 学 名	氏 名
1	第 2 条第 2 号	九州工業大学附属図書館	しば た ま ゆ み 芝 田 眞夕美
2	〃	〃	ふく だ ふ じ お 夫 福 田 富 士 夫
3	〃	九州国際大学図書館	うえ む かい せつ こ 上 向 節 子
4	〃	〃	か い ふ み こ 甲 斐 富美子
5	〃	〃	みや が わ み え こ 宮 川 三 重 子
6	〃	九州大学附属図書館	おの うえ い つ お 尾 上 五 男
7	〃	熊本大学附属図書館	う め は ら け い こ 梅 原 慶 子
8	〃	〃	じょう みち こ 城 倫 子
9	〃	〃	なが む ら の り こ 永 村 典 子
10	〃	長崎大学附属図書館	は ま ぐ ち ち か こ 濱 口 千 賀 子
11	〃	福岡教育大学附属図書館	た ま い け い じ 玉 井 啓 治
12	〃	福岡国際大学・福岡女子短期大学図書館	しも じょう みず え 下 條 瑞 恵

(2) 勤務期間 20 年に達した者（表彰規程第 2 条第 1 号）

（所属機関、氏名の 50 音順）

	表彰の区分	所属大学名	氏名
1	第 2 条第 1 号	鹿児島大学附属図書館	かわさき ちゆみ 川崎 千由美
2	〃	九州大学附属図書館	えとう ひろし 江藤 弘史
3	〃	〃	かわかみ あきひこ 河上 章彦
4	〃	熊本大学附属図書館	たがわ ときこ 田川 登紀子
5	〃	佐賀大学附属図書館	よしだ みゆき 吉田 みゆき
6	〃	福岡大学図書館	しきしま ち はる 式島 千春

（休 憩）

9. 幹事館報告

幹事館の九州大学附属図書館より以下の 5 点について、報告があった。

- (1) 加盟館数について新規加盟館はなかったもので、平成 23 年 4 月 1 日現在の加盟館は国立 11 館、公立 15 館、私立 45 館、私立短大 7 館の合計 78 館である。
- (2) 平成 23 年 2 月に「協議会誌第 53 号」を刊行し、加盟館へ発送済みである。九州工業大学附属図書館長の巻頭言に加え、活水女子大学、九州工業大学、九州工業大学・九州大学・熊本大学・琉球大学共著の 3 点の論文が寄せられ充実した協議会誌になった。編集の方々にも感謝する。
- (3) 協議会の昨年度の後援事業として、九州大学附属図書館主催で平成 22 年 6 月 22 日に開催された「学術情報セミナー - 図書館情報サービスとユーザ 学術情報アクセスへの新たなアプローチ」（参加者 90 名以上）、九州大学大学院統合新領域学府ライブラリーサイエンス専攻設置準備委員会主催で平成 22 年 12 月 18 日に開催された「ライブラリーを科学する」（参加者 161 名）、国立大学図書館協会の地区助成事業「ライブラリーラバーズ」キャンペーン（参加館 30 館）の 3 件を助成した。「ライブラリーラバーズ」キャンペーンは全国的にも注目され実りある成果を達成することができ、今年度も

同様のキャンペーンを実施することが検討されている。

- (4) 九州地区と中国四国地区で新規採用者を対象として隔年で開催されている「フレッシュ・パーソン・セミナー」について、今年度は九州大学を会場として 9 月 15 日～16 日に開催することとなったので、参加願いたい。
- (5) 当協議会への講演の依頼があった、米国大使館レファレンス資料室主催で 5 月 27 日（金）開催される「大統領図書館の歴史と役割」及び、九州大学主催で 6 月 11 日（土）開催される「新しい時代の情報図書館学へ向けて」の 2 件について、参加願いたい。

10. 平成 22 年度の決算報告と監査報告

幹事館より、資料 3 の決算案に基づき報告があり、広告掲載料 15 社中 6 社が未収となっていて 23 年度の収入となる旨が説明された。続いて監査館である福岡大学図書館より、監査の結果、通帳・出納簿とも適切な会計処理が行われている旨の報告があり、審議の結果了承された。監査館より繰越金が減っていて、収支のバランスが取れるよう検討願いたいとの意見があり、幹事館から支出を抑えるとともに収入についても適切な増収を図っていく方針である旨説明された。

11. 平成 23 年度予算（案）
幹事館より、資料 4 の予算案に基づき報告があり、審議の結果承認された。

12. 国立・公立・私立・私立短期大学部会報告

(1) 国立大学部会報告

佐賀大学附属図書館の稲岡館長より、九州地区国立大学図書館協会総会の報告があった。

協議事項

1) 図書館職員の人事政策課題について

九州大学から、この件に関して国立大学図書館協会から理事館宛に地区会議において議論するよう依頼があったが、各大学からの意見をそのまま国立大学図書館協会へ提出することとなった。

2) 国立大学図書館職員の採用試験について

今年度は 7 月 3 日に実施され、専門試験委員会の委員、経費負担等が承認された。

3) 大学図書館職員フレッシュ・パーソン・セミナーの開催について

九州大学からフレッシュ・パーソン・セミナーの開催について説明があり、九州大学を会場に開催されることとなった。

4) 九州地区国立大学図書館協会の代表館・副代表館選出について

代表館には九州大学が、副代表館には鹿児島大学が選出された。

5) 国立大学図書館協会の運営等について

第 58 回総会のワークショップで取り扱うテーマについて「学習教育活動に対する図書館サービスと教員との連携」、「大学図書館における人材育成と外部委託」の 2 つのテーマが選ばれた。

6) 大学図書館コンソーシアム連合の発足について

九州大学から 4 月 1 日付で大学図書館コンソーシアム連合が発足した旨の報告があった。

7) 九州地区大学図書館協議会等の運営について 平成 23 年度九州地区大学図書館協議会の

役員館について、副幹事館には宮崎大学、表彰委員館には鹿児島大学、編集委員館には佐賀大学が選出された。

平成 24 年度九州地区大学図書館協議会総会の当番館には鹿児島大学が選出された。

報告事項

平成 22 年度九州地区国立大学図書館協会実務者連絡会議について、九州工業大学附属図書館石丸事務長より報告があった。

承合事項

平成 23 年度の九州地区国立大学附属図書館の開館時間について、佐賀大学附属図書館野村課長より提案理由について説明があり、各大学の回答を参考にすることとなった。

(2) 公立大学部会報告

大分県立芸術文化短期大学附属図書館の根之木館長より、九州地区大学図書館協議会公立大学部会の報告があった。

協議事項

1) 図書館の除籍基準について

各大学の除籍の基準などを参考にしながら開架スペースには限りがあるので、どのように除籍をしていくか、各大学の現状などについて協議した。

承合事項

1) 返却のしおりに対するクレームについて

2) 機関リポジトリの導入状況について

導入している大学の費用、運営方法、運営の状況等について説明を聞き参考とすることとした。

3) 図書館内での複写について

4) (1) 視聴覚資料の閲覧の場所及び貸出・閲覧の方法について

(2) ソフトの違法コピーを防ぐための方法について

各大学の現状について報告してもらった。

5) 製本雑誌の保存（場所、年限及び処分の流れ・方法）について

雑誌の保管等各大学の状況について報告し

てもらった。

- 6) 機関リポジトリあるいは共同リポジトリへの参加の有無について

2番目の照合事項とともに各大学の取り組みについて報告してもらった。

役員館の選出

役員館を選出した。

- (3) 私立大学部会報告

別府大学附属図書館の石井館長より、私立大学図書館協会西地区部会九州地区協議会の報告があった。

報告事項

- 1) 九州地区協議会

理事校の熊本学園大学より九州地区協議会幹事会での前年度の事業報告、研究会の報告及び幹事館の決定などの報告があった。

- 2) 西地区部会

前理事校の九州産業大学より総会の状況、3回開かれた役員会の状況及び名古屋の金城学院大学での西地区研究会の状況などの報告があった。

- 3) 私立大学図書館協会

西南学院大学で9月に開かれ、研究助成についての報告及び海外派遣助成についての報告があった。

協議事項

- 1) 九州地区協議会

今年度の研究会の開催について8月26日(金)九州女子大学で「大学図書館の現代的役割と将来展望について」というテーマで開催されることとなり、加盟館以外及び加盟校の学生にも参加を呼び掛け、アンケートを取り次回以降の参考とすることとなった。

- 2) 九州地区大学図書館協議会

2011年度九州地区大学図書館協議会の役員館について、表彰委員館として福岡女学院大学、編集委員館として九州国際大学及び九州地区の協議会当番校として南九州大学を選出した。

承合事項

- 1) 図書館における学生活動(学生力の活用)について

筑紫女学園大学から提案理由の説明があり、選書ツアーの活用によって学生の参加への意識が高まったとの報告があった。

各大学の報告では、学生ボランティア、選書ツアーがキーワードになっていた。

確認事項

- 1) 九州地区協議会のホームページ及びメーリングリストの運用について

- 2) 西南学院大学から外国新聞の分担保存について

- 3) 九州地区協議会役員校のローテーションについて

- 4) 行事、会議のスケジュール等について

- (4) 私立短期大学部会報告

鹿児島女子短期大学附属図書館の山口氏より、九州地区私立短期大学図書館協議会総会と研修会の報告があった。

- 1) 総会では、平成22年度の事業報告、決算報告及び監査報告、平成23年度の事業計画について審議され了承された。

- 2) 研修会では、九州龍谷短期大学二羽史裕教授による「子どもの本との出会い～いいきっかけ」と題する講演があり、図書を子供たちに伝えることの大事さをご自身の体験を通じて語られ、鹿屋文庫や多くの作家の話を織り交ぜながら、道筋立てた考え方ができるようになるのは小学低学年からの読書が大事でありまた文学史も重要であるという考えが述べられた。教員や保育士の養成を行っている短期大学としては教育の面から大変興味深い内容であった。

承合事項では、紀要編集に伴う図書館のかわりについて、雑誌の受け入れと拒否及び製本についての2件の回答をまとめた資料で説明された。

寄贈図書の受け入れについて、退職者の研

究室の書籍に関して限られた予算の図書館運営の中で各短大図書館のそれぞれの工夫が紹介された。

- 3) 連絡・報告事項について、平成 23、24 年度の役員館を予定していた短大が第 3 者評価の指摘で引き受けられなくなり 4 月中に検討し決めることとなった。

臨時理事会の報告があり、退会館が 1 館ある事が報告された。

西南学院大学図書館古庄課長から、国立大学部会の「九州地区国立大学附属図書館の開館時間について」どういう傾向になっているのか、公立大学部会の「視聴覚資料の閲覧の場所及び貸出・閲覧の方法について」、DVD の販売方法の変更はどう対応したのかと質問があった。

佐賀大学附属図書館野村課長より開館時間が前後に伸びている傾向にあり、佐賀大学でも 8 時 30 分開館で、閉館も 1 時間遅らせたと回答があった。

大分県立芸術文化短期大学附属図書館根之本館長よりどの大学も CD、DVD の閲覧は館内限定で行っており、違法コピーを防ぐため、ネットワークにつながらない機器を指定したり、USB コネクタセキュリティを付けている大学もあり、現在まで違法コピーが発生していない旨回答があった。

西南学院大学図書館古庄課長から、個人研究図書費で購入された CD、DVD の取り扱いについて質問があり大分県立芸術文化短期大学附属図書館の根之本館長より教員には貸し出しているが、とくに問題は起きていない旨回答があった。

(休憩)

14. 協議事項「図書館における学生参加型企画に求めるべき成果について」

佐賀大学野村課長から学生参加型企画を実施してどういう成果があったか、目指した目標に対してどのくらい達成されたかなどの説明を求められることが多くなってきたので、何にどういう成果

を求めるべきかを議論していただきたいと提案理由について説明があった。

佐賀大学では、学生参加型企画の中で参加した 2 名の留学生は日本での交流の機会ができたとのことであり、司書希望の数人の学生には図書館での職場体験の機会を提供できた。

美術課程の学生にはフィルムライブラリの見学で普段授業では体験できない場所へ連れて行くことができ喜び、他人が読む本を選書する過程を通じ選書の重要性を認識させることができたとの報告があり、いろいろな成果を発表していただいて、この学生参加型企画にどういう目的を入れたらいいのか議論していただきたいと説明があった。

西南学院大学図書館古庄課長より「図書館利用チュータ制」について、受講生、チュータの学生、担当の教員で構成され、受講生は先輩から指導を受けるので、聞く方も聞きやすく、「自己肯定感も強まり、次の課題も意欲的に取り組むことができる」つまり課題をクリアすることによって自信が出てくる事が解ってきた。

チュータの学生には、図書館で基礎的な検索の仕方、雑誌の使い方、図書、辞書、参考図書の使い方について 2 時間程度指導している。その学生が後輩に教えることによって自分自身の知識も深めることができ、相手が何をしているか知るためのコミュニケーション能力も身につき就職率も高いと聞いている。

また、指導方針等を担当の教員とメーリングリストでやり取りするので文章の構成力もつくとのことであり、教員にとっても多忙な中、学生への図書館の使い方の指導が省け、卒論の指導に力が注げるとの事であった。

図書館にとっても資料の利用が促進され、場を提供することができる等の成果が上がっていると説明があった。

議長より、教員が忙しいとのことでしたが、他に問題点等なかったか質問があり、西南学院大学図書館古庄課長より、最初は 1～2 クラスくらい

しか使ってもらえなかったが、ある学部で学部単位で使おうとなり、教員は点検評価、学生の心の問題等の問題で忙しく、学士力養成等にも対応するため始めたが、チューター制の利用が年々増加している。

福岡大学から「福大生のための図書館活用プログラム」について、2006年から全学で取り組んでいる福大生ステップアッププログラムの一環としてウェブプログラムの提供と企画行事開催の2件を行っている。

ウェブプログラムの提供としては、マイライブラリ機能を使った図書館等の設定ができるスケジュール機能、教員からのお勧め本の紹介、読んだ本の感想を投稿できるブックレビューの公開等の機能を提供している。

企画行事に関しては、選書ツアーを2009年度から年2回定員20名で開催し、読書会についても2006年度から8回ほど教員や各界からの講師を招いて推薦図書について熱い議論を交わすような会を催している。

学生に対して、図書館に対し積極的な利用を呼び掛けるため、図書館のウェブサイトにも専用のページを開設し、選書ツアーに特化した館内での展示、貸出を行ない、学生の目に触れるよう意識して実施している。

成果として、教員からのお勧め本、ブックレビューで紹介された本の利用が多く、学生からの図書の購入依頼の件数が増え、展示している本や新着図書コーナーで学生同士で選んでいる姿が見られ能動的な図書館利用により自学自習の姿勢が伺え、今後とも、学生の図書館利用の動向を把握したうえで同プログラムの拡充を図り提供を進めていく。

議長より佐賀大学でも選書ツアーを行っているため、佐賀大学の意見も聞きたいと要望があり、野村課長より学生選書のコーナーを設けているが、近くに教員推薦図書があるのに、学生が選ぶのは学生選書の本が多いが、理由に気づかれていない館があればご教示いただきたいと質問された。

沖縄県立看護大学より新入生の推薦図書の展示コーナーを設け推薦理由も書いてもらい合わせて展示しているが、同世代の学生が選んだ図書ということで関心も高く貸出率も高いと思われ、ホームページには掲載していないが今後掲載を検討していくと報告された。

佐賀大学で、学生選書の図書、学科推薦図書と明示したところで選ばれているのか、明示しなくても選ばれているのかと質問があり、野村課長から学生選書のコーナーと大きく出ている、シラバス図書のコーナー、学科推薦図書のコーナーと明示しているが、実際に借りて読んでいるので、その理由が知りたいが、目隠しテストや貸出データの分析をして傾向を調べたいと回答された。

議長から福岡大学へ選書ツアーの募集について質問があり、事前に少人数ではあるがウェブサイトの方で募集し、開催の1週間前に説明会で図書館の選書方針、注意事項を提示した上で開催している旨回答があった。

別府大学の吉岡事務長より「FOBUL (フォーブル / Friend of Beppu University Library)」について、学生の図書館友の会であり、学生から図書館のボランティアをしたいと申し出があり始まった。

30名の学生が参加していて、文化系のサークルに所属していて、週2回のミーティングを行い、ボランティアとして講義の合間に3～5人のグループで書架の整理、図書の配架、図書の装備等図書館職員が指導できる範囲で行っている。

選書ツアー、図書館見学ツアー及びオープンキャンパス等の行事に積極的に参加してもらっていて、それぞれの学生にボランティアが終わってから交換日記に書いてもらい若手の職員との情報交換を行っている。

サーチャー試験(情報検索能力試験)にも挑戦してもらって70%くらい合格し、勉強会の指導を補助する学生も出てきている。

ボランティアの中で図書館の業務の重要性を学び、オープンキャンパスでは、「図書の資格コー

ナー」で高校生への紹介を行なったり、フォーブル通信を発行し、図書館の紹介、新着図書の紹介、お勧め本を紹介し学生に配布している。

親睦会等を開いて、サークルの学生同士及び図書館職員との親睦を深めていると説明があった。

議長から大学図書館に就職した例はあるかと質問があり、大学図書館はないが公共図書館に数人就職したと聞いていると回答された。

石井館長から、就職が目的ではなく、本が好きなので利用者サイドからの視点を体験したいようであると追加の説明があり、交換日記の一部を紹介された。

議長からこれが出来たきっかけを質問され、石井館長から、情報検索基礎能力試験を受けるため図書館情報学関係の先生と相談してサークルを作ったので、最初は図書館との結びつきが無かったが、だんだん図書館にシフトしてきたようだと回答があった。

(昼 食)

13. 講演

「邪馬台国の条件」旭学園理事長 高島忠平氏
佐賀大学野村課長より講師の紹介があり、高島氏による公演が行われた。

その後、九州大学附属図書館の川本館長と高島氏の間で質疑応答があった。

(休憩)

15. 承合事項 1. 「広報活動の一般的な活動状況等について外」

(副議長の熊本学園大学の村松館長が進行を務める)

九州情報大学附属図書館の藤氏より、昨年度ホームページのリニューアルや推薦図書の強化を行ったなどの提案の背景が説明され、多数の回答に対し感謝の意が表され、今後南館長から問い合わせがあるときは協力願いたい旨説明があった。

承合事項 2. 「図書館における学生活動について」

筑紫女学園大学附属図書館の福田課長から多数の回答に対し感謝の意が表され、協議事項の時も出ていたが、本学でも学生選書の方に学生の目が行くこと、同じところに指定図書等も置いているが振り向かれないこと、学生選書ツアーはボランティア、閲覧は業務委託でアルバイトがいる、ボランティアの中に毎月自分で「学生図書委員便り」という新聞を持ってくる学生がいて学生の力が思いの外ある事に気づき、他に学生の力を発揮できるような活動を知るためという提案理由が述べられた。

この2件について、持ち帰り今後の参考としていただくこととなった。

16. 次期役員館の選出

九州大学より幹事館と副幹事館の選出について説明があり、議長及び副議長提案で、幹事館に九州大学が推薦され、承認された。

九州大学より副幹事館の選出について説明があり、副幹事館には宮崎大学、長崎県立大学、熊本学園大学、九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学が推薦され承認された。

九州大学より監査館の選出について説明があり、監査館には福岡工業大学が推薦され承認された。

九州大学より表彰館、編集委員館の選出について前日の部会結果を踏まえた説明があり、表彰委員館には鹿児島大学、大分県立芸術文化短期大学、福岡女学院大学、九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学が推薦され承認された。

編集委員館には、佐賀大学、福岡県立大学、九州国際大学、九州大谷短期大学が推薦され承認された。

九州大学より次期当番館の選出について前日の部会結果を踏まえた説明があり、次期当番館に鹿児島大学が推薦され承認された。

17. 次期当番館挨拶

次期当番館の鹿児島大学附属図書館の井上館長より挨拶があった。

19. 閉 会

当番館の佐賀大学野村課長が、閉会を宣言し閉会した。

18. 議長、副議長の解任

予定していた議事が全て終了したため、議長・副議長が解任された。

平成22年度決算

一般会計

(単位：円)

収入の部			支出の部		
科目	予算	決算	科目	予算	決算
会費	468,000	468,000	总会運営費	300,000	300,000
協議会誌代	124,800	124,800	協議会誌発行費	250,000	240,000
広告掲載料	300,000	150,000	事務費	30,000	23,810
広告掲載料	50,000	50,000	積立金会計へ繰入	362,800	228,990
小計	942,800	792,800	小計	942,800	792,800

積立金会計

(単位：円)

収入の部			支出の部		
科目	予算	決算	科目	予算	決算
前年度繰越金	336,778	336,778	表彰経費	101,000	100,590
預金利息	150	94	研修会経費	70,000	70,000
一般会計から繰入	362,800	228,990	研修会補助費	270,000	230,000
			次年度繰越金	258,728	165,272
小計	699,728	565,862	小計	699,728	565,862

平成23年3月30日

監査館 福岡大学 図書部

学術情報課長補佐 工藤 邦彦 監査済

平成23年度予算(案)

一般会計 (単位：円)

収入の部		支出の部	
科目	予算	科目	予算
会費	468,000	総会運営費	300,000
			当番館：佐賀大学
協議会誌代	124,800	協議会誌発行費	250,000
			54号(2011) 200部
広告掲載料	250,000	事務費	30,000
			会誌送料、通信費、会議費等
広告掲載料	80,000	積立金会計へ繰入	342,800
			総会関係研修事業補助
小計	922,800	小計	922,800

積立金会計 (単位：円)

収入の部		支出の部	
科目	予算	科目	予算
前年度繰越金	165,272	表彰経費	96,000
			18名(1号該当6名、2号該当12名)
預金利息	100	研修会経費	50,000
			総会講演謝金等
一般会計から繰入	342,800	研修会補助費	270,000
			各県協議会(9地区)研修経費補助
		次年度繰越金	92,172
小計	508,172	小計	508,172

九州地区大学図書館協議会会則

昭和25年11月27日施行
昭和32年9月12日改正
昭和41年6月2日改正
昭和51年4月28日改正
昭和55年5月9日改正
平成9年4月25日改正
平成10年4月24日改正
平成20年4月18日改正

(名 称)

第 1 条 本会は九州地区大学図書館協議会と称する。

(会 員)

第 2 条 本会は別に定める資格を有する九州地区の大学図書館等（以下「大学図書館」という。）をもって組織する。

会員は大学等の機関をもって一会員とする。

本会に入会するには、所定の入会申込書を提出し、総会の議決を経るものとする。

(目 的)

第 3 条 本会は会員の緊密な連絡と協力によって、大学図書館の施設、管理及び運営等の健全な進歩発達をはかり、会員相互の親睦をはかることを目的とする。

(事 業)

第 4 条 本会は前条の目的を達するためにつきの事業を行う。

1. 図書館の研究・調査に関する事項
2. 研究会・講習会等の開催に関する事項
3. 日本図書館協会等の連絡提携に関する事項
4. 学術図書文献の調査及び総合目録の調整に関する事項
5. 学術図書文献の収集、保存及び活用に関する事項
6. その他必要とする事項

(役 員)

第 5 条 本会に幹事館、副幹事館及び監査館を置く。

幹事館は会務を総括し、本会を代表する。

副幹事館は、幹事館とともに会務を処理する。

監査館は、会計を監査する。

第 6 条 幹事館は、総会で互選し、その任期は2年とする。但し、再選を妨げない。

副幹事館は、国立大学、公立大学、私立大学及び私立短期大学の各部会からそれぞれ1館を総会で互選し、その任期は2年とする。但し、再選を妨げない。

監査館は、総会で互選し、その任期は1年とする。但し、再選できない。

(事務所)

第 7 条 本会の事務所は幹事館内におく。

(会議)

第 8 条 本会は毎年 1 回総会を開催する。但し必要に応じ会員の 3 分の 1 以上から請求があった場合は、臨時総会を開くことができる。

第 9 条 総会の運営は、輪番に定められた当番館が幹事館と協議してこれに当たる。

第 10 条 総会は次の事項を行う。

1. 事業計画
2. 決算の承認
3. 予算の決定
4. 幹事館、副幹事館及び監査館の選任及び当番館の決定
5. その他必要なる事項の決定

第 11 条 総会の票決権は 1 大学等の機関につき 1 票とし、議決は多数決による。

可否同数の時は幹事館の決するところによる。

(会計)

第 12 条 本会の経費は会費その他をもってあてる。

第 13 条 会費は年額 6,000 円とし、毎会計年度始めに幹事館に納入するものとする。

第 14 条 本会の予算は毎年総会の議決を経て決定し、決算は監査を受け次の総会において承認を得なければならない。

第 15 条 本会の会計年度は 4 月 1 日に始まり、翌年 3 月 31 日に終る。

(会則変更)

第 16 条 本会則の変更は総会にはからなければならない。その決定には出席会員の 3 分の 2 以上の賛成を必要とする。

九州地区大学図書館協議会総会運営に関する細則

昭和32年 9 月12日 決定

昭和37年10月 2 日 改正

昭和48年 5 月11日 改正

昭和53年 5 月12日 改正

平成11年 4 月23日 改正

1. 本協議会総会の運営は簡素を尊重し、輪番に当番を引受け易くするためにこの細則を定める。
2. 総会の議長は当番館の館長とする。
3. 議長は副議長を指名することができる。
4. 当番館は幹事館及び副幹事館と協議の上、2ヶ月前に会員宛日程・場所等を通知し、出席者の職氏名及び協議事項・承合事項の提出を求める招請状を送ること。
但し、緊急を要する臨時総会等の場合はこの限りでない。
5. 当番館は協議事項をまとめ、議題として提案理由、又は簡単な説明を付して、出席者に配付し、調査

- 研究の余地を充分与えるように努めること。
6. 当番館は総会の議事録を作成し、会員に配付するものとする。
 7. 幹事館及び副幹事館は当番館と協力して、総会で決議された要求事項を貫徹するよう努力する。
 8. 総会と同時に研修会を開催し、研究発表者は九州地区内の大学図書館職員とし3年位に1回の割合で、文部省・国会図書館或は他地区の大学より最適任者を招聘する。
 9. 会員以外の出席を許すことがある。但し票決権はない。
 10. 当番館は加盟館の所属県を次の三地区に分け、地区ごとに等しく持ち廻る。

福岡地区	福岡県
中部地区	長崎県、佐賀県、熊本県、大分県
南部地区	鹿児島県、宮崎県、沖縄県
 11. 総会の経費は主として会費及び出席者から徴収する金員より支出し、総会の議決を経た予算案によって実行するものとする。
 12. 研修会の講師招聘に要する旅費、謝礼等の費用は、毎年会費の内から積立てて支弁する。

九州地区大学図書館協議会入会に関する細則

昭和32年9月1日施行
平成9年4月25日改正
平成20年4月18日改正

1. 本協議会へ入会を希望する大学図書館（以下「入会申込館」という。）は、最寄りの本協議会会員の紹介書（別記様式1）により、入会申込書（別記様式2）を、総会の3ヶ月前までに幹事館に提出する。
2. 紹介を依頼された会員は、総会において入会申込館の概略を説明する。
3. 入会資格の基準は下記のとおりとする。
 - (1) 大学、短期大学又はこれに準じる教育研究機関の図書館施設であること。
 - (2) 本協議会の目的及び事業に賛同し、熱意が十分認められること。
4. 入会申込館は、総会当日は、入会承認まではオブザーバーとして出席することができる。

九州地区大学図書館協議会入会紹介書

平成 年 月 日

九州地区大学図書館協議会 殿

大 学 名

図 書 館 名

図 書 館 長 名

公印

下記の図書館は、本協議会の目的及び事業に賛同され、また熱意が十分認められますので、本協議会への入会を紹介します。

記

1. 学校（法人）名：
2. 大 学 名：
3. 図 書 館 名：
4. 図 書 館 長 名：
5. 所 在 地：

九州地区大学図書館協議会入会申込書

平成 年 月 日

九州地区大学図書館協議会 殿

大 学 名

図 書 館 名

図書館長名

公印

貴協議会の趣旨に賛同し、平成 年度からの入会を申し込みます。

記

1. 学校（法人）名：
2. 大 学 名：
3. 大 学 設 置 年：
4. 学 生 数：
5. 図 書 館 名：
6. 所 在 地：
（電話、FAX 番号）
7. 図 書 館 長 名：
8. 図 書 館 の 概 要：（別紙）
9. 紹 介 館 名：

図 書 館 の 概 要

図 書 館 名			
事務責任者職・氏名	(電話番号)		
図 書 館 職 員 数	人 (内、司書数 人)		
図 書 館 延 床 面 積	m ²	閱 覧 座 席 数	席
蔵 書 冊 数	冊 (内 和書 冊、洋書 冊)		
年 間 受 入 図 書 冊 数	冊	年 間 受 入 雑 誌 種 数	種
年 間 開 館 日 数	日	通常開館時間	時 分～ 時 分
土 曜 開 館	1 実施 2 未実施		
日 曜 祝 日 開 館	1 実施 2 一部実施 3 未実施		
奉 仕 対 象 学 生 数	人	奉 仕 対 象 教 職 員 数	人
年 間 貸 出 冊 数	冊		
図 書 館 相 互 協 力	図 書 賃 借	1 実施 2 未実施	
	文 献 複 写	1 実施 2 未実施	
学 外 者 へ の サ ー ビ ス	1 実施 2 未実施		
コ ン ピ ュ ー タ の 導 入	1 導入済 2 未導入		
コ ン ピ ュ ー タ の 適 用 業 務	1 貸出 2 図書受入 3 図書整理 4 雑誌管理 5 OPAC		
ネ ッ ト ワ ー ク 環 境	1 学内LAN接続済 2 インターネット接続済		
国 立 情 報 学 研 究 所 と の 接 続	1 接続 (1 NACSIS-CAT/ILL 2 NACSIS-IR 3 その他) 2 未接続		

九州地区大学図書館協議会誌編集に関する内規

平成2年4月20日施行

平成5年4月23日改正

平成11年4月23日改正

1. (1) 本協議会誌は、総会記事のほか各部会報告、ニュース等を掲載し、九州地区大学図書館間の情報誌としての機能を果たすこととする。
(2) 本協議会誌編集のために編集委員会を設ける。
2. (1) 編集委員会は、国立、公立、私立及び私立短大の各部会からの推薦により選出された編集委員館で構成する。
(2) 幹事館及び総会当番館は、業務上の必要から編集委員館として参加することとし、上記2-(1)の編集委員館を兼ねることができる。
(3) 各部会の編集委員館は、幹事館の近隣地区から選出されることが望ましい。
(4) 編集委員館の任期は1年とし再任を妨げない。
3. (1) 編集委員館は、それぞれの所属する各部会の記事の提出を担当する。
(2) 総会当番館は、総会記事を担当する。
(3) 幹事館は、編集に関する事務を担当する。
4. 本協議会誌発行のため、印刷代、送料、編集会議費、原稿執筆等謝礼は、毎年会費の内から支弁する。
5. 本協議会誌に掲載された論文・記事は、九州地区大学図書館協議会ホームページに掲載することとする。

九州地区大学図書館協議会表彰規程

(目 的)

第1条 この規程は、九州地区大学図書館協議会（以下「協議会」という。）に加盟の大学図書館職員を表彰するため、必要な事項を定めることを目的とする。

(表彰を受ける者)

第2条 表彰は、次の各号の1に該当し、かつ勤務成績が良好である者について行う。

- (1) 勤務期間20年に達した者
- (2) 勤務期間20年以上の者で退職または転職した者
- (3) 図書館学の研究、調査等にすぐれた業績のあった者

(表彰状の授与)

第3条 表彰は、協議会が別紙様式による表彰状を授与することによって行う。

2 第2条に該当する者については、前項の表彰状にあわせて記念品を贈呈することができる。

(被表彰者の選考)

第4条 表彰をうける者は、所属図書館長の推薦（別紙様式による）に基づき、表彰委員会が選考し、協議会の総会の承認を経て決定する。

(表彰委員会)

第5条 表彰委員会は、国立、公立、私立及び私立短大の各部会からの推薦により選出された表彰委員館各1館で構成し、任期は1年として再任を妨げない。

(表彰の日)

第6条 表彰は、協議会の総会において行う。

(勤務期間の計算)

第7条 第2条第1号および第2号の勤務期間は、国公立大学図書館およびその他の図書館等に在職した期間とし、10年以上を加盟の大学図書館等に勤務したものでなければならない。

2 次の各号に掲げる期間は、勤務期間から除算する。

(1) 休職の期間（公傷病の期間は除く）

(2) 懲戒処分により停職された期間

(雑 則)

第8条 この規程に定めるもののほか、表彰の実施に関する必要な事項は、別に定める。

附 則

この規程は、昭和42年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、昭和55年5月9日から施行する。

附 則

この規程は、平成9年4月25日から施行する。

附 則

この規程は、平成11年4月23日から施行する。

附 則

この規程は、平成20年4月18日から施行する。

文書番号

平成 年 月 日

九州地区大学図書館協議会幹事館

〇〇大学附属図書館長 殿

〇〇大学（附属）図書館長

○ ○ ○ ○

平成 年度表彰者の推薦について

下記の者を本年度の総会における被表彰者として推薦しますのでよろしくお取り計らい願います。
なお、別紙のとおり表彰者調書を提出します。

表彰者調書

〇〇大学（附属）図書館

職名		ふりがな 氏名		生年月日	年 月 日
表彰の区分	第2条第1号	第2条第2号	第2条第3号		
勤務成績					
第7条第2項第2号該当の有無 有 ・ 無					
履 歴 事 項					
年 月 日	勤 務 内 容 等	勤 務 期 間			
		加盟館での 勤 務 期 間	その他の図書館 等での勤務期間		
～		年 月 日	年 月 日		
～					
～					
～					
～					
～					
～					
～					
～					
～					
～					
計					
				合計	年 月 日

- 注 (1) 勤務期間の計算は暦日数によるものとし日を月に換算するときは30日をもって1月とすること。
 (2) 第7条第2項各号の除算期間は朱書すること。
 (3) 第2条第3号に該当する場合は、「勤務成績」欄は「業績」と書きかえて記入し、参考となる資料等を添付すること。

表彰状様式(1)第2条第1号および第2号該当者

表 彰 状

殿

あなたは 年のながい間大学図書館関係の業務に精励されその功労はまことに大きいものがあります。

よってここに記念品を贈り表彰します。

平成 年 月 日

九州地区大学図書館協議会

表彰状様式(2)第2条第3号該当者

表 彰 状

殿

あなたは図書館学の研究調査に精励されその向上発展に貢献されたことはまことに顕著なものがあります。

よってここに記念品を贈り表彰します。

平成 年 月 日

九州地区大学図書館協議会

研修会の補助に関する申合せ

平成6年9月20日決定
平成7年9月1日改正
平成8年4月24日改正
平成9年4月25日改正
平成10年4月25日改正
平成15年4月25日改正
九州地区大学図書館協議会

地区の大学図書館活動を発展させるため、研修会、講演会等（以下「研修会」という。）の経費を補助する申合せ事項を次のとおり定める。

1. 研修会経費を補助する対象は、九州地区大学図書館協議会に加盟している大学図書館が主体となって構成する県又は地区単位の組織とし、別紙のとおりとする。
2. 補助する経費の金額は、年間1組織に対して3万円を限度とする。
3. 研修会に要する経費の補助を受けようとするときは、別記様式による申請書を幹事館に提出するものとする。
4. 経費の補助を受けた組織は、本協議会誌に活動報告を掲載するものとする。
5. 経費の支出は、積立金会計を適用する。
6. 新たな組織から経費の補助の申し出があったときは、総会において承認を得るものとする。
7. これに関する事務は、幹事館で行う。

別 紙

経費を補助する県又は地区単位の組織

1. 福岡県・佐賀県大学図書館協議会（北部地区）
2. 福岡県・佐賀県大学図書館協議会（福岡地区）
3. 福岡県・佐賀県大学図書館協議会（南部地区）
4. 長崎県大学図書館協議会
5. 熊本県大学図書館協議会
6. 大分県大学図書館協議会
7. 宮崎県大学図書館協議会
8. 鹿児島県大学図書館協議会
9. 沖縄県大学図書館協議会

別記様式

平成 年度九州地区大学図書館協議会・研修会経費補助申請書

平成 年 月 日

九州地区大学図書館協議会

幹事館

殿

組 織 名

代 表 者

(所属大学)

九州地区大学図書館協議会の研修会経費の補助を受けたく、下記のとおり申請します。

記

研 修 会 名 及 び 内 容	
開 催 期 間	自 平成 年 月 日 () 時 分 至 平成 年 月 日 () 時 分
開 催 場 所	
参 加 機 関 数	
参 加 人 数	
必 要 経 費 (具体的に)	ア. 講 師 謝 金 _____ イ. 資 料 代 金 _____ ウ. 会 場 借 上 費 _____ エ. そ の 他 _____ 合 計 _____
連 絡 担 当 者	氏名 _____ 職 _____ 電話 _____

※ 研修内容は、大学図書館活動を促進させるテーマであること。

副幹事館の役割

平成10年 8月31日

幹事館・副幹事館会議

1 通常時

1. 年度の事業・活動についての立案・協議
2. 所属部会との連絡調整と情報の提供
3. 入会の勧誘等、協議会の広報（特に所属部会の各大学に対して）
4. ホームページ充実のための提言等、意見具申

2 会誌発行時

- 各部会から編集委員館は選出されているため、特に役割はないと思うが
・所属部会の情報（研究発表等、原稿情報）の提供等

3 総会時

1. 副議長職に館長を選出等、当番館及び幹事館と協力しての総会運営
2. 前日決定された各部会における役員館の事務局への連絡
3. 総会終了後、当番館作成の議事録の確認

4 その他

別段ある場合は、適宜副幹事館から提案

九州地区大学図書館協議会ホームページの運用について

平成10年 8月31日

平成20年 1月30日改正

幹事館・副幹事館会議

1. 九州地区大学図書館協議会ホームページ（以下、「ホームページ」という。）は、九州大学附属図書館のサーバに置く。

（URL <http://www.lib.kyushu-u.ac.jp/qkyogikai/>）

2. ホームページの管理、維持（デザイン・構成を含む）は、九州地区大学図書館協議会事務局（以下、「事務局」という。）が行う。
3. ホームページに掲載する事項は当面以下のものを中心に構成するものとし、それぞれ以下の館が作成する。

• トピックス & NEWS

加盟館、各設置部会毎協議会、各県毎協議会等からの原稿に基づき事務局が作成

総会議事録は総会当番館が原稿を作成

- 加盟館一覧 事務局が作成
- 役員館一覧 事務局が作成

- 当番館一覧 事務局が作成
- 九州地区大学図書館協議会誌
事務局が作成（論文等執筆者に対しては原稿依頼時にホームページ掲載方の承諾を得るものとする。）
- 地区内の図書館活動
各設置部会毎の図書館協議会等及び各県毎協議会が作成
- 各種関連資料集 事務局が作成
- 関連サイトへのリンク集 事務局が作成
- 地区内各館の相互利用案内 各加盟館からの原稿に基づき事務局が作成
- フォーラムページ

協議会が設定するテーマに対する加盟館からの自由な意見・回答のページで、投稿は直接電子メールによる

4. 「3.」のほか、ホームページに文書・記事等の掲載を希望する副幹事館及び加盟館は、HTML形式等で原稿を作成し、事務局に送付するものとする。

事務局は内容を確認のうえ、ホームページに掲載する。

九州地区大学図書館協議会加盟館一覧

24.1.1 現在

	館名	郵便番号	所在地	電話番号 ()内はFAX番号
国 立	九州工業大学 附属図書館 (館長 鶴田隆治, 事務長 石丸克巳)	804-8550	北九州市戸畑区仙水町1の1	093-884-3072 (093-884-3075)
	福岡教育大学 附属図書館 (館長 池田 修, 学術情報課長 小川 稔)	811-4192	宗像市赤間文教町1番5号	0940-35-1257 (0940-35-1705)
	九州大学 附属図書館 (館長 川本芳昭, 事務部長 濱崎修一)	812-8581	福岡市東区箱崎6丁目10の1	092-642-2325 (092-642-2330)
	佐賀大学 附属図書館 (館長 稲岡 司, 学術研究協力部長 川上敏彦)	840-8502	佐賀市本庄町1	0952-28-8902 (0952-28-8909)
	長崎大学 附属図書館 (館長 姫野順一, 学術情報部長 西山常清)	852-8521	長崎市文教町1の14	095-819-2193 (095-819-2196)
	熊本大学 附属図書館 (館長 森 正人, 教育研究推進部長 島田正俊)	860-8555	熊本市黒髪2丁目40の1	096-342-2213 (096-342-2210)
	大分大学 学術情報拠点 (拠点長 佐藤誠治, 研究・社会連携部長 石川幸秀)	870-1192	大分市大字旦野原700	097-554-7482 (097-554-7488)
	宮崎大学 附属図書館 (館長 岩本俊孝, 情報図書館部長 上村茂樹)	889-2192	宮崎市学園木花台西1丁目1	0985-58-7759 (0985-58-2896)
	鹿児島大学 附属図書館 (館長 井上佳朗, 学術情報部長 長友良維)	890-0065	鹿児島市郡元1丁目21の35	099-285-7415 (099-285-7413)
	鹿屋体育大学 附属図書館 (館長 西菌秀嗣, 学術図書情報課長 森 規昭)	891-2393	鹿屋市白水町1	0994-46-4874 (0994-46-4157)
琉球大学 附属図書館 (館長 高良倉吉, 事務部長 真栄城 潔)	903-0214	中頭郡西原町字千原1番地	098-895-8153 (098-895-8154)	
公 立	北九州市立大学 図書館 (館長 八百啓介, 学術情報課長 江上照明)	802-8577	北九州市小倉南区北方4丁目2の1	093-964-4404 (093-964-4437)
	九州歯科大学 附属図書館 (館長 柿木保明, 学務部長 川原利三)	803-8580	北九州市小倉北区真鶴2丁目6の1	093-582-1131 (093-583-7388)
	北九州学術研究都市 学術情報センター (学術情報担当部長 都築信男, 学術情報担当課長 平野富士男)	808-0135	北九州市若松区ひびきの1番3号	093-695-3150 (093-695-3152)
	福岡女子大学 附属図書館 (館長 森 邦昭, 経営管理部長 岩田睦博)	813-8529	福岡市東区香住ヶ丘1丁目1の1	092-661-2411 (092-661-2416)
	福岡県立大学 附属図書館 (館長 古橋啓介, 学務部長 鬼丸健二)	825-8585	田川市伊田4395	0947-42-1760 (0947-42-9457)
	長崎県立大学 附属図書館 (館長 大塚一徳, 佐世保校館長 阿部律子, 佐世保校図書課長 寺田勝嘉, シーボルト校図書課長 吉野康弘)	858-8580	佐世保市川下町123	0956-47-5958 (0956-26-2100)
	熊本県立大学 学術情報メディアセンター (センター長 津曲 隆, 事務長 田中 彰)	862-8502	熊本市月出3丁目1番100号	096-321-6614 (096-383-2999)
	大分県立芸術文化短期大学 附属図書館 (館長 根之木英二, 図書管理グループ 伊達和男)	870-0833	大分市上野丘東1の11	097-545-4235 (097-545-4235)
	大分県立看護科学大学 附属図書館 (館長 市瀬孝道, 統括部長 児玉雅範)	870-1201	大分県大分市大字廻栖野2944-9	097-586-4330 (097-586-4373)
	宮崎公立大学 附属図書館 (館長 田中宏明, 事務長 染矢典幸)	880-8520	宮崎市船塚1丁目1番地2	0985-20-4814 (0985-20-4806)
	宮崎県立看護大学 附属図書館 (館長 布施裕二, 総務課長 高橋伊津子)	880-0929	宮崎市まなび野3-5-1	0985-59-7756 (0985-59-7773)
	鹿児島県立短期大学 附属図書館 (館長 岡村俊彦, 副館長 畠野秀之)	890-0005	鹿児島市下伊敷1丁目52番1号	099-220-1111 (099-220-1115)

	館名	郵便番号	所在地	電話番号 ()内はFAX番号
公立	沖縄県立看護大学 附属図書館 (館長 大湾明美, 主査 幸地 哲)	902-0076	那覇市与儀 1-24-1	098-833-8806 (098-833-5134)
	沖縄県立芸術大学 附属図書・芸術資料館 (館長 ルバース・吟子, 主査 神谷 保)	903-8602	那覇市首里当蔵町 1-4	098-882-5038 (098-882-5068)
	名城大学 附属図書館 (館長 高宮城 繁, 図書課参与 又吉 純)	905-8585	沖縄県名護市字為又 1220-1	0980-51-1062 (0980-51-1065)
私立	西日本工業大学 図書館 (館長 赤司信義, 課長 黒岩 壽)	800-0394	福岡県京都郡苅田町新津 1-11	0930-23-7729 (0930-24-7900)
	西南女学院大学 図書館 (館長 谷川弘治, 課長 渡橋英子)	803-0835	北九州市小倉北区井堀 1 丁目 3 の 5	093-583-5959 (093-592-1885)
	九州国際大学 図書館 (館長 富永 猛, 室長 新原英夫)	805-8512	北九州市八幡東区平野 1 丁目 6 の 1	093-671-8919 (093-671-8920)
	九州共立大学 附属図書館 (館長 森川壽人, 業務課長 小中倫子)	807-8585	北九州市八幡西区自由ヶ丘 1 の 8	093-693-3036 (093-603-2260)
	九州女子大学・短期大学 附属図書館 (館長 高橋 昇, 業務課長 松尾伸二)	807-8586	北九州市八幡西区自由ヶ丘 1-1	093-693-3124 (093-603-0494)
	福岡工業大学 附属図書館 (館長 赤木文男, 事務長 武 哲也)	811-0295	福岡市東区和白東 3-30-1	092-606-0691 (092-606-7389)
	福岡女学院大学 図書館 (館長 二階堂 整, 課長 鶴 典子)	811-1313	福岡市南区日佐 3 丁目 42 の 1	092-575-6402 (092-575-4605)
	九州産業大学 図書館 (館長 横山秀司, 事務部長 岩佐哲朗)	813-8503	福岡市東区松香台 2 丁目 3 の 1	092-673-5382 (092-673-5999)
	福岡大学 図書館 (館長 則松彰文, 事務部長 石田 積)	814-0180	福岡市城南区七隈 8 丁目 19 の 1	092-871-6631 (092-865-3794)
	中村学園大学 図書館 (館長 青峰正裕, 図書課長 猿渡健一)	814-0198	福岡市城南区別府 5 丁目 7 の 1	092-851-2573 (092-841-7762)
	西南学院大学 図書館 (館長 尾上修悟, 事務部長 伊藤邦厚)	814-8511	福岡市早良区西新 6 丁目 2 の 92	092-823-3426 (092-823-3480)
	第一薬科大学 図書館 (館長 原口浩一, 事務職員 原 直好)	815-8511	福岡市南区玉川町 22 の 1	092-541-0161 (092-542-9776)
	九州情報大学 附属図書館 (館長 南 俊朗, 図書館司書 藤 理恵子)	818-0117	太宰府市宰府 6 丁目 3 番 1 号	092-928-4000 (092-928-3200)
	筑紫女学園大学・短期大学部 附属図書館 (館長 木村政伸, 課長 福田千代子)	818-0192	太宰府市石坂 2 丁目 12 の 1	092-925-9910 (092-925-3318)
	福岡国際大学・福岡女子短期大学 図書館 (館長 大里栄子, 主査 大橋祐子)	818-0193	太宰府市五条 4 丁目 16-1	092-922-3604 (092-922-3596)
	久留米工業大学 図書館 (館長 渡邊孝司, 事務室長 萩尾文子)	830-0052	久留米市上津町 2228-66	0942-22-2345 (0942-22-2385)
	聖マリア学院大学 図書館 (館長 井手 信, 司書 山口真由美)	830-8558	久留米市津福本町 422 番地	0942-37-1138 (0942-37-1138)
	久留米大学 附属図書館 (館長 石川捷治, 課長 熊谷まゆみ)	839-8502	久留米市御井町 1635	0942-44-4015 (0942-43-0348)
	保健医療経営大学 情報メディアセンター図書館 (センター長 川島秀樹, 図書係 井上 恵)	835-0018	みやま市瀬高町高柳 960 番地 4	0944-67-7007 (0944-63-3003)
	西九州大学 附属図書館 (館長 酒井 出, 課長 増田定次)	842-8585	神崎市神埼町尾崎 4490-9	0952-37-9299 (0952-53-7869)
活水女子大学 図書館 (館長 徳永幸子, 課長 森 茂樹)	850-8515	長崎市東山手町 1 の 50	095-822-4107 (095-823-3701)	

	館名	郵便番号	所在地	電話番号 ()内はFAX番号
私	長崎総合科学大学 附属図書館 (館長 野瀬幹夫, 図書課長 吉田政則)	851-0193	長崎市網場町 536	095-838-5140 (095-838-2072)
	長崎外国語大学 教育研究メディアセンター (センター長 川島浩勝, 司書 田中陽子)	851-2196	長崎市横尾 3-15-1	095-840-2005 (095-840-2205)
	長崎純心大学 早坂記念図書館 (館長 岩下康夫, 事務室長 岩崎由希子)	852-8558	長崎市三ツ山町 235	095-846-0084 (095-845-4279)
	長崎ウエスレヤン大学 附属図書館 (館長 亙 明志, 司書 植松久子)	854-0081	諫早市栄田町 1057	0957-26-8203 (0957-26-0244)
	長崎国際大学 図書館 (館長 正山征洋, 図書課長 飯島芳典)	859-3298	佐世保市ハウステ沽	0956-20-5560 (0956-39-4894)
	崇城大学 図書館 (館長 恒松郁生, 課長 原 みゆき)	860-0082	熊本市池田 4 丁目 22 の 1	096-326-3419 (096-359-3002)
	九州ルーテル学院大学 図書館 (館長 百武玉恵, 図書館課長 水谷江美子)	860-8520	熊本市黒髪 3 丁目 12-16	096-343-2494 (096-343-0354)
	熊本学園大学 付属図書館 (館長 堀 正広, 事務部長 宮原由美子)	862-8680	熊本市大江 2 丁目 5 の 1	096-364-5161 (096-362-5967)
	東海大学 付属図書館 熊本・阿蘇図書館 (館長 西崎信男 (熊本), 星 良和 (阿蘇))	862-8652	熊本市渡鹿 9-1-1	096-386-2634 (熊本) 0967-67-3907 (阿蘇)
	熊本保健科学大学 附属図書館 (館長 岡部由紀子, 主任 山崎栄子)	861-5591	熊本市和泉町亀の甲 325	096-275-2264 (096-275-2265)
	九州看護福祉大学 附属図書館 (館長 佐藤林正, 主任 福本直子)	865-0062	玉名市富尾 888	0968-75-1840 (0968-75-1873)
	日本文理大学 図書館 (館長 石田孝一, 係長 小平正典)	870-0397	大分市大字一木 1727	097-524-2711 (097-593-5166)
	立命館アジア太平洋大学 ライブラリー (センター長 ROSE John A., アカデミックオフィス課長 北村滋朗)	874-8577	別府市十文字原 1-1	0977-78-1140 (0977-78-1141)
	別府大学 附属図書館 (館長 石井保廣, 事務長 吉岡義信)	874-8501	別府市大字北石垣 82	0977-66-9633 (0977-66-9632)
	九州保健福祉大学 附属図書館 (館長 坂本正徳, 主任 内田ゆかり)	882-8508	延岡市吉野町 1714-1	0982-23-5562 (0982-23-5560)
	宮崎産業経営大学 附属図書館 (館長 田代裕子, 課長 楠本浩徳)	880-0931	宮崎市古城町丸尾 100	0985-52-3205 (0985-50-4699)
	南九州大学 ・ 南九州短期大学 図書館 (館長 中根忠洋, 学務部長 中村 稔)	880-0032	宮崎市霧島 5-1-2	0985-83-3430 (0985-83-3431)
	立 宮崎学園 図書館 宮崎国際大学 ・ 宮崎学園短期大学 (館長 米良栄州, 事務長 中山水木)	889-1605	宮崎郡清武町大字加納丙 1415 宮崎市清武町大字加納丙 1415 (H22.3.23 ~)	0985-85-1410 (0985-85-8189)
	鹿児島国際大学 附属図書館 (館長 種村エイ子, 図書館次長 相良長宣)	891-0197	鹿児島市坂之上 8-34-1	099-263-0732 (099-261-1198)
	鹿児島純心女子大学 附属図書館 (館長 犬塚孝明, 図書課長 森山 学)	895-0011	鹿児島県薩摩川内市天辰町 2365	0996-23-5311 (0996-23-5030)
志学館大学 図書館 (館長 河原晶子, 課長 福本英司)	890-8504	鹿児島市紫原一丁目 59-1	099-812-8509 (099-257-0308)	
沖縄国際大学 図書館 (館長 兼本 敏, 課長 垣花 聡)	901-2701	宜野湾市宜野湾 2 丁目 6 番 1 号	098-892-1111 (098-893-3274)	
沖縄大学 図書館 (館長 桜井国俊, 事務長 垣花留美子)	902-8521	沖縄県那覇市宇国場 555	098-832-5577 (098-834-1127)	
沖縄キリスト教学院 図書館 (館長 内間清晴, 課長 多根宏治)	903-0207	沖縄県中頭郡西原町字翁長 777	098-946-1236 (098-946-1237)	

	館名	郵便番号	所在地	電話番号 ()内はFAX番号
私立 短大	九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学 図書館 (館長 山田千秋, 図書課長 小林由憲)	803-8511	北九州市小倉北区下道津5の1の1	093-561-3541 (093-592-6184)
	九州大谷短期大学 図書館 (館長 坂川和彦, 司書 梅野智美, 光永良美)	833-0054	福岡県筑後市蔵敷495-1	0942-53-9893 (0942-53-9893)
	中九州短期大学 附属図書館 (館長 百原敏弥, 事務職 段原佳子)	866-8502	八代市平山新町4438	0965-34-7651 (0965-43-7117)
	東九州短期大学 図書館 (館長 有吉英樹, 司書 釘丸知子)	871-0014	中津市大字一ツ松211	0979-22-2425 (0979-25-3935)
	別府溝部学園短期大学 図書館 (館長 田邊 勲, 司書 宗岡千尋)	874-8567	大分県別府市野田78	0977-66-0224 (0977-67-8133)
	鹿児島女子短期大学 附属図書館 (館長 古川恵子, 課長 南谷 久)	890-8565	鹿児島市高麗町6の9	099-254-9195 (099-254-5914)
鹿児島純心女子短期大学 図書館 (館長 三浦嘉久, 課長 西 真知子)	890-8525	鹿児島市唐湊4丁目22の1	099-253-2677 (099-254-5247)	

九州地区大学図書館協議会役員館一覽

年次 (回次)	幹事館	監 査 館	表 彰 委 員 館			編集委員館
昭和 48 年度 (24)	九州大学	福岡女子短大	国 公 私	福岡教育大学 長崎国際経済大学 福岡大学	佐賀大学 長崎県立女子短大 西南大学	
昭和 49 年度 (25)	九州大学	福岡女子大学	国 公 私	九州工業大学 長崎国際経済大学 西南大学	九州芸術工科大学 長崎県立女子短大 福岡大学	
昭和 50 年度 (26)	九州大学	西南大学	国 公 私	佐賀大学 北九州大学 久留米大学	長崎大学 大分県立芸術短大 熊本商科大学	
昭和 51 年度 (27)	九州大学	九州産業大学	国 公 私	九州芸術工科大学 九州歯科大学 久留米大学	大分大学 長崎国際経済大学 西南大学	
昭和 52 年度 (28)	九州大学	福岡大学	国 公 私	福岡教育大学 福岡女子大学 西南大学	鹿児島大学 熊本女子大学 九州産業大学	
昭和 53 年度 (29)	九州大学	九州芸術工科大学	国 公 私	佐賀大学 長崎県立女子短大 西南大学	九州芸術工科大学 長崎国際経済大学 久留米大学	
昭和 54 年度 (30)	九州大学	九州産業大学	国 公 私	九州芸術工科大学 北九州大学 九州産業大学	佐賀大学 九州歯科大学 久留米大学	
昭和 55 年度 (31)	九州大学	福岡女子大学	国 公 私	宮崎大学 福岡社会保育短大 西南大学	九州工業大学 大分県立芸術短大 熊本商科大学	
昭和 56 年度 (32)	九州大学	西南大学	国 公 私	福岡教育大学 熊本女子大学 九州産業大学	熊本大学 鹿児島県立短大 福岡大学	
昭和 57 年度 (33)	九州大学	福岡大学	国 公 私	長崎大学 北九州大学 八幡大学	鹿児島大学 福岡女子大学 熊本商科大学	
昭和 58 年度 (34)	九州大学	九州芸術工科大学	国 公 私	琉球大学 福岡社会保育短大 鹿児島経済大学	宮崎医科大学 鹿児島県立短大 八幡大学	
昭和 59 年度 (35)	九州大学	福岡女子大学	国 公 私	佐賀医科大学 長崎国際経済大学 中村学園大学	大分医科大学 長崎県立女子短大 西日本工業大学	
昭和 60 年度 (36)	九州大学	中村学園大学	国 公 私	宮崎大学 熊本女子大学 鹿児島経済大学	九州工業大学 大分県立芸術短大 西日本工業大学	
昭和 61 年度 (37)	九州大学	福岡女子短大	国 公 私	熊本大学 北九州大学 長崎総合科学大学	大分大学 福岡社会保育短大 第一薬科大学	
昭和 62 年度 (38)	九州大学	九州芸術工科大学	国 公 私	宮崎医科大学 福岡女子大学 九州東海大学	大分医科大学 九州歯科大学 沖縄国際大学	

年次 (回数)	幹事館	監 査 館	表 彰 委 員 館			編集委員館
昭和 63 年度 (39)	九州大学	福岡女子大学	国 公 私	佐賀医科大学 長崎国際経済大学 福岡大学	琉球大学 鹿児島県立短大 八幡大学	
平成元年度 (40)	九州大学	九州産業大学	国 公 私	九州芸術工科大学 長崎県立女子短大 西南大学	佐賀大学 熊本女子大学 中村学園大学	
平成 2 年度 (41)	九州大学	中村学園大学	国 公 私	福岡教育大学 北九州大学 九州産業大学	長崎大学 大分県立芸術文化短期大学 熊本商科大学	九州大学 大分医科大学 福岡女子大学 福岡大学 福岡女子短期大学
平成 3 年度 (42)	九州大学	福岡大学	国 公 私	九州工業大学 福岡県社会保育短期大学 久留米大学	鹿児島大学 長崎県立大学 西日本工業大学	九州大学 鹿屋体育大学 九州歯科大学 中村学園大学 筑紫女学園短期大学
平成 4 年度 (43)	九州大学	福岡女子短期大学	国 公 私	宮崎大学 福岡女子大学 鹿児島経済大学	大分大学 九州歯科大学 活水女子大学	九州大学 福岡教育大学 北九州大学 九州国際大学 東筑紫短期大学
平成 5 年度 (44)	九州大学	福岡女子大学	国 公 私	宮崎医科大学 熊本女子大学 活水女子大学	大分医科大学 鹿児島県立短期大学 鹿児島経済大学	九州大学 熊本大学 福岡女子大学 西南学院大学 筑紫女学園短期大学
平成 6 年度 (45)	九州大学	九州芸術工科大学	国 公 私	熊本大学 大分県立芸術文化短期大学 活水女子大学	佐賀医科大学 宮崎公立大学 鹿児島経済大学	九州大学 宮崎大学 福岡県立大学 九州産業大学 筑紫女学園短期大学
平成 7 年度 (46)	九州大学	九州産業大学	国 公 私	鹿屋体育大学 北九州大学 第一薬科大学	琉球大学 長崎県立大学 南九州大学	九州大学 九州工業大学 九州歯科大学 久留米大学 筑紫女学園短期大学
平成 8 年度 (47)	九州大学	西南学院大学	国 公 私	九州芸術工科大学 福岡女子大学 九州東海大学	佐賀大学 九州歯科大学 熊本学園大学	九州大学 大分大学 北九州大学 九州共立大学 西南女学院短期大学
平成 9 年度 (48)	九州大学	福岡教育大学	国 公 私	九州工業大学 熊本県立大学 九州女子大学	宮崎大学 鹿児島県立短期大学 久留米工業大学	九州大学 佐賀大学 九州歯科大学 福岡大学 西南女学院短期大学

年次 (回次)	幹事館	副 幹 事 館		監 査 館	表彰委員館	編集委員館
平成10年度 (49)	九州大学	国 公 私 短	九州芸術工科大学 福岡女子大学 九州国際大学 中九州短期大学	中村学園大学	福岡教育大学 長崎大学 福岡県立大学 長崎県立女子短期大学 西日本工業大学 筑紫女学園大学	九州大学 佐賀医科大学 福岡女子大学 第一薬科大学 福岡国際大学・ 福岡女子短期大学
平成11年度 (50)	九州大学	国 公 私 短	九州工業大学 大分県立芸術文化短期大学 鹿児島経済大学 沖縄キリスト教短期大学	福岡大学	鹿児島大学 大分県立芸術文化短期大学 別府大学 中九州短期大学	九州大学 佐賀大学 長崎大学 福岡県立大学 熊本工業大学 福岡国際大学・ 福岡女子短期大学
平成12年度 (51)	九州大学	国 公 私 短	九州工業大学 大分県立芸術文化短期大学 鹿児島国際大学 沖縄キリスト教短期大学	福岡女子大学	大分大学 宮崎県立大学 宮崎国際大学 中九州短期大学	九州大学 沖縄国際大学 宮崎医科大学 北九州大学 西南女学院大学 福岡国際大学・ 福岡女子短期大学
平成13年度 (52)	九州大学	国 公 私 短	福岡教育大学 宮崎公立大学 福岡工業大学 九州大谷短期大学	福岡教育大学	宮崎医科大学 北九州市立大学 筑紫女学園大学 沖縄キリスト教短期大学	鹿児島大学 九州歯科大学 西九州大学 活水女子短期大学 九州大学 九州女子大学
平成14年度 (53)	九州大学	国 公 私 短	福岡教育大学 宮崎公立大学 福岡工業大学 九州大谷短期大学	福岡工業大学	大分医科大学 熊本県立大学 九州情報大学 九州大谷短期大学	琉球大学 福岡県立大学 鹿児島純心女子大学 活水女子短期大学 九州大学 大分大学
平成15年度 (54)	九州大学	国 公 私 短	佐賀大学 北九州市立大学 九州共立大学 筑紫女学園大学・短期大学	筑紫女学園大学・短期大学	鹿屋体育大学 宮崎県立看護大学 九州ルーテル学院大学 筑紫女学園大学・短期大学	九州工業大学 福岡女子大学 九州看護福祉大学 西南女学院大学・ 短期大学 九州大学 宮崎大学
平成16年度 (55)	九州大学	国 公 私 短	佐賀大学 北九州市立大学 九州共立大学 筑紫女学園大学・短期大学	西南学院大学	熊本大学 福岡女子大学 志學館大学 東九州女子短期大学	福岡教育大学 九州歯科大学 南九州大学・南九州短期大学 西南女学院大学・ 短期大学
平成17年度 (56)	九州大学	国 公 私 短	長崎大学 熊本県立大学 九州東海大学 鹿児島純心女子短期大学	九州産業大	琉球大学 沖縄県立看護大学 西南女学院大学 鹿児島純心女子短期大学	熊本大学 北九州市立大学 西日本工業大学 鹿児島純心女子短期大学

年次 (回次)	幹事館	副 幹 事 館		監 査 館	表彰委員館	編集委員館
平成18年度 (57)	九州大学	国 公 私 短	長 崎 大 学 熊 本 県 立 大 学 九 州 東 海 大 学 鹿 児 島 純 心 女 子 短 期 大 学	福 岡 国 際 大 学 ・ 福 岡 女 子 短 期 大 学	佐 賀 大 学 鹿 児 島 県 立 短 期 大 学 福 岡 女 学 院 大 学 九 州 栄 養 福 祉 大 学 ・ 東 筑 紫 短 期 大 学	鹿 屋 体 育 大 学 福 岡 県 立 大 学 筑 紫 女 学 園 大 学 ・ 短 期 大 学 九 州 栄 養 福 祉 大 学 ・ 東 筑 紫 短 期 大 学
平成19年度 (58)	九州大学	国 公 私 短	熊 本 大 学 宮 崎 県 立 看 護 大 学 福 岡 大 学 九 州 栄 養 福 祉 大 学 ・ 東 筑 紫 短 期 大 学	中 村 学 園 大 学	九 州 工 業 大 学 九 州 歯 科 大 学 久 留 米 工 業 大 学 九 州 栄 養 福 祉 大 学 ・ 東 筑 紫 短 期 大 学	福 岡 教 育 大 学 福 岡 女 子 大 学 九 州 女 子 大 学 ・ 短 期 大 学 九 州 栄 養 福 祉 大 学 ・ 東 筑 紫 短 期 大 学
平成20年度 (59)	九州大学	国 公 私 短	熊 本 大 学 宮 崎 県 立 看 護 大 学 福 岡 大 学 九 州 栄 養 福 祉 大 学 ・ 東 筑 紫 短 期 大 学	福 岡 教 育 大 学	宮 崎 大 学 大 分 県 立 看 護 科 学 大 学 別 府 大 学 九 州 栄 養 福 祉 大 学 ・ 東 筑 紫 短 期 大 学	長 崎 大 学 九 州 歯 科 大 学 鹿 児 島 国 際 大 学 九 州 栄 養 福 祉 大 学 ・ 東 筑 紫 短 期 大 学
平成21年度 (60)	九州大学	国 公 私 短	大 分 大 学 福 岡 県 立 大 学 九 州 産 業 大 学 九 州 大 谷 短 期 大 学	福 岡 女 子 大 学	福 岡 教 育 大 学 宮 崎 公 立 大 学 福 岡 国 際 大 学 ・ 福 岡 女 子 短 期 大 学 鹿 児 島 女 子 短 期 大 学	鹿 児 島 大 学 北 九 州 市 立 大 学 西 南 女 学 院 大 学 中 九 州 短 期 大 学
平成22年度 (61)	九州大学	国 公 私 短	大 分 大 学 福 岡 県 立 大 学 九 州 産 業 大 学 九 州 大 谷 短 期 大 学	福 岡 大 学	長 崎 大 学 福 岡 女 子 大 学 鹿 児 島 純 心 女 子 大 学 鹿 児 島 女 子 短 期 大 学	九 州 工 業 大 学 北 九 州 学 術 研 究 都 市 学 術 情 報 セ ン タ ー 活 水 女 子 大 学 九 州 栄 養 福 祉 大 学 ・ 東 筑 紫 短 期 大 学
平成23年度 (62)	九州大学	国 公 私 短	宮 崎 大 学 長 崎 県 立 大 学 熊 本 学 園 大 学 九 州 栄 養 福 祉 大 学 ・ 東 筑 紫 短 期 大 学	福 岡 工 業 大 学	鹿 児 島 大 学 大 分 県 立 芸 術 文 化 短 期 大 学 福 岡 女 学 院 大 学 九 州 栄 養 福 祉 大 学 ・ 東 筑 紫 短 期 大 学	佐 賀 大 学 福 岡 県 立 大 学 九 州 国 際 大 学 九 州 大 谷 短 期 大 学
平成24年度 (63)	九州大学	国 公 私 短	宮 崎 大 学 長 崎 県 立 大 学 熊 本 学 園 大 学 九 州 栄 養 福 祉 大 学 ・ 東 筑 紫 短 期 大 学			

九州地区大学図書館協議会総会当番館一覽

回次	年度	県別	大 学
1	25	福岡	九州大 学
2	26	熊本	熊 本 大 学
3	27	長崎	長 崎 大 学
4	28	佐賀	佐 賀 大 学
5	29	鹿児島	鹿 児 島 大 学
6	30	宮崎	宮 崎 大 学
7	31	大分	大 分 大 学
8	32	福岡	西 南 学 院 大 学
9	33	福岡	九 州 大 学
10	34	熊本	熊 本 大 学
11	35	福岡	九 州 工 業 大 学
12	36	長崎	長 崎 大 学
13	37	福岡	福 岡 大 学
14	38	佐賀	佐 賀 大 学
15	39	福岡	福 岡 教 育 大 学
16	40	宮崎	宮 崎 大 学
17	41	福岡	八 幡 大 学
18	42	鹿児島	鹿 児 島 大 学
19	43	福岡	九 州 大 学
20	44	熊本	熊 本 商 科 大 学
21	45	福岡	久 留 米 大 学
22	46	大分	大 分 大 学
23	47	福岡	北 九 州 大 学
24	48	長崎	長 崎 大 学
25	49	福岡	九 州 産 業 大 学
26	50	佐賀	佐 賀 大 学 〃 佐賀龍谷短期大学
27	51	沖縄	琉 球 大 学
28	52	福岡	九 州 大 学
29	53	大分	大 分 大 学
30	54	宮崎	宮 崎 大 学
31	55	福岡	九 州 歯 科 大 学 〃 福岡女子大学 〃 福岡県社会保険短期大学
32	56	熊本	熊 本 女 子 大 学
33	57	鹿児島	鹿 児 島 大 学 〃 鹿児島県立短期大学

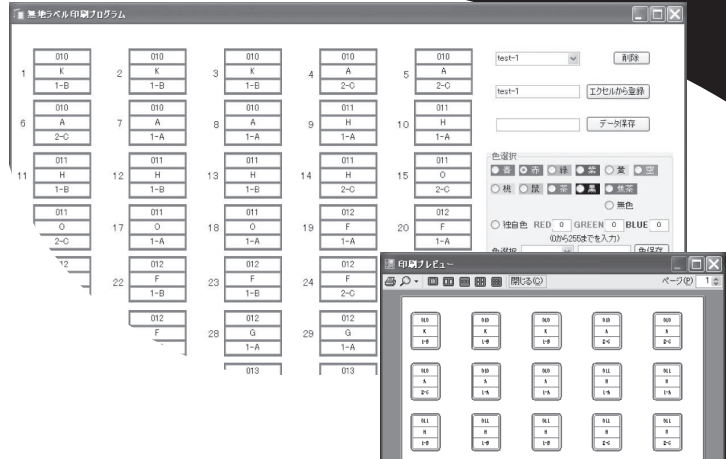
回次	年度	県別	大 学
33	57	鹿児島	鹿 児 島 経 済 大 学
34	58	福岡	西 日 本 工 業 大 学
35	59	長崎	長 崎 大 学
36	60	宮崎	宮 崎 医 科 大 学 大 分 大 分 県 立 芸 術 短 期 大 学 宮 崎 南 九 州 大 学 長 崎 純 真 女 子 短 期 大 学
37	61	福岡	九 州 芸 術 工 科 大 学
38	62	佐賀	佐 賀 医 科 大 学
39	63	沖縄	琉 球 大 学
40	平成元	福岡	北 九 州 大 学
41	2	大分	大 分 医 科 大 学
42	3	鹿児島	鹿 屋 体 育 大 学
43	4	福岡	西 南 学 院 大 学
44	5	熊本	九 州 東 海 大 学
45	6	宮崎	宮 崎 産 業 経 営 大 学
46	7	福岡	九 州 工 業 大 学
47	8	長崎	長 崎 大 学
48	9	鹿児島	鹿 児 島 経 済 大 学
49	10	福岡	福 岡 女 子 大 学
50	11	佐賀	佐 賀 大 学
51	12	沖縄	沖 縄 国 際 大 学
52	13	福岡	九 州 女 子 大 学
53	14	大分	大 分 大 学
54	15	宮崎	宮 崎 大 学
55	16	福岡	福 岡 教 育 大 学
56	17	熊本	熊 本 大 学
57	18	鹿児島	鹿 屋 体 育 大 学
58	19	福岡	九 州 大 学
59	20	長崎	長 崎 大 学
60	21	沖縄	琉 球 大 学
61	22	福岡	福 岡 県 立 大 学 〃 九州歯科大学 〃 北九州学術研究都市(学術情報センター)
62	23	佐賀	佐 賀 大 学
63	24	鹿児島	鹿 児 島 大 学

細枠三段対応

ラベル印刷用 無料ソフト



<http://www.itin.jp/download/>

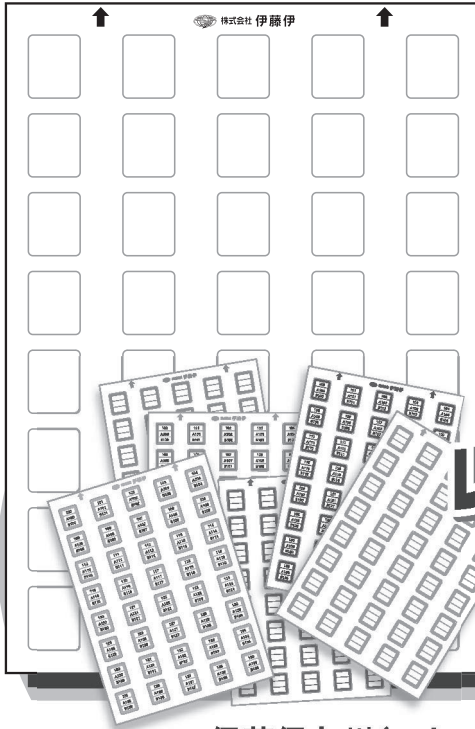


細枠三段無地ラベルに

ご利用に合わせて

- 既存10色より **枠色指定が可能!**
- **枠色を自由に作ることができます!**

<無地>



細枠三段枠入ラベルに

- **文字だけの印字ももちろん可能です!**

オリジナル
エクセル
データも
反映

レーザープリンター用ラベル

細枠三段 (枠付10色/無地)

A4
サイズ

レーザープリンター対応の便利な糊付ラベルです。
※ インクジェットプリンターでも兼用してお使いいただけます。

伊藤伊九州(Lキスト) TEL (092)863-0128 FAX (092)863-0127



図書館用品専門メーカー

株式会社 **伊藤伊**

〒113-0034 東京都文京区湯島2-4-10
TEL (03)5689-6230(代) FAX (03)5689-6232

伊藤伊

検索

<http://www.itin.jp>
E-mail info@itin.jp

図書館の地震対策を考える

地震被害から最小限に抑える、減災意識が重要です。



書架の転倒



資料の落下



書架の倒壊

金剛が考える地震対策

- ① 人の安全確保
- ② 避難経路の確保
- ③ 図書資料の保全
- ④ 復旧コストの軽減

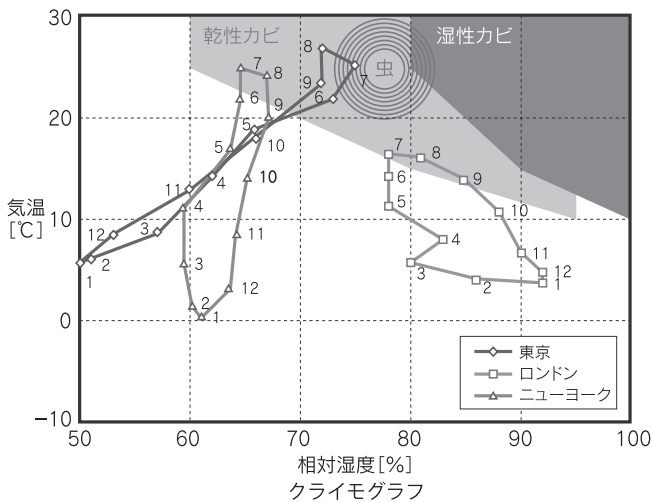
きちんと固定されていますか？
東日本大震災では、ボード壁に
留めていた書架に関して、転倒
しました。

免震書架をご存知でしょうか？
東日本大震災でも性能を発揮
し、ユーザー様より高い評価を
頂きました。

傾斜スライド棚もありますよ。
余震が重なり、せつかく配架した
図書が落下し、負担も度重なりま
した。落下を軽減する棚板セット
も販売しています。

資料保存環境を考える

カビ被害から最小限に抑える、日常管理が重要です。



四季がある日本は高温多湿の気候であり、年間を通して温度湿度が大きく変化します。5月～10月には生物的劣化の危険領域に入り、多くの図書館において、カビ被害に苦慮しています。

資料にカビが発生した場合、資料を隔離し、資料からカビを除去します。

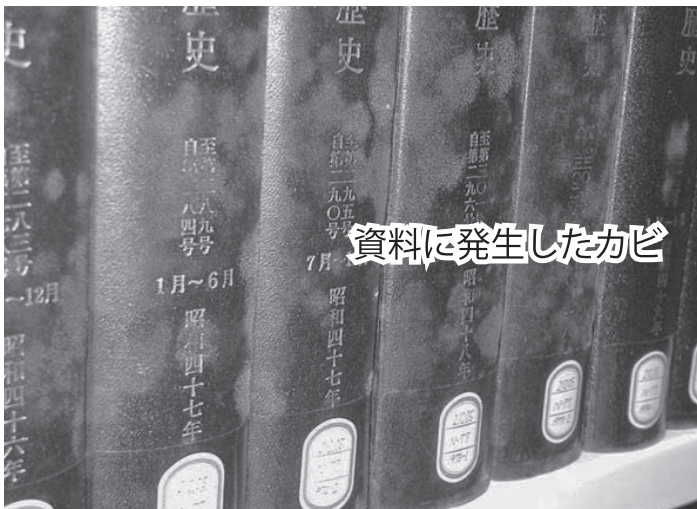
- ◎滅菌処理
- ◎除菌処理

原因を究明するために、各種調査を行います。

- ◎カビ菌調査
- ◎温湿度調査 ほか

原因が特定されると、書庫内の清掃や環境機器等による日常管理を実践します。

- ◎対処後の環境状態監視
- ◎清掃等の日常管理の実践 ほか



金剛株式会社

お問い合わせは →→→ 福岡支店 担当：伊集院 TEL 092-681-6286 (代)

PierOnline ピアオンライン

PierOnlineは国内の学術出版社が発行する医学・薬学・看護系の学術誌を電子ジャーナルとして提供するホスティングサイトです。ご利用は、提供される電子ジャーナル1誌ごとに年間ご契約が可能です。冊子体(本誌)の非購読者は論文単位でのPayPerViewご購入が可能です。

インターフェースが 新しくなりました!

NEW!



アクセスはこちらから↓

<http://www.pieronline.jp/>

価値ある33誌を収録!



- ▶ 癌と化学療法社
 - ・癌と化学療法
 - ・Liver Cancer
 - ・Biotherapy
- ▶ (株) 最新医学社
 - ・最新医学
- ▶ (株) 南江堂
 - ・外科
- ▶ (株) メディカルレビュー社
 - ・PharmaMedica
 - ・ゲノム医学
- ▶ 医歯薬出版(株)
 - ・医学のあゆみ
- ▶ ライフサイエンス出版(株)
 - ・治療学
 - ・Therapeutic Research
 - ・薬理と治療



メディカ出版全誌パッケージのお得な価格もご用意しております

現場の看護師さんの悩みにも分かりやすくお答えしています。試験対策ページも掲載していますので、スキルアップにお役立て頂けます。

▶ メディカ出版

- ・インфекションコントロール
- ・エマージェンシー・ケア
- ・オペナースィング
- ・眼科ケア
- ・呼吸器ケア
- ・サーキュレーション・アップ・トゥ・デート
- ・産業看護
- ・消化器外科ナースィング
- ・スマートナース
- ・整形外科看護
- ・透析ケア
- ・糖尿病ケア
- ・ナースィングビジネス
- ・ニュートリションケア
- ・ネオネイタルケア
- ・脳神経外科速報
- ・バスキュラー・ラボ
- ・泌尿器ケア
- ・ブレインナースィング
- ・ペリネイタルケア
- ・リハビリナース

new!

南江堂から3誌が追加されます!



ご希望の多かった「内科」、「胸部外科」、
「整形外科」の3誌が、2012年1月より
追加されます。

new!

UniBio Press各誌が掲載される予定です!

SPARC JAPAN の対象誌である Zoological Science など
UniBio Press の6誌が掲載されます。

new!

メディカ出版より「がんナースィング」が追加されます!

癌看護に携わる看護師の希望や思いに応えるために2011
年に創刊された「がんナースィング」が2012年1月より
追加されます。

配信時期は雑誌により異なります

冊子体(本誌)発行日より閲覧可能	発行日より6ヶ月後	発行日より1年後
癌と化学療法、最新医学、Liver Cancer、Biotherapy、PharmaMedica、 ゲノム医学、Therapeutic Research、薬理と治療、外科(2012年1月より)、 内科(2012年1月より)、胸部外科(2012年1月より)、整形外科(2012年1月より)	メディカ出版23誌	医学のあゆみ

「癌と化学療法」など3誌が

new!

電子ジャーナルのみでご契約できます



PierOnlineでは、通常冊子体の年間購読がご
契約の条件となっておりますが、「癌と化学
療法」「LiverCancer」と「Biotherapy」は
、冊子体のご購読は必要なく、PierOnlineで
電子ジャーナルのみのご契約が可能です。

PierOnlineの特徴

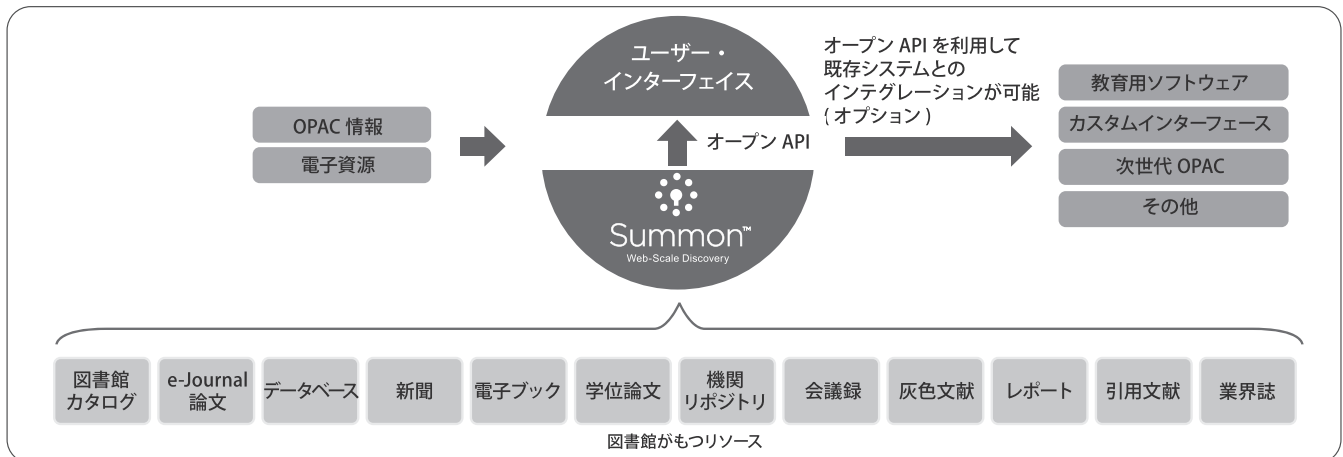


提供する各論文は、イメージスキャニングでは
ありません。テキスト PDF なので全文検索が可
能です。任意のキーワードやテーマで、雑誌の
横断検索や論文単位での検索が可能です。

まるで Google のように、 図書館がもつさまざまなリソースを検索します

Summon は統合検索や次世代 OPAC を越える全く新しい検索サービスです。グーグルのようなシンプルなインターフェイスから図書館独自の広範囲で信頼性の高い情報へすばやくアクセスすることができます。

図書館の所蔵資料や契約データベース・電子ジャーナル、機関リポジトリ、オープンアクセス誌といった図書館で利用できるすべてのリソースのメタデータをあらかじめハーベスティングさせる手法でこれまでにない検索スピードを実現しました。

**POINT 1****すべてのリソースを一度に検索**

すべてのリソースをたったひとつの検索窓から見つけることができます。現在のインターネットユーザーのニーズを満たす新しい学術情報の検索スタイルを提供します。

SIMPLE!**POINT 2****信頼のおけるコンテンツだけを検索**

検索対象はすべて図書館のコンテンツです。信頼性が高く、しかも入手可能なコンテンツにのみアクセスすることができます。

EASY!**POINT 3****瞬時に検索結果を表示**

図書館で利用できるすべてのリソースのメタデータをあらかじめハーベスティングさせるので、Google などの検索スピードを実現します。

FAST!

これまで見つけることが困難だった資料でも たった1つの検索窓から瞬時に見つられます！



図書館システムと連携して 所蔵・貸出情報を リアルタイムで表示

冊子の検索結果には現在の貸し出し状況や保管場所が表示されます。検索結果をクリックすると図書館 OPAC のライブリンクになっています。

availability: 貸出中, 中央図書館所蔵

SaaS 型サービスなので 導入・メンテナンスの 手間がかかりません

Software as a Service(SaaS) で提供されるため、サーバーの設置やアップデート、メンテナンスといった作業に人員を割く必要はありません。常に最新で最適な状態でサービスを利用することが出来ます。

目的の資料への確にナビゲートします

ファセット機能によりフォーマット、主題、出版年などによる絞り込み検索を効率的に実行できます。また、360Link などのリンクリゾルバと連携して該当の資料に確実にたどり着くことができます。

360 360 LINK

お問い合わせ先

Content Solutions Company
SUNMEDIA

株式会社サンメディア e-Port カンパニー

e-mail: e-port@sunmedia.co.jp

東京本社 〒164-0012 東京都中野区本町 3-10-3 PORT ビル
Tel: 03-3299-1575 Fax: 03-3374-1410

大阪オフィス 〒550-0003 大阪市西区京町堀 1-3-3 肥後橋パークビル 4F
Tel: 06-6444-7720 Fax: 06-6444-7730

ジュンク堂書店

淳久堂書店

外商取扱は全国の店舗でご利用いただけます！

☆福岡店では九州地区のブックハンティングを歓迎します
2011年12月地下一階に洋書売場を充実させました！
B1～4階フロア・2000坪の店舗で選書が可能です(要予約)

福岡外商 お問い合わせ先 E-mail fk-gai@junkudo.co.jp
福岡市中央区天神 1-10-13 天神 MMT ビル
電話・092-738-3405 F A X・092-738-3230

Gale社を中心とするeBook形式のレファレンス文献
約5,000タイトルをパソコン上で自在に検索・自由に閲覧

Gale Virtual Reference Library

インターフェースが変わり、より使い易くなりました
伝記・文学・歴史(世界史・アメリカ史・ヨーロッパ史・文化
史など)・社会学・宗教・ビジネス・自然科学・医学などあらゆる
分野を網羅したeBookレファレンスの決定版。選択タイトルは自由に
組み合わせ可能です。

ぜひ詳細カタログをご請求下さい。

- ◆1タイトルから購入できます。
- ◆購入タイトルを一度に検索。調査時間を大幅に短縮。
- ◆eBook形式なので設置場所不要。キャンパス内ならどこからでもアクセスOK。
- ◆検索結果はHTML文書で表示されるので、ワープロ・表形式画面に簡単に貼り付け可能。
- ◆PDF形式で書籍のレイアウトも閲覧可能。
- ◆11ヶ国語に翻訳可能。

価格・詳細は小社HP (www.yushodo.co.jp/y_gvrl) をご覧になるか、小社営業部までお問い合わせ下さい。



株式会社 雄松堂書店

Home Page: www.yushodo.co.jp

本社：〒160-0002 東京都新宿区坂町27 Tel: 03-3357-1411 Fax: 03-3356-8730 E-mail: sales@yushodo.co.jp
京都：〒604-8101 京都市中京区御池通柳馬場角 京都朝日ビルディング5F Tel: 075-222-0165 Fax: 075-256-2032

無料
ドライアル
実施中

NALISは図書館の全業務を効率的にサポートする「図書館総合システム」です。

規模や運用に応じて、柔軟かつ拡張性に優れた構成が可能です。

NALISは3つの情報（①図書館業務情報 ②利用者・教員が発信する情報 ③統合・連携による情報）を有効活用して利用者を強力にサポートします。

『利用者・教員が発信する情報』



- ▶利用者・教員の書評・感想
- ▶教員お薦めの本
- ▶機関リポジトリシステムによる
学術情報発信



『図書館業務情報』

- ▶新着情報
- ▶貸出ランキング
- ▶関連資料へのリンク

- ▶予約取寄
- ▶ドキュメントデリバリ

- ▶電子媒体資料
電子ブック
電子ジャーナル
学術情報 など
- ▶他大学所蔵
- ▶その他関連情報

『統合・連携による情報』

- ▶外部サイトリンク
Googleブック検索
WebcatPlus など
- ▶リンクリゾルバ(OpenURL)
- ▶横断検索

- 貸出ランキングや書評等を参考に資料を検索することができます。
- OPACからGoogleブック検索などの外部サイトへの連携が可能です。
また、OpenURLを使ってその他の外部サイトと連携することも可能です。
- 従来の図書・雑誌に加えて、電子出版物も管理可能です。（目録データ取込み、OPAC公開）
- ドキュメントデリバリ(DDS)・予約取寄サービスを利用することで、紙媒体の資料も電子媒体資料同様、容易に入手することができます。
- 「図書購入依頼」、「レファレンス照会」「SDI」などのサービスも提供できます。
利用者自身が必要なサービスをカスタマイズできるポータル機能も充実しております。
- 「学術機関リポジトリシステム」により学術情報資源のメタデータをデータベース化し、OAI-PMHに準拠したメタデータの交換が行えます。



九州大学基幹教育院 検索

QREC 検索

九州大学大学院芸術工学研究院 検索

九州大学大学院数理学府 検索

学校法人中村学園女子中学校 検索

Fusic Co.,Ltd.

検索



edubase 検索

matchask 検索

九州大学大学院統合新領域学府 検索

QIR 九州大学学術情報リポジトリ 検索



Fusic Co., Ltd.

WEB システム・HP 開発実績



天童木工は木を知り尽くした
職人集団です。

木を読み、
木を使い分け、
木を大事にする。

天童木工の職人たちはこの言葉を忘れることはありません。
そんな愚直とも言える職人たちがつくり上げる家具だからこそ、
信頼できる品質が生まれます。

Photo/ Jun Miyashita

www.tendo-mokko.co.jp

「軽くて丈夫」を支える世界一の成形合板
自慢できる素敵な家具づくり マイスター集団



Auto Lib.

自動化書庫・オートライブ

導入成果の確かさで ご好評をいただいています

オートライブの最大の特徴は、膨大な図書・資料を効率的に保管し合理的な検索・出納システムによって利用者が求めた情報を迅速に、的確に提供できることです。入出庫の速さとともに、図書のサイズ別フリーロケーションとダブルコンテナ格納方式の採用により高密度保管と高速出納を両立させました。

オートライブの特長

- ▶利用者へのサービスが大幅に向上します。
- ▶すべての自動化により、大幅な省力効果が得られます。
- ▶保管密度が極めて高く、大きなスペースセービング効果が得られます。
- ▶コンピュータによる蔵書点検など管理レベルが飛躍的に向上します。
- ▶蔵書データとの照合・確認を簡単に行うことができます。



よりよい保管システムを提供する



日本ファイリング

本社 / 〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台3-2(新御茶ノ水アーバンビル) 支店 / 大阪・名古屋 営業所 / 札幌・仙台・広島・福岡

資料請求・お問い合わせは ▶ <http://www.nipponfiling.co.jp> ☎ 0120-808-977 電話受付 / 月~金(土・日・祝日を除く) 9:00~17:00

FUKUOKA KAIGAI LIMITED

洋書・洋雑誌・バックナンバー輸入販売



福岡海外株式会社

福岡市中央区天神4-1-18 〒810-0001

Tel: 092-741-2685 Fax: 092-741-8418

e-mail: fkaigai@lime.ocn.ne.jp

広がります あなたの未来 政府刊行物

探したい本はここで見つかる。
政府刊行物のホームページ
<http://www.gov-book.or.jp/>

政府刊行物サービス・ステーション

天神:福岡市中央区天神 4-5-10(チサン天神 1F) 市役所:福岡市中央区天神 1-8-1(福岡市役所 B1F)
TEL(092)721-4846 TEL(092)722-4861
県庁:福岡市博多区東公園 7-7(福岡県庁 B1F)
TEL(092)641-7838

政府刊行物普及株式会社・福岡県官報販売所
福岡市中央区天神 4-5-17
TEL(092)761-1151 FAX(092)751-0385

okamura



Media Lounge

人と情報、人と人をつなぐ空間「メディアラウンジ」

現在、ICTの普及にともなって、学校や公共図書館、文化施設のメディアセンター化が進んでいます。さまざまな人に役立つ多種多様な情報が集まり、人と情報の出会いの場として発展しています。
オカムラは「メディアラウンジシリーズ」として、情報の受発信や交流をサポートするツールで、人との出会い、情報との出会いの空間を実現します。

PC検索台



テーブル&ベンチ



テーブル&チェア



よい品は結局おトクです

オカムラ

お客様サービスセンター ☎ 0120-81-9060 受付時間 9:00~17:20(土・日・祝日を除く) <http://www.okamura.co.jp/>

株式会社 岡村製作所

知的創造性を高め、感性を刺激する空間。

ライブラリーは知の集積から双方向コミュニケーションの場へ。



図書ラウンジ

ユビキタスネットワーク社会における新しいライブラリーの創造に向け、イトーキは知的好奇心や感性を刺激する先進空間づくりを総合的に提案します。

シンプルで機能的な構成で、進化する図書館ニーズにフレキシブルに対応するライブラリー家具。さまざまな空間にマッチする質の高い意匠性と拡張性で、先進の図書館をサポートします。



閲覧テーブル



書架



サービスカウンター



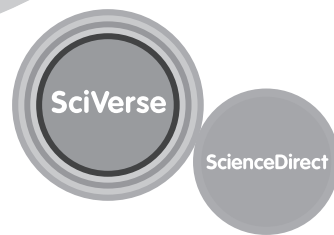
LANシート

通信の電波をシート内に封じ込め、シート上に置いたPCのみネットワーク通信が可能となる新しいLANシステム。「コネクトレス」「セキュリティ」「簡単導入」を同時に実現します。

株式会社イトーキ

福岡支店 福岡市博多区屋敷町6-17 〒812-0025 Telephone 092 281-4061
お客様相談センター ☎0120-164177 URL <http://www.itoki.jp/>

SciVerse ScienceDirect 電子ブック



ライフサイエンスなど11分野のレファレンスワーク
約100タイトルを収録。
2011年は新たに8タイトルが搭載されました。

ジャーナルとの
統合検索

ePUB形式で
ダウンロードできて
iBooksでも楽々

図表検索

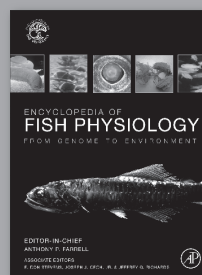
多彩なリンク



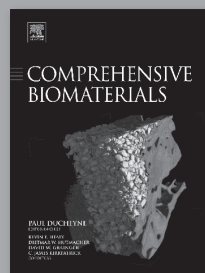
www.sciencedirect.com

レファレンスワークの他にもブックシリーズや単行本等、
多数のタイトルを取り揃えております。
詳しくは弊社ホームページで。
<http://japan.elsevier.com/products/sd/books.html>

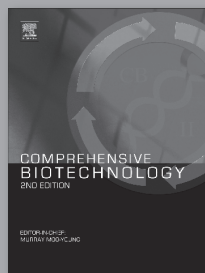
好評タイトル



Encyclopedia of Fish
Physiology
魚類生理学百科事典



Comprehensive
Biomaterials
生体材料学全書



Comprehensive
Biotechnology, 2e
生命工学全書 第2版



エルゼビア・ジャパン株式会社

サイエンス&テクノロジー・ディビジョン
106-0044 東京都港区東麻布1-9-15東麻布一丁目ビル4階
TEL: 03-5561-5034 FAX: 03-5561-0451 jpinfo@elsevier.com
<http://japan.elsevier.com/>



知を求める全ての人々に。

丸善は大学・図書館・企業など、あらゆる分野の方々へ学習情報と課題解決に向けたソリューションのご提供により、教育・研究を支援するベストパートナーを目指します。

書籍・学術資料の提供、大学キャンパス・学校施設・公共施設・図書館等各種施設のデザイン・設計・施工、図書館運営、アウトソーシング

M MARUZEN

丸善株式会社 福岡支店

〒815-0031 福岡市南区清水 2-15-11

Tel : 092-561-1831 Fax : 092-561-1854

URL <http://www.maruzen.co.jp/top/>

札幌 / 仙台 / 関東 / 名古屋 / 金沢 / 京都 / 大阪 / 神戸 / 岡山 / 広島 / 福岡

福岡県春日市天神山 6 - 6 7

樋 口 書 店

代表者 樋 口 光 照

電話・FAX 092 (571) 2827

樋口書店は代表者樋口光照が日本出版貿（株）を定年退職後に創業した書店です。現在の主なお得意先は、九州大学・福岡大学・福岡歯科大学・福岡教育大学、などです。

今後ともお引き立て頂きますようお願い申し上げます。

図書電子化時代に注目される「信頼ある情報源」のデータベース
 インターネット知識情報サイト ジャパンナレッジ <http://www.japanknowledge.com/>

JapanKnowledge

ジャパンナレッジは、辞書、事典、雑誌、叢書など、40種類以上のコンテンツに……



キーワードを入力するだけで、信頼性の高い40以上のコンテンツを一括検索！

FAQ(よくある質問) | お問い合わせ

一括検索できるコンテンツは、12のカテゴリー、そして各々のコンテンツごとに選択解除可能！

基本検索 詳細検索

OneLook: 百科事典をはじめとする知識コンテンツを一括検索できます

図書館

辞典・事典系: 「図書館」の検索結果 41件見つかりました。

- ずしよ-かん【ツショクワン】**【図書館】**(**日本国語大辞典**見出し自体)
 〔名〕「ず」は「図」の鼻音「図書館(としょかん)」の明治時代の読み方。＊改正増補和英語林集成(1886)「Zushokwan ツショクワン 図書館」＊春通屋漫筆(1891)「坪内道達」をかし・二…(続きを読む)
- としよ-かん**【図書館】**(**デジタル大辞泉**見出し自体)
 図書・記録その他の資料を集め、整理・保管して、利用者の閲覧に供するための施設。公共図書館・学校図書館・専門図書館などがある。…(続きを読む)
- としよ-かん【:クワン】**【図書館】**(**日本国語大辞典**見出し自体)
 〔名〕図書や記録などを集め、保管し、公衆に閲覧させる施設。設立主体によって公共図書館・国立図書館・専門図書館・大学図書館・学校図書館などに分類される。ずしよかん。＊落葉(1889～90)(内田魯庵)「…(続きを読む)」

OneLookコンテンツ

コンテンツ案内を見る
個別: 各個別モードにジャンプします。

百科
 日本大百科全書(ニッポニカ) 個別
 ニッポニカ・プラス
 日本語
 日本国語大辞典 個別

← 検索結果は、それぞれの本文の一部が表示され、知りたい情報が探しやすい！

国史大辞典 個別
 日本歴史地名大系 個別
 誰でも読める日本史年表 個別

調べ物に！

文献探しや、選書に！

レポート・論文、報告書作成に！

コンテンツ一覧 (ジャパンナレッジ・プラス NRK に対応。一部抜粋) ※収録コンテンツは変更されることがあります。※出版社名は省略してあります。

日本大百科全書 (ニッポニカ)	プログレッシブ和英中辞典	羅和辞典	法則の辞典
ニッポニカ・プラス	Encyclopedia of Japan	ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典	デジタル化学辞典 (第二版)
日本国語大辞典	コウビルド米語版英和辞典	情報・知識 imidas	法則の辞典
デジタル大辞泉	CAMBRIDGE 英英辞典	現代用語の基礎知識	週刊エコノミスト
字通	理化学英和辞典	日本人名大辞典	東洋文庫
数え方の辞典	医学英和辞典	JK Who's Who	新編 日本古典文学全集
誰でも読める日本史年表	ポケットプログレッシブ独和・和独辞典	亀井肇の新語探検	日本の論点
国史大辞典	ポケットプログレッシブ仏和・和仏辞典	会社四季報	Rand McNally 世界地図
日本歴史地名大系	ポケットプログレッシブ西和・和西辞典	デジタル大辞泉プラス	江戸名所図会
ランダムハウス英和大辞典	ポケットプログレッシブ伊和・和伊辞典	デジタル版 集英社世界文学大事典	マルチメディア (映像記録、大自然ビデオライブラリなど)
e-プログレッシブ英和中辞典			

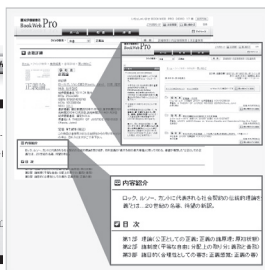
【お問い合わせ】

NetAdvance
 株式会社ネットアドバンス (小学館グループ)

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-30 昭和ビル3F E-mail: jk_b2b@netadvance.co.jp
 TEL: 03-5213-0872 FAX: 03-5213-0876 URL: <http://www.netadvance.co.jp/>

研究者・図書館・法人のお客様のためのオンラインストア

紀伊國屋書店 BookWeb Pro



公費での購入に便利です！

<https://pro.kinokuniya.co.jp>

- 公費請求書の決済に対応
- リーズナブルな価格体系・配送無料
- 学術・専門書の新刊情報も充実
- 1100万冊の書籍データベース

- 洋古書 1億件を取り扱い
- 外商営業部門による手厚いサポート
- 重複購入アラーム機能
- 入会費・年会費は不要

紀伊國屋書店 福岡営業所

〒812-0012 福岡市博多区博多駅中央街 2-1 博多バスターミナル 9F TEL (092) 437-5353 FAX (092) 437-5356

— 北欧家具の総輸入販売元 —



株式会社 ロイヤルファニチャーコレクション

本社：〒105-0001

東京都港区虎ノ門1-16-9-201

TEL 03-3593-3801 FAX 03-3593-3802

HP / www.royal-furniture.co.jp e-mail / info@royal-furniture.co.jp

大阪事務所：〒530-0005

大阪市北区中之島5-3-92-603

TEL 06-6225-0700 FAX 06-6225-0677

福岡事務所：〒810-0001

福岡市中央区天神4-5-10-1009

TEL 092-752-0103 FAX 092-752-0210

弊社は1988年以来、北欧のデザイン家具の総輸入販売元として活動しており、これ迄国内の1500箇所以上の公共物件及び教育施設、医療施設に納品しております。2007年には家庭用の家具の輸入を開始して現在に至っております。

For the wisdom into the Next.

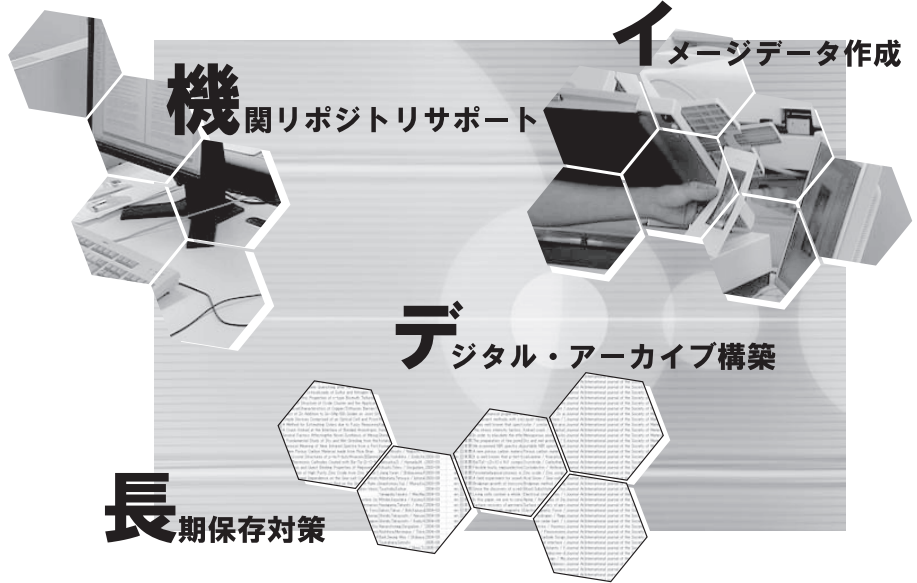
コレクション
ドキュメント
の活用のための

DIGITAL SOLUTIONS

研究・公開・利用のための、貴重資料や研究成果物などの電子化。

再利用・バックアップ・保管コスト削減のための、書類・図面などのデータ化。

共有・活用、長期保存など、大切な情報資産の有効に欠かせないデジタル化に対し、効率のよいデータ化・コンテンツづくりから、システム構築・Web公開・運用、長期保存対策まで、ワンストップでサポートします。



機 関リポジトリサポート

イ メージデータ作成

デ ジタル・アーカイブ構築

長 期保存対策



ナカバヤシ株式会社 図書館サポート営業部

URL: <http://www.nakabayashi.co.jp/>

東京本社 〒174-8602 東京都板橋区東坂下2丁目5-1

名古屋支店 〒456-0053 名古屋市熱田区一番2丁目2-6

e-mail: toshokan@nakabayashi.co.jp

大阪支社 〒536-0005 大阪市城東区中央2丁目1-23

福岡支店 〒812-0051 福岡市東区箱崎ふ頭5丁目7-11

九州地区大学図書館協議会誌 第54号

平成24年2月発行

発行 福岡市東区箱崎 6-10-1 九州大学附属図書館内
九州地区大学図書館協議会

T E L (092) 642-2324

F A X (092) 642-2330

<http://www.lib.kyushu-u.ac.jp/qkyogikai/>